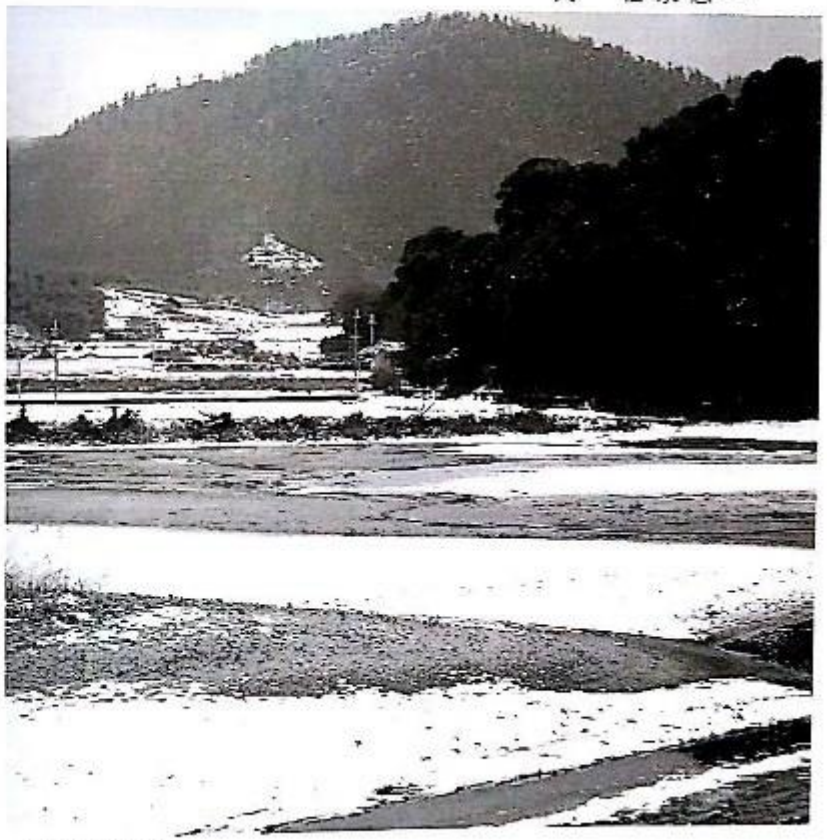
Photo essay

# 早春賦

題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永惠一



冠雪の三輪山

若草山山焼き

神秘に包まれる三輪の里
ふと恐れをさえ感じさせる
神さびた雰囲気
白い衣装を纏った神々が
天空から舞い降りてくる
常緑樹の社も　裸木の枝も
うっすらと雪におおわれ
大自然の気がみなぎる
素朴・静けさ・やすらぎ・瞑想
古代の幻想の中に誘い込まれる
金色の帯が垂直に駆け昇る
鮮やかな紅色が砕け
飛び散る黄　橙から赤へ
緑から青緑へと色彩の綾を見せて
八方に広がった光が弧を描く

雪日の若草

# 季節の実景

新春

撮影　武市通治

松

竹

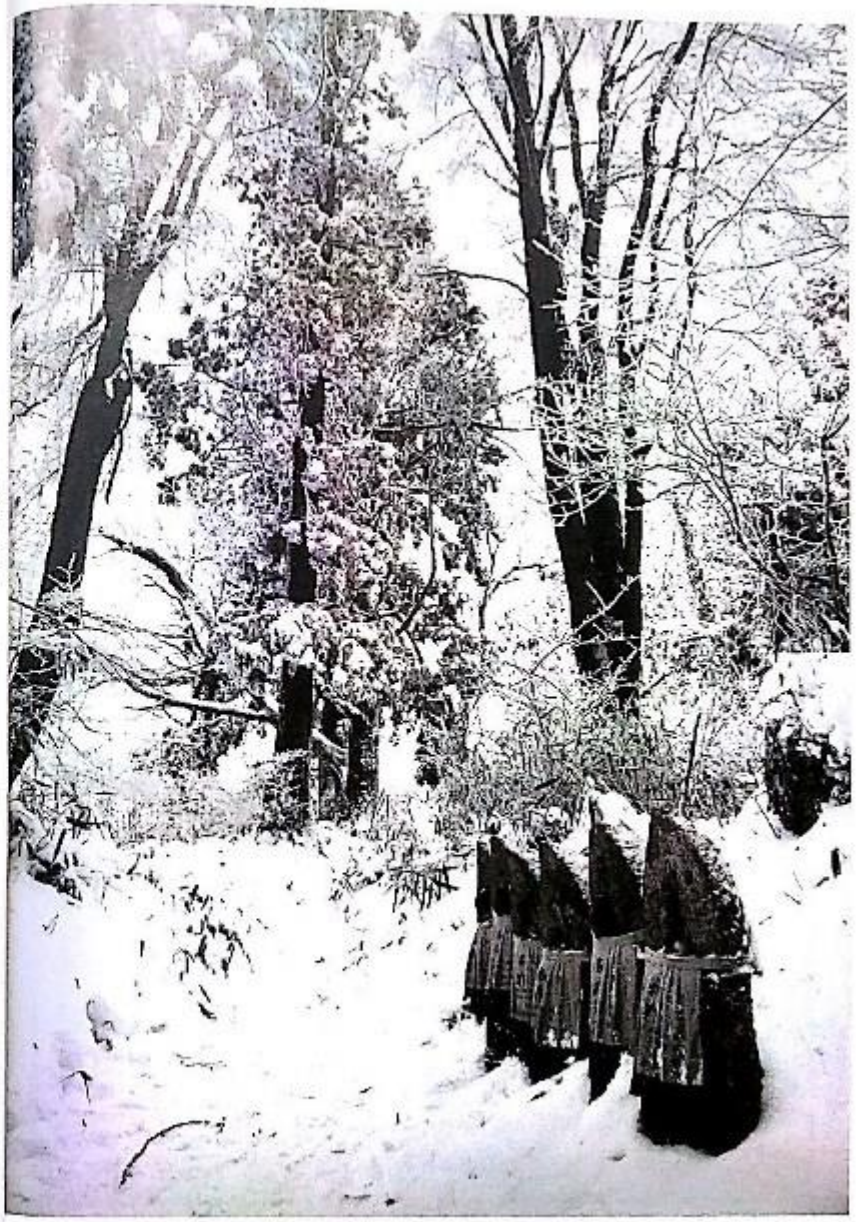
梅

凍　滝

めざめ

曲布岳西峰の霧氷　　三浦　弘幸

雪　桜（微笑仁和寺）　　森澤　元博



「そろって偵見をしています」六地蔵道（金剛山）　　奥田英一郎

新ハイキング 別冊 関西の山
'97年1・2月 新春 第32号

●目次

表紙：松田敏男「カモシカ」

●作家プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版画、山岳画の作品多数制作。（京都伊勢丹画廊、南アルプス山小屋、東京ギャラリー百号、他）京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究会会員

●グラビア
早春賦……撮影 由井収文
季節の表情（新春）……武市 通治 4
随想（山のエッセイ）
律院比叡遥拝……田中 耕一 10
よもやま話（2）―御来光―……芝野 崇明 13
加藤文太郎……田畑 三郎 12
雪山Ⅱ……吉田 信秀 19

紀行
矢筈山……松田 敏男 14
高峰山・南赤山・七滝岳……多摩 雪雄 18
連載 日本霊山紀行35 谷川岳……浅野 孝一 21
冬の伊吹山……駒見 守康 24
高千穂峰・韓国岳……田中 誠 28
中米の最高峰タフムルコと第二の高峰タカナに登る……内田 壽弘 32

エリア別研究
近江朝から登る鈴鹿の山々―御金明神について―……岩野 明 44
⑮茶屋川峡谷から銚子岳……
⑯⑰御池川林道からサンヤリ（仏供さん山）……
⑱⑲東山・キトラ山……
⑳茶屋川林道の尾根から静ヶ岳……53 50 48 46

●京都北山やぶ君き猫検山行記（29）……京都北山グループ 出口 憲次
タカノス山から峰山へ……
●近世の古道を歩く⑭ 金剛山（葛城道から千早本道）……中村 敏文 56 41
●文学歴史探訪ハイク㊸
大阪・四天王寺を訪ねて……松永 照一 60

コースガイド
1 高塚山……裏佐 次郎 一
2 三国岳とホサビ山……山形 歳之
3 生駒山系中腹道……柴田 昭彦 66 66 64

●山行メモ 山を歩くときの体操……松尾 和三郎
●野の花讃歌（19） 大菩薩へ高土丸登山……吉川 正次朗
●連載 台湾の山々・五岳三尖へ(4) 南湖大山……山形 歳之 72 40 38
山の本紹介……
淀駅ハイキングガイド……
サービスチェーン……
せせらぎ……79797759
新ハイ関西山行計画と報告……
バス時刻（比良）……
編集後記・広告案内……95 94 85

## 巻頭言

新しい年、今年もよろしくお願い申し上げます。新ハイ関西の初山行は、干支の丑にちなんで私の地元・南山城の「艮山」を計画しました。昨年は多聞牛蘭さんが紹介された紀州の「子ノ泊山」に初登山したのが良かったのか、どちらかと言えば幸せな一年間でした。発祥の「牛松山」にしようかとも考えましたが、「艮山」は丑寅と来年の十支にも関係し、御利益2年分ということでこちらを選びました。

「艮」の意は、方位（北東・鬼門）や時（午前3時～4時）を表すほか、①「うらむ・そむく」②「とどまる」③「かたい・むつかしい」などがあり、また易の六十四卦の一「艮下艮上」（止まって止まる）とあります。あまり語源は良くありませんが、「艮」に点がひとつ足らないだけなので「良い」ことに考えてみました。

みんな優しくなって「かたくて、むつかしい」人は嫌われます。またものごとも早くて「止まっている」人も少ないようです。

山登りは、一面このように「通固」で「時流れにそむく」ような面もあります。

新ハイキング関西（代表）村田 智晃



やませみクラブ

初心者のための 山歩きを楽しむ会

●ゆったりした行程、ペースです。
●基礎をもう一度学びたいという方も大歓迎!!
●お一人でも、どの回からでもご参加いただけます。

| | 期日 | テーマ | 予定コース | 費用 |
|---|---|---|---|---|
| 27回 | 12月31(火)～1月2(木)（二泊三日） | 「新春登山・現前の富士山とご来光」<br>山梨・開運山～大菩薩嶺<br>☞開運山は富士山が眼の前に広がる山として人気が高く、ご来光も楽しめます。中里介山の小説「大菩薩峠」で有名な大菩薩嶺は日本百名山の一つで、途中尾根道からの南アルプスや富士山の展望が素晴らしい。 | ＊大菩薩嶺(標高2057m)＊開運山(標高1866m)<br>(第1日)大阪☞JR塩山駅☞裂石☞三ツ峠山・開運山(山小屋泊)〔第2日〕……世の白滝☞裂石(雲峰寺)　上日川峠……富士見平(山小屋泊)〔第3日〕……大菩薩峠……大菩薩峠……上日川峠……裂石(雲峰寺)☞大阪 | 59,000円<br>(B2-B2-タ2食付き) |
| 28回 | ①1月30(木)<br>②2月2(日)<br>〔日帰り〕 | 「樹氷・霧氷ハイキング」<br>台高・三峰山<br>☞大和・伊勢の境にまたがる三峰山に樹氷・霧氷が美しいことで有名な山。八丁平と呼ばれるヒメザサに埋まる草原から山頂にかけては冬季風が強く、それが見事な樹氷・霧氷を造りだす。 | ＊三峰山(標高1235m/歩行6時間)<br>大阪☞JR室生寺☞室生寺青少年旅行村……登山口……避難小屋……八丁平……三峰山……避難小屋……宗教滝……室生寺青少年旅行村☞大阪 | ①10,000円<br>②11,000円<br>(お弁当付) |
| 29回 | 2月<br>①6(木)<br>②9(日)<br>〔日帰り〕 | 「初冬の雪山登山～くつき温泉」<br>比良・蛇谷ガ峰<br>☞比良山系最北に位置する蛇谷ガ峰は、表比良の風わいとは異なった素朴な展望の良い山。雪山登山を満喫し、山麓の湯・くつき温泉で冷えた体を暖めます。 | ＊蛇谷ガ峰(標高982m/歩行6時間)<br>大阪☞JR京都☞JR湖西……ホボテ峠……滝谷の頭……蛇谷ガ峰……ホボスキー場……くつき温泉☞JR京都☞大阪<br>(下山後、入浴の予定) | ①10,000円<br>②11,000円<br>(お弁当付) |
| 30回 | 2月<br>①19(水)<br>②23(日)<br>〔日帰り〕 | 「堅田・高野山、歴史の道を歩く」<br>高野三山<br>☞モミの原生林やうっそうと茂る杉林の中のコースで、深山幽谷のムードが漂います。摩尼山頂からの下りでは、紅ノ川・金剛寺・城山系の展望も開けます。 | ＊横峰山(標高1000m/歩行4時間)<br>大阪☞JR奥の院前……摩尼山……横峰山……私峰山……高野……奥の院前☞JR大阪<br>(下山後、入浴の予定) | ①10,000円<br>②11,000円<br>(お弁当付) |
| 特別企画 | 3月<br>15(土)～17(月)<br>〔二泊三日〕 | 「岩崎元郎先生と歩く雪上ハイキング」<br>特別講師：岩崎元郎<br>NHKテレビ講座「中高年のための登山学」や山に関する数多くの著書でおなじみ。全ての人を包み込むその暖かい人柄で、山歩きを趣味とする人々の間で絶大な人気を誇る登山講師です。<br>美ガ原・王ガ頭<br>☞美ガ原は2000m級の火山台地で、その優美さは"日本一の高原"と呼ばれるにふさわしい。初冬を通じて楽しめるが、純白の装いとなる冬季、雪上ハイキングは雪と思う存分たわむれることができる。 | ＊美ガ原・王ガ頭(標高2034m)<br>〔第1日〕大阪☞JR京都☞JR田村駅☞山本小屋……美ガ原高原ホテル(宿)<br>(雪上ハイキング)……美ガ原高原ホテル(泊)<br>〔第2日〕美ガ原高原ホテル……王ガ頭……(雪上ハイキング)……美ガ原高原ホテル(泊)<br>〔第3日〕美ガ原高原ホテル☞JR京都☞JR大阪<br>(内容の詳細についてはお問い合わせください。) | 費用：<br>お問い合わせ下さい。 |

＊引き続き、4月以降も楽しみなプランが続きます。詳細はお問い合わせください。
＊やませみクラブは、女性お一人でのご参加、中高年・初心者のご参加を特に歓迎します。

アミューストラベル株式会社
フリーダイヤル 0120-802514 FAX 06-265-3306
☎092-414-5566 ☎06-265-3303

# 律院比叡巡拝

田中　耕一

律院は大津市坂本にある美しい寺院です。住職は「比叡山千日回峰」を満行された、内海俊照大阿闍梨様です。

私は、この阿闍梨様に連れられての「一日回峰」に十年続けて参加しています。初めの三年間は、比叡山の最南端にある無動寺谷の明王堂を真夜中の午前1時に出発し、30㌔の山道を比叡山三塔（東塔・西塔・横川）を巡拝し、山麓の坂本を往復しました。

峰道の途中にある玉体杉では、京都市内の美しい夜景を見ながら箇所に向かって般若心経を唱えます。また夜が明けてくると御来光が琵琶湖に美しく映えて、感動の一瞬です。

午前9時には明王堂へ帰りつくのですが、坂本からの最後の登りはさすがにつらいものがあります。しかし阿闍梨様は「みんな私のあとについてきなさい」とおっしゃって、駆け登って行かれます。私たちも必死で追いかけて行きますが、これはもう登山と言うより修行です。到着するとすぐ入浴して汗を流し、身を清めてお勤めをします。

十年目からは「律院比叡巡拝」と名前を変え、距離も短くなってたいへん楽になりました。

それでも午前3時には律院を出発して、最初に比叡山の守護神である日吉大社に参拝し、頂上の根本中堂まで登ります。一行は約百人ほどで、持ちものは懐中電灯・タオル・数珠のみで水筒はなし、私語は禁止、道中は不動明王の御真言を唱えます。急坂では息がきれてなかなか声が出ません。1等三角点のある大比叡を通り過ぎ、山頂付近にある五か所の御大師様の廟所を巡拝し、京むしりを奉仕します。

午前9時過ぎに律院へ帰りつき、この「一日巡拝」が終わります。

私は七回目を終えたので、祝品として阿闍梨様自らが私の手にりっぱな数珠をかけてくださり、みなさんから拍手をうけました。しかし十四回目や二十一回目というすばらしい方たちもおられます。それらはすべて熟年の女性たちばかりで、信仰の力は強いものだと敬服しています。

# よもやま話（2）
## ―御来光―

芝野　泰明

太古、太陽が神であった時代も現在も、私たちは太陽から大きな恩恵をいただいている。東洋人は日の出を拝し、願いを祀

# 随想（山のエッセイ）

める。欧米人は日没に際しその日の平和への感謝の祈りをささげる。

ことに私たち山行を愉しむ者は、光輝く頂を好ましい前途と勇躍し、静かな黄昏時には一日を無事過ごさせたことに安堵し、また明日を期待する。気象庁は日没と称するが、私たちは御来光と讃える。暗闇の中で怯えていた目に、一点の明るさも見逃さない。「明」は時を逐って「暗」を駆逐し、希望に満ちた色へと移り、真紅の太陽が誕生する。鋭い剣のような光芒が天に突きささる時、宗教を超えた神秘性と荘厳さに思わず「御来光」と叫ばずにはおられない。

但馬の山、第十山の御来光は一級品だ。暗闇のなか「六根清浄」を唱えながら到達した頂上付近で、怠いながらその時を待つ。やがて厚い雲海のなかに赤い火の球が迫りあがってくる。人々は黄橙色に染まり、仏の顔になる。仏教徒ならずとも心の中で名号を唱えるのを抑えがたい。浄土を思わせる時は短く、改めて現世が生々と迫える。そして人々に緊張から解放され、めぐり会えた幸せを喜び合う。

7月末のリッフェルベルグの朝はマイナス4度で霜柱が立つ。標高2200㍍。昨夜、手が届きそうに見えた北斗七星はもう見えない。ここは東方を山脈に遮られているので、日昇を眺めることはできない。しかし、朝の陽光は間違いなくモンテローザ・リスカムあたりから射し始め、やがてマッターホルンの東面におよぶ。陽が昇るにつれて山に当たる光はずんずん下がり、20分程で中腹に達する。黒々とした北壁と黄金色に染まった東壁とのコントラストは圧巻で、アルプス随一の景観を誇っている。

4月初旬、パキスタン・フンザの里は杏の花で埋めつくされる。首都のイスラマバードから707㌔の距離にあるフンザの元国王ミールの宮殿は、カラコルムハイウェイからすこし離れた標高約2500㍍の丘の上にある。早朝4時、ジープで出発し、約3400㍍のウルタルⅡ峰から派生する尾根へ登る。さらにランプを頼りに100㍍程歩き尾根の先端に到る。暁前の里の灯りが足下に明滅する。気温マイナス10度、足元から凍ってくる寒気に足踏みで耐えること1時間ばかり。次第に白み始め、6時近く正面右のラカポシ（7788㍍）の頂上あたりから明るくなってくる。カラコルムの日輝めだ。頂上にかかる雲は左へ、そのすぐ下にあった黒雲は右へ流れ、白銀の斜面が橙色に輝き始める。光は明るさを増してすべるように下がり、横にも並がってゆく。輝きと影が秒きざみに変化する。迫うよう

に左のディラン（7266㍍）・ゴールデンピーク（7027㍍）にも朝の陽光が射しこんでくる。豪壮な暮明けはやがて後方のウルタル1峰やクイーンズピークにも訪れる。歌うようなイスラムの朝の祈禱の声が山襞に吸われるように消えていった。

中国泰山は昌島の西、泰安の北にそびえている。頂上の玉皇頂は標高1545㍍、登山口から頂上まで7412段の石段と石畳の道が延々と続き、その両側に歴代王朝の様々な碑の碑が立っている。払暁5時、頂上より700㍍東の日観峰で御来光を仰ぐことになる。中国人のほとんどは山上にある深夜映画館で時を過ごす。日観峰の東側が切れ落ちた所は、すでに御来光を待つ人々であふれている。

この山はいくつかの峰を持つが、独立峰状なので、それはまるで平野の果ての雲海を突きやぶって真っ赤な熱球がぽっかり浮かびあがってくるように見える。観衆からいっせいに「オーッ」と歓声があがる。感激の一瞬が過ぎると人々は、この熱球を掌に受けたり、様々なポーズで御来光を祝う。感動のあとはまた風一匹鳴かぬ泰然とした山に戻ってゆく。

このような好機に恵まれることもあれば、不運にして雨に見舞われ期待が空しく終わることも少なくはない。そんなときは、次の好機を待つことにしよう。

## 加藤文太郎

田畑　三郎

私は昭和十一年生まれで、昨年7月に還暦を迎えた。60歳の誕生日を山頂で迎えるのが長年の念願であったが、幸い山の好きな長女が松本市に住んでいるので、一緒に常念岳へ登ることができた。

もう一つの念願は、生まれた年をくわしく調べて年表ふうに一冊の本にまとめることであった。

まず図書館へ行って、昭和十一年の「朝日新聞」の縮刷版を取り出し、一頁目から丹念に記事を拾っていこうとしたところ、のっけから登山家・加藤文太郎の名前が出てきて驚いた。

会社員であった加藤は、毎年正月休みに北アルプスへ単独行を試みていたが、昭和十年暮れ、ぜひとも槍ヶ岳の北鎌尾根を征服したいという友人の誘いで、めずらしく二人で登ったのである。そして翌1月3日、途中で一緒になった若者二人を肩ノ小屋の残して、北鎌尾根をめざしたまま還らぬ人になった。

時に加藤は満30歳、神戸には21歳の妻と生まれたばかりの長女が残されていた。二人の遺体は4月になってから、高瀬川の

# 随想（山のエッセイ）

源流で発見されている。

これも何かの縁だと思うが、加藤の生家がある兵庫県の浜坂町は、私たちが農家と契約してアイガモ米を買っているところであり、すでに二度も訪問していた。三度目は昨年秋であったが、今度は加藤のお墓参りという目的が加わったことはいうまでもない。お墓には、四十数年後に亡くなった花子夫人の名前も刻んであった。

海岸近くの生家からすぐのところに「加藤文太郎記念図書館」ができたのは平成七年のことである。槍ヶ岳をデザインしたという建物もすばらしいが、加藤自身が撮影した山岳写真や記念品が展示してあるほか、山に関する書籍がどっさり揃えてあるのはうれしい。

これから何年一回、北アルプスに行こうと決めたのは、加藤大先輩とのこうした出会いがきっかけである。

## 雪山 II

弦　秀

### 氷河

クレバスに亡骸かくす君の声
氷河を割って響けよ山に

泣けと泣けうめけ泣けうめけ
暗やみにねる君今だ父母をよべ

すすり泣く魂に触れなぐさめる
人いつ来たる凍る大地に

安らかに眠れることを祈るのみ
夏まだ厚き氷河の君に

### 冬ざれ

早春に妻となりたる人のこし
雪にいどみて君はかえらず

命日の夜に発ちたる雪山の
凍る小途に君の言聞く

冬山は反社会的行為ねと
目を吊り上げた君を思う日

魂の消え果てるまで君のこと
忘れないよと心にちかう

（吉田　信秀）

渋くて通好みの山

# 矢筈山

松田敏男

四国

毎月、月初めに開く山の会の集会で、来月の連休は四国の矢筈山へ行こうと、時高さんが名のりでた。四国そのものが、大学生の時に阿波踊りの連をつくって二年連続で参加して以来だから、私には四国の山など遠くて霞んだ存在だった。

時高さんも私と同じく雪山が大好きである。ましてや山スキーの上手な彼が、なぜ今四国の山かと訝しく思えた。冬ともなれば、いつも以上に心は北へ東へと向かいがちなはずなのだが……。

四国は遠くて往復の運転が大変だろうと気遣うが、瀬戸大橋ができたので夜8時に京都を出発してもその日のうちに登山口へ着くときう。なんとも頼もしいことだ。

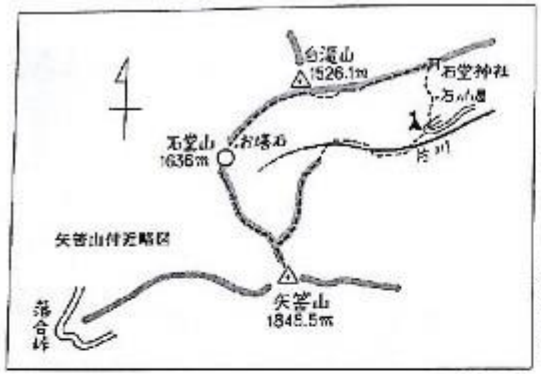
さて矢筈山だが、四国の山といえば石鎚山と剣山（けんざん）の他は、それぞれの周辺の山の名前をひとつふたつ知っているだけである。早速、ユアリアマップの「剣山」を買って探してみると、矢筈山が北方と南西隅の二か所にあった。北方の矢筈山は1848・5mと立派な標高である。たぶんこちらなのだろう。石ノ小屋から登山道が山頂を通って一周している。しかし徒渉点が分かりにくいとか、踏み跡もほとんどなく、取付口も分かりにくいなど、初めての山というより初めての山域をめざすには、いろいろ不安な材料が並んでいた。

結局メンバーは増えず、二人で行くことになった。近鉄竹田駅前を夜8時に出発して、名神高速道路に入る。名神も中国道も交通量は少なく、約1時間で福崎インターに着く。姫路までのつなぎの有料道路を走って山陽道に入る。50分間ぐらいで倉敷市に若いて児島半島を南下、瀬戸大橋が近づく。

水銀灯の強い光が文明の証しのように煌めき、フロントガラスからは見えない高さにまで垂直に構築された鉄の柱の間を行く。海の上まで来ると、水銀灯の光はさらに強く、幻想的で巨大な文明の現場を実感する。対岸には、造船中の大型船や特大クレーンの数々が白い光の中に浮かび上がっている。

石堂山から矢筈山（左）を見る






ひと気のない冬の山に行くために現代文明が造りあげた橋を渡る、この関係などとても整理がつかず、頭の中はパニック状態であった。山への愛と人間の傲慢さが潜んでいる景色なので使いたくないが、自然保護、現代文明と自然破壊、矛盾の渦に体がちぎれそうだった。

京都を出て2時間30分後にはもう四国の地にいた。貞光町で南に曲がり、一宇村に入る。一宇村にはどこにでもあるコンビニもなく、古色蒼然とした忘憩えの町並みを通る。道路に張り出した店の軒やひさしに、車が擦れてしまいそうな道だ。

そんな狭い道路の先にあった大きくて立派な道路標識には驚いた。「剣山／矢筈山」とある。矢筈山は剣山に比肩するだけのネームバリュー、そして車で山頂近くまで行ける山ではないのに、この書き方。青地に白文字のどこにでもある正式の標識なのである。

石ノ小屋という地名の所に着いたつもりだった。民家で、建物がどれだけ現存しているのか分からないので、道路の曲がり具合から登山口を探さねばならない。道路にも少し雪が積もっていたので、月光に照らされてけっこう明るい。林道の奥には白い山が暗い谷の上にそびえている。方角から考えると矢筈山方面らしい。樹林が真っ白だ。

林道のカーブした地点の広場に車を駐めてテントを張った。予定通りまだ午前6時前である。わずか4時間足らずで徳島県の山中深くにいる不思議な気持ち。缶ビールを飲んで早々に寝た。

次の朝は快晴だった。標識はないが登山道と断定した谷筋の踏み跡をたどる。すぐに雪の残った小橋を渡るが、歩きこまれた道ではない。夏草の茂る季節には不向きだろう。エアリアマップにある徒渉地点に来たが、水の少ない季節なのか、足を濡らすこともなく拍子抜けする。

谷筋から一転、尾根の急登に変わる。これは地図に記載された通り踏み跡はほとんどなく、また明瞭な尾根でもないので、現在地を断定しながら歩くことはできないが、まあ上にさえ登ればいずれは判然とした尾根になるだろうと登りつめてゆく。

やがて雪と草とがミックスされた登りやすい急斜面となる。要らないだろうと思いながら持ってきたアイゼンを付ける。ストックとアイゼンを使うことで、歩く速度も安定した。尾根がはっきりしてくると、樹木はきっちり雪をおおった姿となり、明るい白銀の世界に変わり始めていた。

まだ気温が低いせいか完全な樹氷をまとい重なり合った白い枝の下から見上げると、青空と樹氷のコントラストが心強ませるほどに美しい。

主稜線に出た。これまでの枝の密生した踏み跡道からやっと解放され、広い登山道に出たという感じだ。雪が地面を完全におおっているので、木の間隔で道と判断するばかりである。

低木が多くなり、左に剣山とジロウギュウが見え、右遠くには真っ白に光る山がいくつも重なり合っている。笹ヶ峰か瓶ヶ森だろうが、にわかには判別できない。その右手前のギザギザした稜線は東赤石山方面だろう。

矢筈山より剣山（左）とジロウギュウ

右手前方に大きな岩を頂上部に持つ格好の良い山が見える。矢筈山かと思っていたが視界が広くなると、もっと手前に大きな山が突然現れた。これが矢筈山である。先程まで思い違いしていた大岩のあるピークは後方にしりぞき、背景のある矢筈山が目の前いっぱいに迫っている。

山頂は広かった。岩の出ている所もあったが、積雪は70㌢ぐらいはあった。南方には横長で重厚感たっぷりの山、三嶂（きんれい）。北方はるか遠くに白い山が青空の中に小さく小さく浮かんでいる。大山だ、伯耆大山。その右にもっと小さくぽつんと白く見えるのは氷ノ山だろう。東のかなたには薄青い連峰が見える。たぶん大峰山脈だ。これで石鎚山が西の方の雪の山々の玉なりの中に顔を出していれば、近畿・中国・四国の城高峰全てが見えていることになる。雄大だ。

写真を撮り風の強い山頂をあとにする。尾根が回りこんでいて風を受けない緩斜面を見つけて昼食にした。真冬でも日だまりで温かい食事を作れば休は十分暖まる。時高さんも私も大満足である。レギュラーコーヒーをいつものようにたてて、白銀の枝と青空を見上げてくつろぐ。

登った尾根とのの分岐を右に見送って、広い雪の尾根をくだる。ふり返れば堂々とした矢筈山。中国の古典に通暁した硬派の文人画家の絵といった風格だ。

石堂山を過ぎてお塔石の上に出た。その大きい岩の塊と矢筈山との対比も美しかった。日差しが西に傾き始め、夕日によって雪の白さが少し赤味を帯びていたのは印象的だった。

白滝山の三角点に寄り道する余裕もなく残りの時間と歩行距離とを気にしながら、暗くなっていく樹林帯の中をくだった。単調で長いくだりだったが、その長さに矢筈山の大きさをより一層体感できた。落合峠からの往復ではこの山の長さは味わえなかっただろう。

石ノ小屋の廃屋が現れた。数軒がぽつぽつと崩れ落ちそうな姿で暗い樹林の中に眠っていた。

夜道を白光町から吉野川を渡り美馬町に入った。香川県との県境に向かって蛇行した国道を上がってゆく。目的地の三頭山のすぐそばにある三頭神社高屋下広場に着く。テントを張ってから、一宇村の万屋で買った缶ビールを飲んだ。うまかった。最高の一日だった。

矢筈山山頂付近の樹氷

朝はどんよりした鉛色の雲の間から鮮やかな朝焼けが見られた。その右方には、まだ眠りからさめやらない矢筈山方面が青く見えた。判別し難い連峰だった。

三頭山まで10分とかからない登山をしたのち、香川県の琴南町の美霧渓温泉に向かった。きのうのロングコースの疲れが大満足の証しとなって体に残っていた。

（平成8年1月13日～14日歩く）

**《コースタイム》**

石ノ小屋（4時間）矢筈山（1時間20分）石堂山（2時間20分）石ノ小屋

《地形図》昭文社＝「61四国剣山」

## 山と高原地図シリーズ

定価 各700円（税込）

1 北アルプス縦断
2 日高山
3 鹿島槍・黒部湖
4 剱・立山
5 上高地・槍・穂高
6 乗鞍高原
7 四阿山
8 中央・南アルプス縦断
9 木曽駒・空木岳
10 甲斐駒・北岳
11 塩見・赤石・聖岳
12 妙高・戸隠
13 志賀高原・草津
14 蓼科・霧ヶ峰
15 西上州・妙義
16 奥ヶ原・霧ヶ峰
17 八ヶ岳・蓼科
18 富士・富士五湖
19 箱根
20 伊豆
21 丹沢
22 高崎・陸馬
23 大菩薩連嶺
24 奥多摩
25 秩父・秩父
26 長秩父1
27 長秩父2
28 谷川岳
29 越後三山
30 尾瀬
31 日光
32 那須・塩原
33 磐梯・吾妻・安達太良
34 飯豯山
35 朝日・出羽三山
36 鳥海山
37 蔵王
38 栗駒・早池峰
39 八幡平
40 十和田湖
41 二セコ・羊蹄山
42 大雪山・十勝岳
43 日山
44 富山・伊吹・揖斐
45 雲仙岳・九重山
46 祖母山系
47 京都北山1
48 京都北山2
49 京都西山
50 北陸の山々
51 六甲・摩耶・有馬
52 高城高原・二上山
53 金剛山・岩湧山
54 紀泉高原
55 奥高野
56 大峰山脈
57 大台ヶ原・大杉谷・尾鷲山
58 京丹・鳥取高原
59 氷ノ山
60 大山・蒜山高原
61 四国剣山
62 石鎚山
63 祖母の山々
64 九重・阿蘇
65 祖母・椎
66 屋久島

※昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年改訂発行されます。ご山行の際はなるべく最新版をご使用くださいますようお願いいたします。
※昭文社の「山と高原地図」へのご質問・ご意見がございましたら、本社編集部「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。また新情報等お教えいただければ幸です。

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3262)2141(代) 〒102
支社 大阪府吹田市豊津町6-11-23 電話06(303)5721(代) 〒532
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川・名古屋・金沢・京都・広島・福岡

雪の伊勢三秘峰に倭姫の事跡を訪ねる

# 高峰山・南赤山・七洞岳

南勢

多摩雪雄

## 両宮に参詣

「お伊勢さま」というのはあちらこちらにあって、いずれも相応の故事来歴をかかげ、荘厳な神殿と神域も広大である。

倭姫は天照大神御鎮座の地を求めてこの地に至り、新宮を建ててしばらく滞在したのが大宮町滝原宮で、内宮の遷宮も二十年毎に行われ、広大な神域は四十四㌶にも及び鬱蒼たる巨杉と天然林におおわれている。すべて伊勢の小型版で、皇大神宮別宮である。

大内山村の頭之宮四方神社は地図上にも記載された学問と縁結びの社で、祭神にあまり聞いたことのない唐橋中将光盛卿となっている。神域はわりと広いが、付属施設の朔之水・福蛙・朔之石等は新しく、近年のこじつけの感がある。

## 高峰山北登路

尾鷲市役所農林課から五万分の一図と、要点を記した略図が送られてきた。「昔の国道42号線は放置してあるので中型バスの通行は困難であろうし、NHK中継所から先は背丈余の笹が密生して歩行に難渋するであろう」と。

また「尾鷲より北山村に越える北側の国道425号線の八幡トンネルを出た所まで18㌔。そこから南へ分かれる川原木屋林道4㌔は、中型バスでも十分通行可能である。終点広場から古川源流沿いの歩道を1㌔で分水嶺に出ると、東側が頂上だがハイキングコースとして整備されてはいない」という。

高峰山の山頂

平成二年11月末にSHC（新ハイキングクラブ）の西田弘平リーダー一行26名が、中型バスで旧国道を矢ノ川峠に至り、南側ルートで登頂している。その報告によると紀勢町錦から約50㌔の旧国道取付点まで2時間を要しているが、それほど車行困難であったのだと推測される。



以下この報告では、歩行して矢ノ川峠まで40分。NHKTV塔まで20分。1030㍍の前ピークまで50分。頂上まで35分。歩行計約2時間30分と休憩30分、累計3時間を要している。

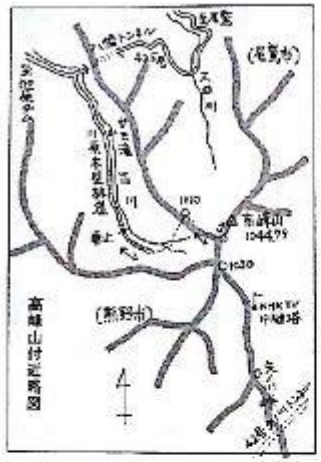
我々は尾鷲市役所から林道始点まで車行40分。以下歩行して林道終点まで1時間35分。山頂まで2時間。一行16名。

比較してみると、北側ルートのほうが車行も歩行も楽なようである。

又口川沿いの国道425号線は高度を上げるにしたがって積雪量が増え、八幡トンネルを抜けて川原木屋林道に入ると40㌢の積雪の下は氷結して、チェーンを装着しても危険なので歩くことにする。

古川左岸の小広い林道を40分歩いた後に、女王滝を見下ろす。平家に女王がいたかどうかは知らぬが、その人が隠れ棲んだ地という。なおも50分、左へ民部山への指標を見てすぐ林道終点となる。

役場の地図は左岸をつめているのだが、雪折れの倒木が多く道形も定かでないので、雪をかぶってはいるが杉林中の右岸の明瞭な道形をたどる。つめの二股の分岐で左股の左岸の細竹を払いながらピーク1010㍍右肩の稜線上に出るとポリ杭がある。B班リーダーの報告は丈余の笹を分けて狭稜を左へ、A班リーダーの秋元は右へくだると間もなく頂上へ15分の標示を見る。そこへは右手から判然とした矢ノ川ルートが来ており、一投足で達した高峰山（虎名高小屋山）1044・79㍍1等三角点標石は、頂部を赤く塗られて、雪中から首部を露出していた。岩石累々たる小広い頂上の周囲は混合林におおわれてはいるが、わずかに眺めが得られた。



△コースタイム▽文中を参照
△地形図▽2万5千＝高代山・尾鷲

## 南赤山

1等三角点峰なのに、地図上に名称記載がなく、記録も「1等三角点研究会」に菊田貞明さんが登頂記を発表しているが、16年前のことで道もなくヤブに突入して登頂している。現在は南赤山森林公園として一巡できるように整備され、広大な駐車場も下方の登山口にありそこから北東方向の眺めがよい。

私たちは上部の登山口から雪の積った水裂の防護を踏み登る。千石越からの郡界稜に合流する十字路には大民峡への降路を示す指標を見るが、60㌢の積雪のためそのルートは定かでない。

稜束わずか下方をゆっくり登り、草地の頂上に出ると巨大な丸太造りの展望台の真下に点名南赤981・98㍍の標石が見えている。周囲は疎い天然林で囲まれている。

南亦山の山頂

ブナの多い刈られた笹の広葉を深い新雪を踏んで、指導標に従って東方へゆるくくだると、小広い台地には四阿があり、ポリ水タンクも数個あってキャンプ地となっている。そのまま笹の中へ直進すれば中将岩へのルートで、北への木製の階段をくだれば下方の駐車場へ一巡できる。

《コースタイム》

上部登山口（60分）南亦山（25分）四阿（20分）下方登山口駐車場

《地形図》2万5千＝四ヶ

## 積雪を見ない七洞岳

第一日目に高峰山を登って大内山村駅前の喜和屋旅館（我々山屋には手頃で良心的な宿、料金2千円弱　TEL05987（2）2008）に泊まる。翌早朝出発し、午前中に南亦山からくだって頭之宮四方神社参拝後、ゆっくり長食をとってから滝原宮に参詣して七洞岳登山口（野原新田からのルート）の駐車場には14時30分に着いた。列車利用の場合は桐原駅にタクシーがある。

正面の小さな山ノ神に手を合わせてから杉林の中の小沢右岸の林道をわずか登って、その沢の中に建つトタン小屋で沢を渡って右手の支稜に取りつく。

杉林の中のしっかりした山道をゆっくり登って主稜に出ると、左尾子岩への道を分けて右へ登り人展望台に立つ。ここより大岩塊をよじ登り、小木混じりの落ち葉道を登って平坦になると、亜熱帯の常緑樹林のすばらしい環境の中の歩みとなる。しばし瞑想にふけりながら遅々たる歩みで苦よりかなり遅れた。最後にちょいと登った七洞岳（点名白岩峰）778・28㍍の1等三角点標石は現況のないきれいな頂に夕日をうけて長い影を草地にしろしていた。時に16時ジャスト。北西風3㍍、雲なし大快晴、気温1度。17時20分に登山口の駐車場に帰着する。

七洞岳の山頂

《コースタイム》

正面（野原新田ルート）登山口（10分）トタン小屋（1時間）展望台（15分）七洞岳（1時間10分）登山口

《地形図》2万5千＝脳出

（平成8年2月初旬歩く）



連載

# 日本霊山紀行 30

# 谷川岳

1963㍍

浅野孝一

谷川岳もかつては霊山であった。山に関する私の座右の書は『日本山岳志』である。その清水山塊の項を開いてとまどった。谷川岳という山名がないのである。

その理由は現在の地形図に表示されている谷川岳は以前、上州側では「耳二つ」と呼ばれており、谷川岳という山は湯檜曽川の支流谷川の奥にそびえる烏帽子であったからだ。

耳二つ、すなわち谷川岳には小さな祠がまつられてあるが、これは多分、水上村大字谷川上原にあった村社宇土浅間神社の奥社ではないかと推測できる。神社の由緒によると慶暦二年（1388）12月の創建にして、木花開耶姫命・大山祇命・瓊々杵尊・宇迦之御魂神・大物主神・大日霊尊・素盞之男命と多数まつられてある。これは明治末期に村内の無格社等を合祀したことによるものである。その故かこの山は谷川宇土とも呼ばれていた。

これらのことから、昭和五年（1930）8月に編集された「利根郡誌」の山岳一覧表に谷川富士六五一四尺、谷川岳六四七七尺とある意味が分かってくる。明治末に編纂された『日本山岳志』に記載のないのも以上の理由によるものと考えられる。

谷川岳が有名になったのは、昭和六年（1931）土合・土樽の間に清水トンネルが作られ、上越線が開通したからであった。今から六十五年前のことである。

天神尾根から見た谷川岳

谷川岳への近代登山は、大正九年（1920）7月2日、日本山岳会の藤島敏男と森喬の二人が、土樽の剣持政吉を連れて土樽から茂倉山、一ノ倉岳を経て谷川岳へ登り、夜遅く谷川温泉へくだっている。

この時の紀行は「山岳」昭和十六年第三号に「上越線の山旅」として発表され、山頂について「岩陰に小祠がある。亜鉛張りの小さなもので、中に青銅の土鈴を二個祀ってある。此の宮は富士浅間富士浅間大明

谷川岳付近略図

谷川岳山頂にある祠

神を祭った宮である」と記している。

「谷川富士御山再開由來」によると、安政七年（1860）庚申から翌酉七月にかけて、山頂に祠を作ったという記録がある。武田久吉の『上越國境の山名二三』には、「谷川富士の祠内には、径尺許りの青銅の圓鏡があり、その中央に大日像（即ち薩埵の本地）を鋳り、『永禄八年六月一日 武士薩埵大菩薩』と刻んであるといふから」と記しており、耳二つを「北の峯を谷川富士、南の三角點のある峯を谷川岳一名槍師ヶ岳とするのが一般の様である」とも記している。

谷川岳登山のことについて書いてみる。現在は土合から谷川岳ロープウェイに乗り天神平に着き、そこから天神尾根をたどって山頂に達する。このロープウェイができるまでは、土合から西黒沢をたどり、途中から右手の澤沢の支流を登って西黒尾根から山頂をめざした。もしくはマチガ沢出合から巌剛新道か、土合から直接西黒尾根を登った。

私が初めて谷川岳へ登ったのは、昭和十八年（1943）の夏であった。上野駅から満員に近い夜行列車に乗り、大勢の登山者に混じって西黒沢、澤沢のコースを登った。途中で沼田連隊の兵隊さん三名と一緒になった。快晴の日であった。

今回の谷川岳登山の前日は、湯檜曽温泉に泊まった。朝一番のロープウェイに乗って天神平に登り、登山をしない人たちと別れて私たち八名は山頂をめざした。熊穴沢の避難小屋までは天神尾根の右手につけられた樹林帯の大道をたどる。右手に谷川岳がよく見える。

避難小屋から前方に見える山頂をめざして、緩急交互に続く尾根道をたどる。右手に湯檜曽川対岸の朝日岳・白毛門山、その先に尾瀬方面の山々が、左手には組嶺が見えてくる。山頂直下は肩の広場と呼ばれ、遅くまで残雪があり、その先に肩の避難小屋がある。山頂はさらに笹原を登った所で、「トマの耳」（薬師岳）と言い、三角点があり、下方にマチガ沢が見える。

その先のピークは「オキの耳」、いわゆる谷川浅間であり、眼下に一の倉沢の岩壁が見える。左手に万太郎山、オキの耳から見える山稜をたどると、一ノ倉岳・茂倉岳を経て蓬峠・清水峠で、遠く巻機山から越後三山（駒ヶ岳・中ノ岳・八海山）方面の山々が見えてくる。



谷川岳付近は天候が激変することで有名である。特に肩の広場からは下山路が万太郎山・一ノ倉岳・西黒尾根・中ゴー尾根・天神尾根と多岐に分かれていて、霧の日とか雨で展望の悪い時には迷う人が多い。

私たちより少し遅れて登った人たちは、雨にはばまれ山頂に達することができず、避難小屋で登頂をはたした先行パーティと一緒になり、昼食をとって下山した。

見通しの悪い小雨の中を慎重に下山道を選んだ。少しくだると雨はやんで、午前中のような暗天になった。「魔の谷川岳」と言われる所以も山頂付近のこのような天候の激変にある。理由の二つ目は、東面に広がるマチガ沢・一ノ倉沢・幽ノ沢の岩壁での転落事故である。清水トンネル開通以来、数百人余のクライマーが命を落としている。私の山仲間も四名亡くなった。

谷川岳の東面の岩壁のことを初期に発表した人に、木暮理太郎と大島亮吉がいた。そして谷川岳の登攀史に不朽の名を残したのは、東京登歩渓流会とその著作『谷川岳』であろう。個人の著書としては杉本光作の『私の谷川岳』がある。一読をおすすめしたい山の本である。

かつての天神平一帯は天神峠とも呼ばれ、草ぼうぼうの湿地帯であった。破れ小屋のような天神小屋があって、半田という谷川岳にとりつかれた男が小屋番をしていた。現在の天神平はすっかり整備され、レストランや宿泊施設もあり、谷川岳を展望する地となっている。

冬期は一番早くスキーができるスキー場として多くのスキーヤーに親しまれている。

さて私たちは再び天神平で皆と一緒になり、湯檜曽温泉で汗を流して帰路についた。

（平成8年7月29日歩く）

スキー場のある天神平付近

《参考タイム》

天神平9・10—熊穴沢避難小屋10・00～10—肩の避難小屋12・40～13・00—熊穴沢避難小屋14・35～40—天神平15・20

《地形図》2万5千—水上・茂倉岳

KOBEの登山専門店
手作りザックの店です。
心とときめき、背負いやすいザックです。
イモックと呼んで下さい。
●ウォーキングザック26
日帰りから一泊山行に最適です。
トップとフロントのポケット。
サイドファスナーは内部の小物を取り出せ、反対側はステッキや小型の傘をセット出来る。
かつぎ易さで定評のアタックタイプです。
●カラー：ワインレッド・ブルー・ネイビー・ベージュ
●容量：26ℓ ●重量：760g
●素材：東レ・セルスパルーナイロン・防水
●価格：¥7,500
OUTDOOR SPORTS SHOP
IMOCK®
KOBE
神戸ザック
神戸市長田区大橋町9丁目3-1
郵653 TEL(078)621-5851
FAX(078)621-3528
（オリジナルザックのパンフレット（郵送）の方は、¥200切手を同封の上、お申込み下さい。）

## 広大な雪の斜面を登る

# 冬の伊吹山

**湖北**

鷲見守康

北に白山、御岳と乗鞍山、西に伊吹山。美濃地方のちょっとした高台や開けた場所からなら、容易に遠望できる全国区の山である。その中でも伊吹山は、私にとって出勤途中の電車からその姿を眺めることのできるもっとも身近な山だ。

伊吹山には、もう何回登っただろうか。伊吹山は好きな山の一つで、数えてみれば九回にもなるようである。

三合目の高原から仰ぎ見る伊吹の姿は、実に堂々たる風格に満ちている。そして、標高1377㍍の低山にしては、驚くばかりのお花畑が広がり、そのお花畑には、個有種、西南暖種、日本海型の植物のほか、高山性の花々を有するなど、きわめて特異な存在の山と言える。唯一の欠点と言えば、山頂付近までドライブウェイがのびていることだろうか。

ロープウェイやドライブウェイなどで観光地化された山にとって不幸なのは、山への憧れも持たず、心の支度のないまま足を踏み入れてしまう人がいるということだろう。それがどんな結果を招くかは、伊吹山の山頂を見ればわかると、いつも考えてきた。

昔、大学生の頃、先輩たちが山の開発について議論していた光景を今も鮮明に記憶している。

身体に障害を持っている人にも自然のすばらしさが味わえるようになるのだから、最小限の開発は許されるのではないか、という主張に対し、開発はやがて必ず山の荒廃につながる、という意見の対立であった。若いが故の、妥協を許さない激しい議論は数時間にも及び、当時の私は、そこまでとことん議論できる先輩たちの生真面目さを、ただ眺めていただけであった。

そして、卒業して障害福祉の仕事に従事するようになったある日、障害者運動に身を投じている人で、自分自身重度障害を持つ女性・Yさんとの語らいが自然保護の話へと発展したおりに、私がそのことを話題にして彼女の意見を求めると、「だれでも山へ登れるわけでもないし、登るわけでもないのだから、その世界に私たちが見ることのできないものがあっても仕方がありません」とYさんはきっぱりとした口調で言った。山への情熱もない人まで連れて行くために自然を壊すことはない、情熱があればロープウェイやドライブウェイなど必要ないことだと思う、とも……。

伊吹山は、冬のよく晴れ渡った日には雪の頂きを鮮やかに白く輝かせ、霞の濃い日には山容をほのかにピンクに染めて中空にぼうっと浮かんでいる。見慣れた山にもかかわらず、時としてその姿はハッとするほど神々しい。

雪の伊吹に登りたい……ずっとそう念じていたが、一昨年の2月24日の金曜日、休暇をとって実現した。

安全に、できるだけ短時間に登ろうとすれば、ゴンドラを利用しスキー場内を歩くとよいのだが、休日の大勢のスキー客の中で行動することに多少の心理的抵抗があったので、平日を選択した。

平日午前10時前のゴンドラ乗り場駐車場は、スキー客もまだまばらであった。

駐車場を管理していた地元のお婆さんが笑顔で話しかけてきたので、「この時期にも伊吹に登る人は多いですか」とたずねると、きのう五人のパーティが来たと言い、また、一人で登る女性もいたので驚いたと言う。

知名度の低い他の美濃の山とは違い、無雪期の伊吹山なら単独行の女性も見かけるが、積雪期ではやはり珍しいようだ。

二週間ほど前、御在所岳を歩いたとき、国見峠からの登道で、単独行の女性ふたりに出会った。一人は確実に60歳を超えている。

三合目から見た雪の伊吹山

## 山と自然の本

関西 山城の古道山岳(下) 中庄谷 直 2000円
京都丹後の山(上)(下) 内田 嘉弘 2000・2060円
兵庫丹波の山(上)(下) 慶佐次盛一 各2000円
近畿の山 日帰り沢登り 中庄谷直・吉岡章 2000円
京都 北山百山 北山クラブ 3914円
京都 北山を歩く①～③ 澤 潔 各1900円
京都滋賀南部の山 内田 嘉弘 2000円
近江 湖北の山 山本 武人 2060円
近江 朽木の山 山本 武人 2000円
琵琶湖周辺の山 長宗 清司 2200円

鈴鹿の山と谷①～⑥ 西尾 寿一 3200・1300円
美濃の山① 大垣山岳協会 2266円
奥美濃 ヤブ山登山のすすめ 高木 泰夫 2000円
飛騨の山(ヤブ山登山(国境)) 酒井 昭市 2500・2800円
福井の山 増永 進男 3000円
鈴の峰(鈴の山(でいのはシリーズ)) 増永 迪男 各2000円
山城三十山 日本山岳会京都支部 1900円
初芝山 金西経司初芝山岳会作集 斉藤清明編 2800円
初芝風 花嫁の峰から天帝の峰へ 平井 一正 2900円
京都府の三角点峰 福田 和雄 2900円

ナカニシヤ出版
京都市左京区吉田二本松町2
☎京都 075-751-1211 〒606

ると思われた。12本爪のアイゼンを装着し、山スキー・ストックという装備で、荒い息遣いを重ねながら額に汗を浮かべモクモクと登ってきた。このしばらく後に、今度は髪を赤くした20歳前後の若い女性とすれ違った。アイゼンにピッケルという装備で、どことなく軽やかに去っていった。

私は単独行の登山者に話しかけられるとたいてい機嫌よく応じ、また、こちらから話しかけることもある。それは、一人でも歩きたいという山好きな人たちの、「山への想い」を聞けることが多いからである。人それぞれの「山」、その想いの中に、頬を撫でる春風のようなさわやかさを、しばしば感じとることができる。

ただ、単独行のとき、同じく単独行の女性に話しかけたことはない。もちろん、話しかけられたこともないのだが、60歳を超えた女性の単独行者などに出会ったりすると、その人にとっての「山」とは何であり、その想いの深さはどれほどのものだろうと、とても興味がある。

「きのうと違って、きょうは風も強くて寒いけど、そのかわり雪崩は起きないで、ええがね」

駐車場のお婆さんは、ニコニコしながらドキッとするようなことを言う。

三合目の伊吹薬草原ホテルまでゴンドラを利用。三合目から五合目まではスキー客を横目に、「スキーをやめてからもう何年になるだろう」、などと考えながら進む。自然というものに関心を抱き、山を歩き始めて、ゲレンデスキーからいつしか心が離れてしまった。スキー場建設のための山の「開発」に違和感を持つようになったからだろうか。

私は子どもの頃からこだわりやすく、ゴルフ場の「開発」にも拒否反応を起こしていた。私の父は無類のゴルフ好きで、息子と一緒にプレーできることを心ひそかに期待していたようなのだが、そんな父親の期待を完全に裏切った。こだわりを持ち続けることは、概して世の中で生きにくくなるばかりなのだが、こんな人間に育ってしまったのだから、もはやどうしようもない気がする。

スキー場は五合目まで、そこから先は本格的な雪山の世界となった。場所によっては1m以上を超す積雪のようで、夏道は跡形もない。灌木類も雪の下に閉じ込められて、山頂に到る景観は広大な雪の絨毯だけだ。

先日の御在所岳のような踏み固められたトレースはない。昨日の登山者の足跡が雪原に点々と残されているだけであった。雪はもう締まっているので、どこを歩いてもそれほどラッセルに苦しめられることはなさそうだが、それでも一度膝のあたりまで踏み抜いてしまうなど、けっこう体力を消耗し、「登れるかな……」と不安が胸をかすめた。

夏道はジグザグに登っているのでそれほど感じなかったが、広大な雪の斜面を直登するとかなりの急傾斜だ。雪の状態もサラサラとした雪ばかりではなく、中にはアイスバーン状の所もあり、アイゼンを装着したほうが楽だったのだろうが、八合目の避難小屋まではキックステップで登り続けた。

雲が多いものの晴れ間もあり、雪原に陽が注ぐとまばゆいばかりに輝く。その輝きを眺めながら、「しまった!」と心の中で叫んでいた。サングラスを忘れてきたのだ。若い頃、スキーで雪目となり数日間苦しんだことがある。雪目にならないように、雪面に瞳が当たると毒目で前方を見るようにした。

八合目の避難小屋でティーブレークして、アイゼンを着けた。いつの間にか、若い男性が追いついてきた。名古屋からだそうで、アイゼンを着け、ザックにはワカンも持ち、本格的な冬山装備である。

八合目からの直登は一歩間違えば滑落を招きかねない雪の壁だ。アイゼンの爪爪を効かせて一歩一歩慎重に足を運んだ。

夏にはお花畑となる頂上部に、今、人影は全くない。強風で雪煙が吹き上げ、耳が痛く目もまともには開けていられないほどだ。この雪煙に消されたのか、足跡も一つとして見当たらない。山頂にある五軒の山荘は、いずれも屋根まで雪を被っていた。

山頂から、北に広がる厳冬の美濃の山々、南には頂上部を真っ白にした霊仙山、その背後に御池岳、藤原岳、そして養老の山々を望んだ。先日の御在所岳からは、最北の霊仙山から南部の鎌ヶ岳まで見え、鈴鹿の雪溶がきりりとして美しく、改めて自然の奥深い荘厳さを味わったような気がした。

強風による雪煙でゆっくり休憩もできず、早々に下山開始。南の山腹に入ると風もやんだ。眼下にひろがる雪の大斜面を見つめながら、山頂に登り、そこから滑降する山スキーはきっと充実感があるだろうと思った。山スキーができないかわりに、雪面に新しい足跡をつけ、ひとり颯爽とくだった。

（平成7年2月24日歩く）

冬の伊吹山山頂付近

△コースタイム▽

ゴンドラリフト乗り場駐車場（ゴンドラ6分）三合目（25分）五合目（1時間10分）八合目（30分）山頂（15分）八合目（30分）五合目（20分）三合目（ゴンドラ6分）ゴンドラリフト乗り場駐車場

△地形図▽昭文社＝「44霊仙・伊吹・藤原」

△費用▽

ゴンドラリフト乗り場駐車場料金　1000円

ゴンドラリフト片道　1000円・往復1800円


風を通さないフリース

従来のフリースに防風性をプラス

（モンベル・ゴアウィンドストップ、ロウ・アリューシャン）

コウの新素材、ドライフロー・パワーストレッチ・トリプルポイント大好評

CAMP・HIKE・CLIMB

TOMY WALK

営業時間　12:00〜20:00

定休日　月・火曜

次田市内本町1-23-7

TEL 06-319-0597

霧島連峰に「天の逆鉾」を訪ねる

# 高千穂峰・韓国岳

田中　誠

九州

宮崎空港からえびの高原行き11時20分発のバスで霧島連峰に向かう。今回は天孫降臨の地高千穂峰に登り「天の逆鉾」にお詣りし韓国岳へと縦走するのが目的である。バスが小林市の市街地を通り過ぎるころから霧島連峰の勇姿が見え始めてきた。左手前方に高千穂峰、連なる右手に韓国岳がどっしりとそびえている。

バスの運転手に教えられた通り、林田温泉でタクシーに乗り換えて高千穂河原まで行くことにした。タクシーの運転手の話によれば今年は登山客も温泉客も例年ほどでなく、約半分程度とのこと。〝0－157〟や景気の低迷感に観光客が躊躇しているのだろうかと心配顔であった。

しばらく走っていると運転手が指差す山の中腹に、赤くむき出しになっている山肌が見えてきた。

高千穂河原でタクシーを降り、頂上を見上げる。ここからも見えるという高千穂の天の逆鉾は、曇っていて見ることができなかった。鳥居をくぐると霧島神宮の古宮跡手前に頂上への標識があり、そこから登り始める。14時40分。

石畳の遊歩道を通りアカマツ林を抜け、タクシーの中から見えていた赤土のガレ場へ向かう。途中雑木の中で何かごそごそする。ふと目を向ければ、鹿が三頭こちらを窺っている。

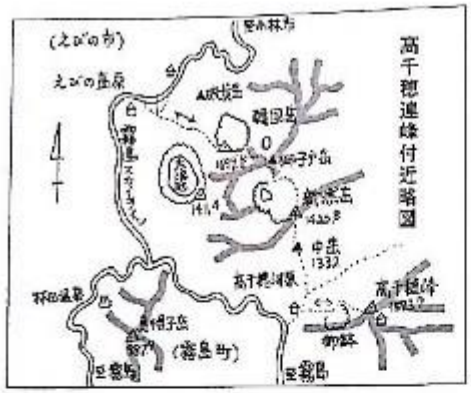
15分ほど歩くとガレ場の下にたどり着いた。遠くからはゆるやかな登りに見えていたが、近くで見上げれば切り立っているようである。おまけに砂利と浮き石が混在している。よく踏まれている左側北端のコースから登り始める。想像していたより多くの赤い火山礫と小石が混じるゴロゴロ石の登りがつづく。まるで富士山の砂走りのようである。左端を登っていたが足元がおぼつかなくなり何度もずるずると滑りかける。右を見れば所どころに尖った岩がとび出ている。そちらのほうがまだましだと思いコースを右側の方（真ん中）にすこし移動する。

天の逆鉾



ようやく火山礫のガレ場を登りきり大岩の所で小休止したが、いざ出発しようとしたとき強い風にのってガスが湧いてきた。先ほどまでよく見えていた御鉢の火口壁や馬の背登山道も強い風が吹いてくるたびに、濃薄のガスで見え隠れする。

後ろから追いついてきた地元の登山者がしばしの間道案内をしてくれたが、先を急ぐのでとガスの中に消えていった。ところが彼は10分も経たぬうちにガスの中から突然引き返してきた。聞けば、私らも三人パーティとすれ違ったが、彼らに濃いガスで道が分からなくなったと聞いて引き返してきたそうだ。




さあ、ここで困った。地元の人が引き返すほどである。なにせこちらは始めてのコース。道も分からず濃いガスの中いったいどうしたものであろうか。携帯電話を取り出して山小屋の連絡所にコンタクトする。「道は一本だ。いくら濃いガスの中でもじっくり見ればよく踏まれている所が分かるはずである。慌てずに順次そこを登って行けば間違いなく頂上にたどり着く」と言われた。

言われたとおり背門丘の機銃の所から左の「古宮址」にコースをとり鞍部をぬけ右へのコースを登る。常に強風にさらされているのだろうか、思ったより低いミヤマキリシマの群生地をさけ、足元に気をつけながら黙々と急坂を登る。約50分登ったところ、濃いガスの中にうっすらと天の逆鉾が見え始めた。揺れる日の丸の横に寡黙に屹立する天の逆鉾は、神話の世界が突然目の前に現れたようで非常に神秘的であった。

天の逆鉾の前にある山小屋の扉を開け、「こんにちは」と挨拶する。小屋に入りまずはほっとする。家内はジュース、私は缶ビールをわけてもらい、ようやくひと息つく。聞けば今夜の泊まり客は私ら二人だけとのこと。

山小屋のご主人、石磨氏から、この山は新婚旅行とおぼしきことの始まりの地であるとの話を聞いた。第一号は、あの明治維新の怪物坂本龍馬。彼は奥さんといえるかどうかは知らぬが「おりょうさん」を連れてこの山へ来たとか。そのとき高知の姉の乙女さん宛に書いた龍馬直筆の手紙、及び高千穂峰に登ったおりの山の概念図と説明書（その手紙のコピーをご主人から頂戴した）、今でいう登山の紀行文みたいなものだが、その書きものによれば最初の登りを「此間ハ山坂遠石斗男子でものぼれバはきものじなることたとへなしやけ土さらさらすこしなきそうになる五丁ものぼれバはきものがきれる」とある。御鉢を通り「此穴ハ火山のあとなり渡り三町斗アリすり鉢の如く下お見るニおそろしきよふなり」。高知弁とカタカナが交じり理解しがたい幕末時代の登山の話なのでそのまま引用する。さきほど通った馬の背を「此の間彼ノ馬のせこへなりなるほど左右目のをよバぬほど下が

かすんでおるあまりあぶなく手おひき行く」とおりょうさんの手をひき天の逆鉾に至れば、「此間ハ大きニ心やすくすべりてもおちる所なし」とある。ついでに「此のサカホコハ少シうごかして見たれバムあまりにも両方へはなが高く候まゝ両人が両方よりはなおさへてエイヤと引ぬき候時ハわずか四五尺寸のものニて候間又〻本の通りおさめたり」とあり天の逆鉾は「あらがねにてこしらへたものなり」とあった。竜馬はその天の逆鉾を引き抜きまたさし直したとのこと。徳川二〇〇年安寧の時代に終止符をうち世の中を新しく立て直すつもりの決意表明でもあったのか、江戸幕府を根本から引き抜き倒し明治の夜明けを自分の力で開げる心意気であったのだろうか。翌朝くだっていったガレ場の横は「此所にきり島ツツジヲビタダシクアル」とあった。

20年位前NHKテレビで放映された大河ドラマ「竜馬が行く」では、北大路欣也と浅丘ルリコ嬢（当時）、及び撮影隊の一行がおとずれ、かくのごときシーンをそのまま表現しようと模倣の逆鉾を作り、逆鉾のすぐ横に立てて撮影したそうである。

『古事記』によれば伊邪那岐命・伊邪那美命の両神が別天津神五柱の神々から「漂える国」の修理固成を命じられ天の浮橋に立ち、天の沼矛（ぬぼこ）を用いて大八島国他六島をお生みになられたとある。

ご主人がさらに言うには、昔は「天の賢鉾」と書き、今の逆鉾の字とは大いに違っていたとのことであった。また、昔の逆鉾は剣先が地に刺さっていた。今の逆鉾はいつの頃からか分からないが天に向かって三ツ叉で立っている。そう言われて先ほど拝み見た逆鉾を思いだしうなづく。

翌朝、明けても相変わらずの濃いガスが峰を包んでいる。天の逆鉾にお詣りし記念の写真を撮った。わずかながら御来光が現れ、ガスの中にゆらゆらとゆれるやや赤みがかった御来光も写真に撮った。

6時10分、朝食後峰守一家にお礼をのべ、小屋をあとにする。濃いガスの中、登ってきた道を引き返そうとしたが、これまで火口壁で遭難騒ぎが何度もあったとご主人に言われ、別の道をくだることにした。ところがこれがなかなかの難路である。濃いガスでも目を凝らしてよく見れば所々の岩にペンキ印がしてある。ゆっくりくだるつもりでもかなりの急降道である。火山灰特有の荒い砂、滑るガレ場と急な岩場。つかむところもなく慎重になる。ほどなくくだるとガスもようやく薄くなった。岩場の向こうに何やら気配がする。目を凝らしよく見れば鹿が二頭こちらを窺っている。きのう登りで出会った鹿かどうかは分からないが大変幸運だと思い写真におさめた。

ようやく背門丘分岐点にさしかかる。後ろをふり返れば徐々にではあるがあれほどの濃いガスがようやく切れ始め、高千穂峰頂上がうっすらと見えてきた。目を凝らして見上げれば恐ろしい程の急なくだりであった。

御鉢まで戻るとようやく鹿児島湾が見えるようになった。煙を上げる桜島、その後方に小さくぽつんと見えているのは昨年登った開聞岳。小屋の主人が天気がよければ天草の普賢岳まで見えると言われた。

高千穂河原に7時50分着。顔を洗い用を済ませるとすでに8時30分。登山案内書によれば獅子戸岳・新燃岳を通り韓国岳を経てえびの高原バス乗り場まで約6時間を要するとある。家内のペースを考えると実たしてその時間内で行けるかどうかは分からない。宮崎行きの最終バスはえびの高原発14時27分。間に合うかどうかぎりぎり、せき立てられて転んで、万一足をくじかれるよりはと、無難なほうを選択する。林田温



泉宿駐のタクシーを呼び、えびの高原韓国岳登山口に向かう。

9時32分、登山口より登りだす。ここは硫黄山の麓、名のごとく硫黄の臭いが強く立ちこめ、立入禁止の立て札もあちらこちらにある。見上げれば岩峰らしき頂上が左右に分かれて見えている。右側が標高1700m、韓国まで見えるという韓国岳頂上。霧ノ河原の横を通りゆっくり登る。ここから頂上まで約1時間と予測する。

韓国岳七合目よりえびの高原を展望する

ゆっくりゆっくりと登り、時々後ろをふり返れば赤い屋根がよく似合うえびの高原駐車場。朝まだ早いのか登る人も少ない。二、三の人のあとさきになりながら頂上をめざす。またもやガスの洗礼を受け始めた。先ほどまで皆々とよく見えていた大浪池も何も見えなくなってきた。

10時32分、五合目。ガスが昨日と同じく益々濃くなる。しかしここは一本道、迷うことなく頂上に向かう。ほとんどハイキング道、予定通り1時間余で三角点にたどり着いた。11時02分。

しばし休憩をするうちに大勢の人が登ってきた。中には赤ちゃんを背負った人もあり、またズック靴で気楽に登ってくる。このコースは山登りというよりファミリーハイキングそのものである。

南前方の鹿児島平野、東南方の宮崎平野の展望は、登った距離を忘れさせてくれるほどすばらしい景色であった。惜しむらくは、時おり流れていく濃いガス。

いつものことながらアマチュア無線ハンディ機を取り出し、CQコールを発信する。短時間ではあるが見知らぬ人とおしゃべりができた。これも山登りの楽しみの一つである。

帰路、新しく建て替えられた「えびの高原国民宿舎」に立ち寄り温泉に入る。まことに眺めのすばらしい温泉であった。

山小屋の主人に聞いたところによれば、霧島連峰縦走は、関西からだとまず鹿児島空港に降り、バスで霧島温泉に行き、えびの高原までタクシーに乗り、硫黄山横の登山口から韓国岳に登り南に向かって縦走するのが時間的にみてよいそうだ。

ミヤマキリシマを見るには6月中旬の新燃岳が、えびの高原の海老色のススキは10月頃が一番の見頃だと言われた。

今度行く機会があれば、6月にキリシマツツジを見ながらゆっくりと霧島連峰を縦走したいものである。

（平成8年7月27日歩く）

◇コースタイム◇

高千穂河原（1時間30分）高千穂峰

えびの高原（1時間30分）韓国岳

〈地形図〉

2万5千＝高千穂峰・韓国岳

5万＝霧島山

グアテマラの山旅

# 中米の最高峰タフムルコ（4220㍍）と第二の高峰タカナ（4093㍍）に登る

内田嘉弘

## グアテマラへ

飛行機がサンフランシスコに近づくと、左側に雪におおわれたシャスタ山（4317㍍）が雲海に浮かんでいた。サンフランシスコでベイブリッジを見学し、フィッシャーマンズ・ワーフを散策後、ロスアンジェルス経由で6月8日早朝、グアテマラ市のラ・アウロラ空港に降り立った。マヤ・エキスペディションズのジェームズ氏（35歳）等の出迎えを受け、彼等の事務所でトヨタ・ハイエースに乗り込んでサンマルコスへ向かう。

首都グアテマラは人口約一三〇万人、中米最大の都市である。ちょうど朝の通勤ラッシュで、街の中心へ向かう道路は車の渋滞になっていた。アクワ山（3766㍍）など三千㍍級の山々に囲まれた標高約1500㍍の高原都市グアテマラは、Tシャツだけでは少し寒い。街角の商店の前に銃を持った人がいる。ポリスではなくガードマンだという。食料を買い求めに入ったガソリンスタンドのコンビニエンスストアにも、銃を持ったガードマンがいた。ケツァルテナンゴで現地貨幣に交換するために銀行に立ち寄ると、ここにも入り口に一人、内部に三人とやはり銃を構えたガードマンが警備していた。レートは1ドル＝5・97ケツァル（Quezal、Qと表記）であった。

3670㍍の峠を越え、270㌔を走ってサンマルコスのホテル・ペレスに入った。夕方遅くからの雨は、夜半まで降り続いていたが、9日朝にはやんでいた。「雨季は5月から10月まで、雨は午後から降りだす場合が多く、また山岳地帯は路面状態が悪く通行不能になることもある」とガイドブックには書いてある。

9日、7時にホテルを出発。街はずれでパトカーに停められ、チェックを受ける。道路は未舗装で日本の林道のガタガタ道を行くようだ。山の斜面には畑が千枚田のように山頂に向かってのびている。植えてあるのはほとんどトウモロコシとじゃがいもであった。ラスブリシャス（3287㍍）のタフムルコへの登山口で少し休憩して、3000㍍の尾根上のスカイラインを走る。スカイラインと言えば、快適なよいドライブのように聞こえるが、未舗装のデコボコ道で、そのうえ、車の屋根には荷物を積み上げ、車内にも荷物があり座席は窮屈いっぱい、積載量がオーバー気味であまりスピードは出せない。また、今は雨季で道路はぬかるんでいる箇所があり、それにタイヤをとられたりして皆で押し出しながら進むので時間がかかる。これから登ろうとする三角形のタカナが見えだしたが、タフムルコは雲の中だった。被緑の広い台地には羊が群れていてここはモンゴルかと錯覚してしまう。やがて道はくだりだし、三人のアメリカ人登山者がこちらに向かって登ってくるのに出会う。挨拶を交わすと、

「昨日タカナへ登ろうとしたが、雨が激しくて登れなかった。早朝2時発のバスに乗りそこなったから、次の街まで歩いている……」と言う。さぞかし心残りであろう。私たちのアタック時には雨が降らないようにと祈りたい。

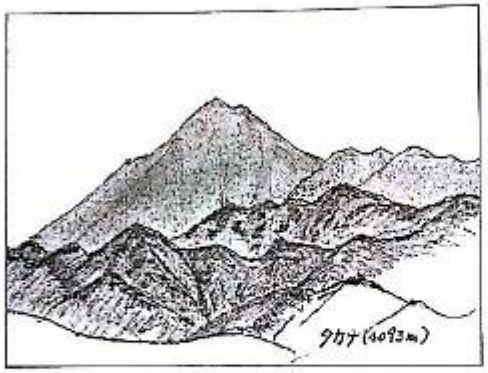
くだりきるとこの道路の終点、シビナル村（2600㍍）であった。サンマルコスからここシビナルまでの走行距離は79㌔で約3時間半かかっている。平均時速は約13㌔、いかに悪路であったかがこれで分かるというものだ。

## タカナへ

シビナル村で馬三頭と現地人ガイドを雇い、テントや食料等の隊荷を馬の背に乗せ、隊員はサブザックのみ。昼食をとっていると雨。13時30分、雨具を身に着け登りだすと雨はやんだ。車が十分通れるようなツルツルの粘土質の道が上にのびている。一家族に七、八人の子どもがいるのではと思われるほど、一軒一軒の庭から子どもたちが私たちを眺めている。道は石畳になり、やがて狭くなり山道となった。半身大のサボテン科の植物が道の両側に並び、ジグザグの登りになる。中腹にそのサボテンが目立つ壁がある。ふり返ると雨上がりに煙るシビナル村の農家の屋根が、緑の中に点々と広がっていた。「メエー…メエー…」の鳴き声とともに羊の群れがくだってきた。その羊の群れを追う子どもたちが、

タフムルコの山頂（後方はタカナ）

タフムルコ・タカナ付近略図



「ブェナスタルデス（こんにちは）…」

と挨拶しながらくだってゆく。

背の高い太い針葉樹が目立ってくるようやがて峠に出た。十字路になっている。ここから左へ稜線上のゆるい登りの道を行く。前後してついてくるマヤ・エキスペディションズでアルバイトをしている大学生のエルビン君（23歳）はタカナ山へは14歳の時に初めて登って、今回で八回目だという。彼はフリークライマーで、ケツァルテナンゴの牙という岩峰で行われたグアテマラの大会で二位になったという。日本のフリークライマー・平山裕二の名前を知っていた。ゆるいコブを越えると左から工事中の林道と合流した。林道は稜線の左下を縫うようにして上り下だりが続く、赤ちゃんを背負った夫婦連れ、馬にマキを積んだ人たちと出会う。この工事中の林道は次の鞍部の手前まで続き、普通の山道になって、くだりきるとその鞍部（第一アッシェンテーター）がテント地で、きょうの宿泊地であった。16時40分着。

テントを張り終える頃、また雨が降りだした。このあたりは夏季の小屋が数軒ある。その一軒でコーンとじゃがいもの入った温かい白いおかゆのようなスープをいただいた。登りで疲れていたから温かい食べものはホッとした気分にしてくれる。雨は夜半過ぎまで降り続き、テントを叩く雨音のせいであまりよく眠れなかった。

10日、明け方前には雨はやみ、星が輝いていた。4時起き、6時出発の予定であったが、早めに準備が完了したので5時50分出発。馬方の親子が道案内で先頭を歩き、ジェームズも一緒に登る。滑りそうな山道を稜線の左側を巻くようにして1時間程で次の地点まで来ると、まわりが明るくなった。中米の最高峰タフムルコが雲海に浮かび、その右横遠くに煙を吐いている活火山が見えた。ジェームズがその山を指差しながら、「あの山はサンチャギッドです」と教えてくれた。

右上へと、どんどん登ると等身大の杭に有刺鉄線が張り巡らせてある地点に着いた。ゲートを開けて中に入る。正面に盛り上がったピークがあるが、これの左を巻くようにして登るとポッカリと林の中に台地があった。

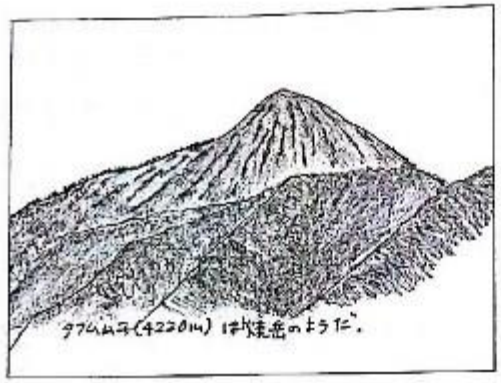
第二アッシェンテーターでテント場としては最適の場所だ。以前来た日本隊はここでテントを張ったと聞いた。この端からゆるい登り、そして左へトラバースすると裾の支尾根に出た。ここから左に岩のコブを従えたタカナの山頂帯が望める。しばらく登ると山腹の、高さ7～8mの窪みに白いペンキで石にスペイン語が書いてある。道標か？　ゆるい登りが続き鞍部に着くとジェームズが、「10時30分がタイムリミット……」と言う。――誰か、スタート時には、11時をもって制限時間としていたはずなのに――。まだ2時間もあるので山頂へは十分行けると判断し、彼の言葉に従う。道は稜線の斜め左下をトラバースぎみに登って行く。この登りは下生えのないすっきりした林の中の登りだが長くて単調だ。これを登りきると先ほど下から見えていた岩のコブの右の小さなコルに出た。

その岩のコブ寄りから見上げると山頂部が顔を出していた。もうすぐだ。コルの左下に池があり、その池の右岸を行き、その端から山頂へと向かう。池の周辺には空き缶が散らばり、まわりの岩や石にはスペイン語の落書きだらけ。ここから少し急登になる。森林限界を抜け、石のゴロゴロしたルートを登ると頂上で、時計の針はちょうど10時を指していた。最高点には、中心が金色に塗られた国境を示す高さ30cmほどの鉢を伏せた形のコンクリートが埋め込まれ



てある。タカナはグアテマラとメキシコの国境にあるのだ。その横に鉄組の三角錐の枠と十字架が二本立っていた。あいにく山頂は霧の中で展望は悪く、霧の晴れ間からメキシコ平原の広がりが分かる程度であった。山頂には30分程滞在して下山開始、第二アッシェンテーターあたりから雨が降りだした。頂上から2時間半で帰幕した。

テントを撤収し、下山開始の頃には雨は十砂降りになった。帰りは工事中の林道を




くだった。風がきつく傘が裏返しになることがたびたびあった。途中で林道をはずし、支尾根の山道をくだると花崗岩質の削られた道になった。まるで湖南アルプス（滋賀県）のザレ場を歩いているのではと錯覚してしまいそうだ。シビナル村に着く頃には雨はやんでいた。きょうの泊まりはHOSPEDAJE・PEREZで、ベッドだけ備え付けてある貸部屋式のホテルであった。当然日炊である。

11日はサンマルコスのホテル・ペレスへの移動のみ。途中の村々では袋詰めにされたじゃがいもをトラックに積み込んでいるのをよく見かけた。今が出荷の時期のようだ。ラスプリシャスのタフムルコへの登山口で、道路脇の家の少年二人をあずの登山のためのポーター兼案内人として契約した。

夕方、サンマルコスの繁華街に行く。商店街の中心には二階建のマーケット、その前の歩道にも出店がある。広場には露店が並び雑貨から果物・鶏肉まで売られている。約5m幅の道路いっぱいに群衆がいて、何かを待っている様子。パレードか祭りで御輿みたいなものでも通るのかなと思っていたら、爆竹の音がして、先導の消防車がサイレンを鳴らしながら近づいてきた。爆竹は車を通すため群衆を道路脇に押しやる役目もしているようだ。その後ろからオープンカーに乗ったサッカー選手、どうやらスタープレイヤーのようだ。そのまわりを親衛隊が「♪オーレオレオレオレ…」と合唱しながら手を揚げ、体を揺すりながら歩き、興奮し、あるいはトラックの荷台に乗って、人々と車が続いた。ここは中米だが南米に近いからサッカー熱は高い。そういえば、タカナから帰る途中の村々の広場では、お揃いのユニフォームを着たサッカー少年たちがいて、試合や練習をしている姿が見られた。

きょうは一日中晴れていた。あすもそう願いたい。

## タフムルコへ

12日深夜2時にサンマルコスを出発、タフムルコへの登山口、ラスプリシャス（3287m）に3時50分に到着。サンマルコスからここ登山口までの走行距離は30kmだが約2時間かかった。

きのう契約したポーター兼案内人二人（12歳位と10歳位の兄弟）はすでに来ており、夜空には今の日本ではとても見られないほどのたくさんの星が輝いていた。4時30分

に出発、ヘッドランプをともして広い道を登る。村はまだ寝静まっているが、私たちの通る気配に犬があちこちで吠えだした。広い道は村はずれで終わり、ここからは溝状のゆるい登りが続く。夜が明けてくる。

きょうも天気は良さそうだが、風がきつい。狭みの道を登りきると台地状の緩斜面にサクラソウに似た花・ビオレッタが一面に広がり、その彼方に一昨日登ったタカナがそびえていた。これから登る方角に目をやると、岩と石の山肌をみせるタフムルコが針葉樹林の上に聳り上がっていた。タカナからみたタフムルコは上高地の穂高を思わせたが、ここから眺めると、甲斐駒ヶ岳の火打山から見る妙高山に似ている。ここで朝食にする。ジェームズがカイト（凧、パラパントの小型）を揚げ始めた。風が強いからよく舞っていた。

朝食後、尾根の右下の緩斜面をトラバースして尾根上に出た。キリンソウを小さくしたような黄色の花、紫色のトリカブトのような花、タンポポに似た花が針葉樹の間の空き地に咲き、快適な登りが続く。左前方に茶色の岩肌の山が見える。タフムルコの左に続く隣の山だ。4000㍍はある。案内人の少年に訊ねると、「モヒネデ……」と教えてくれた。

森林限界が終わると頂上直下、噴火口跡の窪地に出た。タフムルコの山頂を見上げる位置まで来たのだ。以前来た日本隊がテントを張った場所だ。小休止後、山頂直下の崖を右から巻き込むようにして登ると、急なルンゼ状の登り、それを登り終えるころ、下からランニングシャツとランパンスタイルの現地人が駆け上がってきたのには驚いた。「ARE YOU AN IRON MAN?」と尋ねたが、ニヤニヤと笑っているだけだった。彼はこの山の次はタカナに登るという。

やがて坂がゆるくなりコル、左へルートをとると山頂の槍が見え、タフムルコの頂上であった。槍はタカナにあったのと同じ形のもので、頂上到着時刻は8時55分。北方にはタカナがそびえ、その左側にはメキシコ平原が広がり、南方にはスニール（3543㍍）・サントトマス（3505㍍）・サンタマリア（3772㍍）が雲の上に頭を出していた。寒く岩に氷が張りついていた。その上、風がきつい。帽子を飛ばされた仲間もいた。頂上には長く滞まれず、登頂の儀式を簡単に済ませ15分ほど滞頂して下山した。

くだりは高山植物を眺めながらゆったりとしたペースでくだる。ビオレッタが一面に咲く緩斜面は上部から眺めると雪が薄く残ったように見え、その斜面に羊の群れが草を食んでいた。ふり返るとタフムルコは雲でおおわれていた。

サンマルコスに戻ると夕方から土砂降りの雨、この雨でシビナル村（タカナへの登り口）への道路は山崩れで不通になったとの情報が入った。タカナはすでに登った後で、私たちは幸運だったと言える。

13日、デチカステナンゴ経由でアティトラン湖畔へドライブし一泊、トリマン（3158㍍）・アティトラン（3535㍍）・サンペドロ（3020㍍）などの円錐形の山々を眺め、ロスアンジェルス経由で17日に帰国した。

メンバー＝桑原信夫・岡崎穣二
本田誠也・辻川利三郎
辻村哲夫・大坪良夫
内田静弘

（平成8年8月8日～17日歩く）




新ハイキング選書

【第6巻】
花の山を行く
松本雪枝 著
その足跡の広い、山の花をたずねてのしみじみとした紀行文集。
●上製本・B5判・約356頁　定価1800円(税込)
★三刷発売中！

【第8巻】
旅がらすの山
富田弘平 著
北日本篇、東日本・中日本篇、西日本篇、国外篇と良いコースの50の紀行文を納めている。高い山から、石仏から、観音を伴み、写生行あり、バウエテイーに富んだ内容豊かな読みものとして楽しい本である。
●上製本・B5判368頁・カラー8頁、写真、スケッチ、図版多数　定価1800円(税込)
★三版発売中！

【第9巻】安藤正義／山川静子／多摩雪雄／富田弘平／松本治 共著
一等三角点の名山100
北海道から沖縄まで、全国100座の一等三角点の山々の最新の紀行案内文集。詳細なガイド地図入り。
●上製本・B5判336頁　定価1650円(税込)
★重版発売中

【第15・16巻】市川静子／岡部敏夫／岡部紀夫／川越ひめ／清瀬和義 共著
日本300名山ガイド〈東日本編〉〈西日本編〉
日本山岳会選定の三百名山のガイド。新ハイキング情報工房が最新の実地踏査による地図、写真、コースタイム入りの内容豊富なガイドブック。
●各A5判・320頁　定価1600円(税込)
★〈東日本編〉六版発売中・〈西日本編〉五版発売中！

【第11巻】
いで湯浴泉記
大石真人 著
あまり知られていない温泉を選べた紀行が多く、また、知られている温泉についても、充明に調べ上げて、すべての旅館の配置図を入れ、単なる温泉の案内書でなく、温泉歩きの長い経験から、話題も豊富に、読みものとしても楽しめる紀行になっています。
●上製本・B6判326頁　定価1700円(税込)
★最新刊・好評発売中！

【第12巻】新ハイキング東海自然歩道グループ 後藤典重 編著
東海自然歩道を歩く
歩き続けて2,174.4778歩。1,343キロ完歩の記録。
●並製本・A5判112頁　定価1300円(税込)
★好評四刷発売中！

【第13巻】
甲斐の山山
小林経雄 著
この本では、甲州の山々を自山、二百山といわず、なるべく多く紹介しようと試みた。個々の山について、それがどんな山かを浮き彫りにさせるため、位置、地形、地質、植生、林相、眺望、山名由来、その山にかかわる歴史などを客観的に記す。
●上製本・B6判360頁　定価1800円(税込)
★好評発売中！

【第14巻】
百歳までの山登り
富田弘平 著
北から南から海外までその足跡の広い著者の長年豊富な紀行と回想録。百歳までの山登りをめざす好読み物
●上製本・B6判368頁　定価1800円(税込)
★好評二刷発売中！

●注文は　発行所　新ハイキング社　振 00130 9 146915
最寄りの書店へ　東京都北区滝野川 7-6-13　電(03)3915-8110

山行メモ

# 山を歩くときの体操

松尾　和三郎

平素あまり歩く機会のない人が、月に一回か二回の山登りに行きますと、いろいろとトラブルが起きるものです。

例えば、坂を登るときに脚のどこかが引きつるとか、くだり坂が長くなると膝が笑ってころびそうになったとか、あるいは俗に「コムラがえり」と言っている、筋肉の硬直のようなことが起こったという人もおられるでしょう。当日は別になにもなかったが、翌日いわゆる「脚にみが入った」という状態になって、階段の上り下りやしゃがんだり立ったりするのに、太ももが痛くて難儀した、という人は多いのではないでしょうか。

私も、そんなこんながたびたびありました。若くて馬力のあった頃は、別に何もしなくても勢いにまかせて何とか済ませてきましたが、だんだん年をとって馬力がなくなってきますと、「何とか楽く、できれば何もなしに済ませる方法はないものか」と思案しました。

いろいろとやってみましたが、費用もかからず物も使わず、そこそこ効果のあった方法を紹介します。

毎日歩いているのだし、山登りも歩くことにかわりはないのだから、特別な準備など必要ではないと考えておられませんか？ところが、

① 歩く距離が日常に比べて段違いに長い。② 目方のある荷物を背負っている。③ 山道が絶じてあまりよくない。④ 急な坂の登り降りがある。といった四点だけを考えてみても、日常と山登りとでは大きな違いがあります。

なかでも③の山道は、大きな石のゴロゴロした道・細い溝のようになった道・岩場を通る道などがあって、そこを通るのにスリップしたり、バランスを崩したりしますし、②の荷物が大きい場合では、脚・腕だけでなく、全身の筋肉が動いています。

ということは、山登りは単なる歩きではなく、一般に考えられている以上に、全身運動であるということになります。ですから山登りでは、歩き始める前に準備体操（運動）が必要になります。これを一般に「ウォーミングアップ」と言うように、体の温度を上げることを主な目的としています。あわせて関節や筋肉が滑らかに動くようにするためには、冬なら10分以上の体操（運動）が必要になるでしょう。

何と言いましても歩くのですから、参考図には脚まわりの四種類だけ掲げておきましたが、最低限これくらいはやってください。さらに（注）に書いておきましたように、首や上体の捻転・屈曲もやっておきましょう。そしてそのあと、足踏みやその場跳びなどをしますと、山荒のフィット具合の点検にもなるでしょう。

次に、一日の行程の途中で脚の調子が、何となくよくないなぁという感じがした時は「ストレッチング」を行いましょう。別に感じなくても、やっておいて損はありません。

「ストレッチング」と言いますのは「身体・脚・腕を」十分にのばす、とか「筋肉などを」極度に緊張させる、といった意味の言葉です。準備体操が体温を上げるのと関節の柔軟を目的としているのに対し、ストレッチングは筋肉のコリをやわらげることを主な目的にしています。

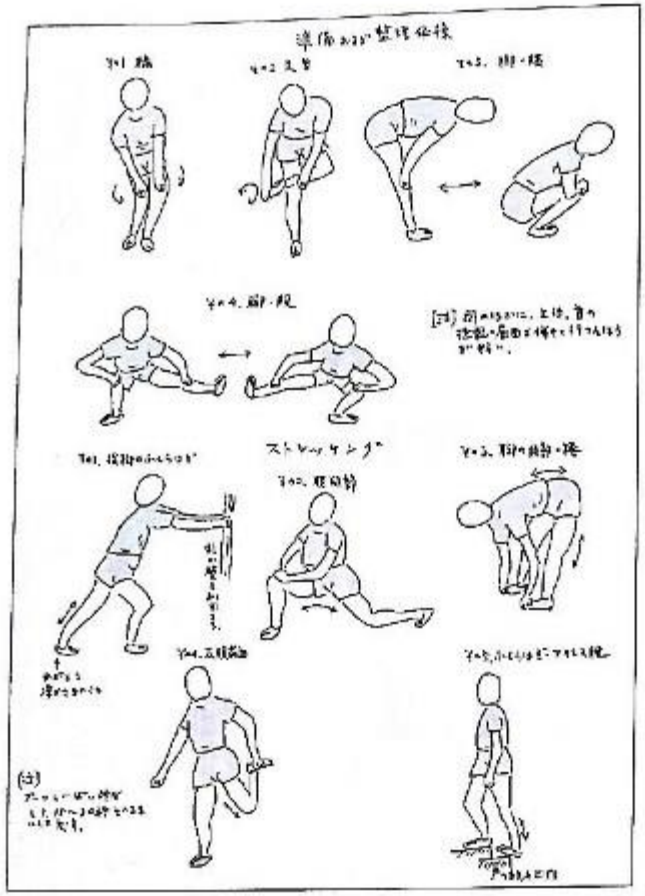
参考図には脚まわりの五種類を掲げておきましたが、これも準備体操と同じように体側や腕・肘などのストレッチングを併せて行ったほうがよいのは、言うまでもありません。

ストレッチングを行うとき気をつけなければならないことは、① 反動をつけないで、ゆっくりグーッとのばすようにする。② グーッとのばして、突っぱった部分が痛くなる手前でとめる。ということが大切です。思いきりのばせばそれだけ余計に効果があるだろうと思うのは誤りです。

一日の行程が終了しましたら、整理体操を行います。これは「クーリングオフ」と言いますが、準備体操でしたと同じ体操をして、体の温度をゆっくりと下げて、元の状態に戻すことです。ちゃんとやればやはり10分くらいはかかるでしょう。そして次に、「ストレッチング」を必ずやってください。整理体操は忘れても、ストレッチングは忘れないでください。これをやっておきますと、翌日の筋肉の状態が、やらない場合よりもずっと好ましい状態になっているはずです。

乗り物の発車時刻ギリギリに到着して、あわてて乗り込んだという場合にでも、家に戻ってから「ストレッチング」をしておきますと、それだけの効果はあります。

一度、試してみてください。



# 野の花讃歌（19）

市川　正次朗

## 大菩薩へ富士見登山

お正月はやっぱり日本一の山、富士山だ。といっても登れるわけがない。せめて間近にあの峰国秀麗なお姿を拝もうと、大菩薩峠へ遠征しました。2000㍍を少し超える山だけど、冬でもわりと雪が少ないと聞いての計画です。

前日は石和のビジネスホテル泊まり。「正月料金で三割増し」というところを値切って平常料金に。さすがに温泉郷だけあって、ビジネスホテルでも温泉がぽこぽこ、われら中高年にはうれしい裸の前後祭。

翌早朝、大菩薩登山口の裂石まで小1時間、雲峰寺の先の駐車場に車をおいて出発。しばらく行くと丸川峠と大日川峠の分岐、私たちは時計回りに左の丸川峠をめざす。尾根に取りつくとジグザグの急登にひと汗もふた汗もかくが、ポンと飛び出した丸川峠で疲れが一気にとれる。

ふり返ると富士山が眼前にパーンという感じ。小さな山小屋の前で、まるで絵はがきのような実景に、しばし見とれていました。峠の丸川荘のご主人いわく、「夏はヤナギランがいっぱい咲いて、その向こうに富士山です。きれいですよ」。少し個思そうだけど、この峠が大好きで、イチイの木でこつこつ彫り物を作り、旅人においしいコーヒーをたて、夜は遅くまで遊びにくるテンに話しかける、そんなやさしさが伝わってくるお人でした。

セツブンソウ

峠からカヤトの斜面を登ると、南アルプス連山・八ヶ岳・奥秩父の山々と一気に視界が開けるが、稜線はうっそうとした原生林で大菩薩嶺の山頂まで展望はほとんどなし。が、少しくだると急に開け眺望は思いのまま、このコースのハイライトだ。いったんくだったところが旧大菩薩峠の賽の河原、そこからひと登りすると眼下に介山荘が突然現れる。現在の大菩薩峠だ。富士山はいよいよ間近。

介山荘は超快適な山小屋、正月三日間はおなじみさんばかりで超満員とのことだったが、4日は意外とすいていて泊まりは20人余り。夕食のあと、小屋の息子さんが「さあ皆さん、夜景を見に行きましょう」とかけ声。雪はなかったけれど風は強く、寒さはかなりのもの。諏訪方面から甲府盆地、入笠山のスキー場の光がさんざめき、東方向には遠く東京のぼんやりした明かりまで見えました。

帰りは上日川峠へのコース。途中、中里介山が世界一の長編小説「大菩薩峠」を書いたという、大菩薩では一番古いという山小屋・勝縁荘で小休止。目の前の谷の水は完全に氷結していました。思いのほか寒かったのかもしれません。下山した翌石で、旅館の温泉（入浴料500円）に入ったのはいうまでもありません。



京都北山　やぶ漕ぎ痛快山行記（29）

笠峠から小野郷の里山歩き

# タカノス山から峰山へ

京都北山グループ

京都駅前からJRバス周山行きに乗車する。山城高尾・槙ノ尾・樹ノ尾を過ぎると渡渉川沿いの北山杉の美林を見ながら北上する。1時間程で笠トンネルを抜け、滝ノ町に着く。トンネルの中央が京都市北区と京北町の境界になっており、滝集落は京北町にある。

これから登るタカノス山へはトンネルの上にある旧笠峠から道がのびている。笠トンネル開通まではこの峠越えの国道を省営バスも走っていた時代があった。

滝集落の最奥の民家の横から旧道に入りしばらく戻るとトンネル口の上からの旧国道に出合う。トンネルができるまでは車の離合も難儀な笠峠国道だったが、今は車も通らない静かな里道である。しばらく登ると鉄扉で通行止め、私ら歩行者は脇を通り抜け進む。

峠の頂上付近は平坦地で周囲は杉の植林になっている。磨き丸太加工用にシボを針金で巻いた杉林が立ち並ぶ。磨き丸太に絞ったような襞があるが、これをシボと言い、天然シボと人工シボとがある。20年生位にシボ巻を施して京都北山独特の特産品に仕上げる。主に床柱として重宝され高価な丸太である。

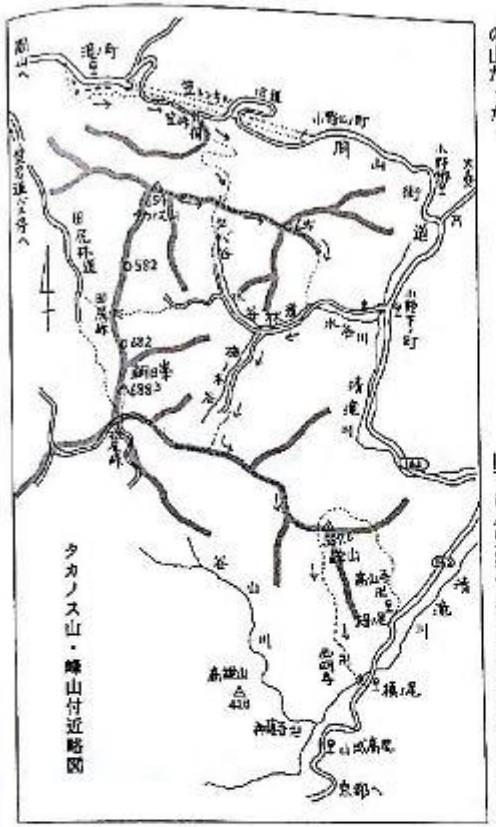
美しい杉林に見とれるとタカノスへの入り口を見逃してしまう。道路右側に小さな古い祠を見落とさないように、ここが笠峠からの登山口で標高は約430㍍。右の杉植林の中の幅1㍍程の仕事道をたどる。やがて山肌斜面の踏み跡道になり、潅木が歩行を邪魔するが右上へと踏み跡道はのびている。右の支尾根の裾を乗り越し、前方のタカノス稜線にと左に回り込み尾根の鞍部に登りつく。

タカノス稜線にはっきりした尾根道があり、右西北へ尾根道を登り進む。左側に

タカノス山にて

水谷川の支谷セバ谷からの道を見送りなおも稜線をたどる。右根間から遠く城丹尾張が見えるだけのやぶ沿き尾根道、松の大木が立つ前山を越すとタカノス山の三角点頂上に登り着く。

654㍍3等三角点。点名は滝谷となっているが2万5千の地図には記されていない。今西錦司さんの「千三百山のしおり」には昭和五十三年10月22日76歳の時に登ったと記されてある。それほど北山では本踏の山だった。




周囲は雑木林で展望は望めないが、南面だけが朝日峯との測量のために伐採されているので、セバ谷を通じて深い北山気分を味うことができた。遠石の横の松の木に上がれば北方の笠の稜線から天筆山・桟敷ヶ岳方面が望める。昼食には早いので東のピーク635㍍へと尾根道を戻る。よく踏まれてピーク635㍍へ30分で着く。このピークの東面は伐採されて杉苗木が植林された直後で、東面180度の抜群の展望である。眼下に小野郷の里から半国高山や桟敷ヶ岳への山並みが眺望できる。ここで昼食にする。

ピークから右の水谷川にのびる支尾根をおりる。所どころにテープもあり、2万5千の地形図の破線路をたどり水谷川林道におりる。水谷川林道沿いにくだれば小野郷下ノ町バス停に30分程で行けるが、きょうは槙ノ尾の西明寺におりるため、途中梅ノ木谷林道へ入る。川上へと梅ノ木林道の終点までつめる。左の斜面にある仕事道を登るとすぐ支尾根の道となり、はっきりした道を松尾峠から峰山への稜線上の一般縦走コースに登りつく。

奥深い谷山川を挟んで愛宕山・鬼ヶ岳への山並みが眺望できる。左にとり峰山へとお馴染みの昭文社地図の赤線コース。チシマ笹の感触よい尾根道は北山歩きをいっそう楽しくさせてくれる。峰山下の三叉路の分岐に着く。直進すれば峰山、左は槙ノ尾高山寺へ、右は槙ノ尾西明寺へ、時間があるので峰山へのゆるい笹原道を登る。雑木林下の斜面を登ると三角点広場のある峰山（537・6㍍）の頂上に至る。3等三角点のある山で2万5千地形図には、タカノス山より低い標高なのに峰山の山名が記されてある。それだけ梅ヶ畑・三尾・三寺の峰と



して古くからあがめられた山だったのではと思える。

西明寺へは頂上から右にのびる尾根道を伝うと先ほどの分岐からの道と出合う。どんどんくだれば西明寺裏の滝ノ行場に出る。夏には行者の姿を見るが今の季節は出会わない。

西明寺境内の宿坊を眺見して清滝川の橋を渡り槙ノ尾バス停に出る。JRバスは1時間に一本あり、次の山城高尾バス停まで歩をのばせば市バスの三条京阪行きが出ているが、本数が少ないので事前に調べておくほうがよい。

ピーク635㍍の伐採された山頂にて

槙ノ尾の高山寺にくだるにはいったん峰山下の三叉路まで戻り左の昭文社地図ガイドの赤線コースをくだる。時間も短縮できる。

（平成7年10月7日歩く）

△コースタイム▽

滝ノ町バス停（30分）旧坂峠登り口（40分）タカノス尾根鞍部（30分）タカノス山（30分）P635㍍（30分）谷山川林道（30分）梅ノ木林道終点（30分）松尾峠峰山縦走路（40分）峰山（40分）西明寺

△地形図▽2万5千＝岡山・京都西北部

昭文社＝「47京都北山1」

（記録　山口　寛次）

## （この花・この草）ショウガ②（Zingiber officinale）

ショウガ科

英語でジンジャー・アップ（ginger up）というと、「元気が出る」という意味をもちます。古代にはインドや中国で珍重され、9世紀にはヨーロッパ全土に広まっていたようです。

利用法のいくつかを紹介しましょう。

▽風邪のひき始めには「しょうが湯」。ショウガ一かけをすりおろし、熱湯を加えて熱いうちに飲みます。喉の痛みや咳がある時には蜂蜜を加えるとより効果的。

▽喉の痛み・扁桃腺炎に生のショウガをおろしたものを布に包み、患部を温湿布します。但し、肌が刺激されて皮膚炎を起こすこともあるので要注意。

▽乗り物酔いの時には、ジンジャーティー（3㎜角に切った生、またはドライのショウガを5分ほど煮出したもの。臭風邪にも有効）やジンジャーキャンディ（砂糖漬けのショウガを乾燥させ、さらに砂糖をまぶしたもの）を。

▽オイルをワインやビール、強壮酒等の香料として、おなかの張りや消化不良に。

▽ジンジャーエール・ジンジャークッキー・カレーパウダー……etc.

エリア別徹底研究

# 近江側から登る鈴鹿の山々

## ――伝説・伝承の紹介――（1）

# 御金明神について

永源寺町佐目村の『ふるさと記』（若宮八幡社）より

岩野　明

### 佐目のはじまり

「近江国神崎郡佐目村を往古かねの村と申し、佐目小谷をかねの谷と申し、昔人皇の御代の始めいづくともなく奥山より牛一頭来り、佐目の男女を悩ましと耕作を急ぐ申しにつき、人々これを防ぎかなはず迷惑いたし候。この牛の有様面は牛にて角ありて足は馬の如くにてかけ走り早く尾の先に剣ありて、総身の毛は金剣の如くにて岩をくずし、苔木を倒し前後へ近づきようもなく、然る処左に一眼ありて嶋口の童子来り、かの牛を追ひ払ひ在所へよせつけず申候。人々不思議に存じこの童子帰るをしたい見候へば、金の谷へゆきがた見え申さず。いよいよ不審に存じ御鎮明神へ神示をあげ、湯立をいたし候へば根かに社壇震動して、

左目の童子白針装束にてあらわれ給へば、薬師に神殿子の左右列座し給ふ。その時童子宣ふ我は是鎮明神なり。昔かね村に候はらみたる牛を殺せし恨みによってかの牛来り、かね村をたやし民子かこほんため、此の頃ふせぎ賜ふなり。三日中に件の牛を滅ぼし金の村を安穏たるべしと御託宣あらたなり。其時男女老若いよいよ神示の庭に拝し奉る。然る所にかの牛夜中に来り両眼は日月の如くに谷峰かけ、早きこと飛鳥の如くなり。かかるところに御童子御行あって、かの牛おいまはし要知川原の石をとり給ひ、御口より炎を出しこの石に吹かけ、牛になげつけ給へば石は即ち鉄火となりて雨あられとなり、かかる牛は次第に弱まり高山の原にひれふし頭をたれて死にけり。余り不思議に存じ奉り時の守護へ申上候へば前代未聞に思召さる。御鎮明神御建立成されて、それよりして金の谷を左の目の人の子と言いて佐目小谷と申し、金村を佐目村と号し高山のひらみ（平の岳）を牛がひたいといひ、牛がひたいに佐目村の在家ありて、これも件の牛来り、人馬を殺し申候付今の佐目村に引渡り、在家を立て来繁昌の村と成る事は、偏に御鎮明神の御神力ありがたしとも申し不及言語に候。」

（『牛々縁起起』・若宮神社保存文献より）

御金明神



### 祭神・金山比売命・恒例祭・7月20日

「塔尾金大明神と称し、雨の明神と崇められ人皇六四代円融天皇の御宇天禄元年四月八日、お金の塔より佐目邑に勧請し、若宮八幡神社の北方に極殿を建て奉安祀せり。両後二千年後に至り、人皇八八代一条天皇正暦元年八月八日、尾金神社として創社せり」と記せられている。相伝に「此の鉦とは空也上人の所持せられるものなり」と、「歳の早魃ありしとき、此の鉦を出して打鳴らし、祈らば必ず雨降りぬ」という土俗の伝言は、「近郷近村に及び雨の明神と御神徳はいや広くいや高く、永禄元年早魃続き祈願のため、松尾寺・小倉・曽根・中戸・清水・岸本・長村の人々参拝あり

御金明神付近略図

て、崇敬者今も尚欠く事しらず」と言われている。

### 尾金の塔

「当村より遠か東北に位し（佐目字谷御金の平）、深山幽玄の地にあり。霊塔は山上に高く聳立する。四拾有余尺の巨塔は神威の顕現にして、左側端の塔姿は恰かも天狗顔面の表現し、自然の造石は全く、現世の造神ともいうべきものなり。神験厳現の霊神にて真に信仰深きものなり。この深仙霊山に参籠する者は、自ら襟を正さざるもの無し。霊感道り全く神秘の極みというべきである。」

### 雨乞の儀と参詣

「雨乞いの祈願には当社祭守を甫め、氏子一同昼夜兼行参籠をなし境内或いは参道の辺に大太鼓・鉦を出し、次の雨乞い掛声に合して、『雨ちよほ、ぶちやけ、ざんざと、ぶちやけ、ざんざら、ざんと、ぶちやけ、ぶちやけ、ぶちやけ』、参籠は三日三夜・五日五夜・七日一夜の祈願をするものとす。始めの日、終りの日には通か東方に鎮座します、塔尾金神社霊塔に祈願と御礼に参詣をなす（相谷村も同様参詣）」の慣例となっていた。

平成八年4月28日、新ハイの例会で16名の皆さんと一緒に御金明神に参拝したが、佐目村の守神・現世の造神とも言われる御金の塔の周りには個人名の表示や紐・テープ類がいっぱいでした。

御金明神については皆さん全然知存じないようです。昔は多くの人たちが垢離場で口を濯ぎ、身を清めて参詣されていました。このような聖域を登山の対象としても、個人的な表示をするようなことは許しがたいことだと思います。

エリア別徹底研究

# 近江側から登る鈴鹿の山々 ㊽

## 茶屋川林道から

# 銚子岳

茶屋川の支谷焼尾谷源頭の銚子岳（1019㍍）は、主稜線を歩く時に立ち寄る程度で、茶屋川林道から尾根を登る人はあまりいないようだ。昭文社の地図には、焼尾谷の出合いから尾根をストレートに登る黒の点線が記されている。このルートを登ると、左斜面は雑木の中にどこまでもシャクナゲが続き、山頂直下はバイケイソウとヤマシャクヤクの群落があった。山頂からは北方に雄大な眺望が開け、西に向かう尾根をくだると、檜林の中に小さな水たまりがいくつもあり、動物たちのたまり場になっているようだ。伐採された植林の尾根からは思わぬ展望が得られた。

茶屋川林道を進み、焼尾谷出合の手前に車を駐める。橋の手前から谷に沿って林道が登っているが、紹介するコースは橋を渡り谷の左の急斜面を尾根に登る。尾根の左斜面は雑木、右は檜林、おおむね切り開かれ造林公社の杭が続く。右下には焼尾谷の沢の音、そしてウグイスの声が遠く近く聞こえる。アセビの小枝を分けて登ると686㍍のピークに着いた。北方には茶屋川渓谷の新緑が、細尾根の左斜面にはシャクナゲの深紅の蕾や咲き誇る赤やピンクの花が続いていた。尾根と右斜面は、大きく茂る檜林や木の根が剥きだしの岩稜帯である。

シャクナゲの花を愛でながら登ると、右斜面に切り開きが現れた。焼尾谷を挟んだ斜面は伐採されたばかりで、植林地が広がっていた。切り倒された大きなミズナラの木に野生の椎茸が生えているが、好天続きで干し椎茸になっている。全部で約20個、思わぬ収穫だ。毎年、春先に銚子岳を歩くと思いもかけない所で自然の椎茸を摘むことができる。木の根が剥きだした細尾根の左斜面に、シャクナゲの花がどこまでも続いた。登りつめると、北方の茨川に向かう尾根の分岐に着いた。以前、この尾根を茨川におりたが、切り開かれた尾根は次第に細くなり、岩稜に変わったが、雑木が茂るこの岩稜はすばらしかった。

真上に銚子岳が望めた。右折して山頂に向かうとゆるい登りから急斜面に変わり、雑木の尾根はバイケイソウの群落になった。その中にヤマシャクヤクが混じっている

くだりの尾根より銚子岳を望む



が、花は咲いていない。いったん登りつめた平坦地にもバイケイソウの中にヤマシャクヤクの群落が現れたが蕾ばかりだ。日だまりの東斜面に二輪だけ咲いていた。歌人・石井明子の歌に「しらたまのはじけるごとく咲く花の山芍薬は散りぎはもよし」がある。この花の命は短くわずか三日間とのことである。清楚な白い花は丸く少し開きかけている。その中を覗くと、先端が深紅のおしべとそのまわりに黄色のめしべが見えた。深山にひっそりと咲く気品あふれるこの花は、春を告げる山の精を思わせる。

ひと登りすると銚子岳の山頂に着いたが、雑木に囲まれ展望はない。少し戻ると北方に展望が開けた。雄大な御池岳と藤原岳は冬枯れのままの乾いた斜面に、ボタンブチ・ボタン岩、そして天狗岩の白い岩壁を見せながら、圧倒的な迫力で静かに迫なっていた。

稜線の縦走路を北の端までたどる。植林の中にはイワカガミの赤い花が咲き始めていた。右手には椋川から静ヶ岳と竜ヶ岳が望めた。引き返して山頂で眺望を楽しみながら昼食。食後、西にのびる尾根をおりると、すぐ右の斜面にガレ場が現れた。ガレの上までおりると大きく展望が開けた。直下の茶屋川から足元まで焼尾谷が突き上げている。新緑が茶屋川から遅い上がってまさに春動き、山笑うの感だった。急斜面をおりると檜林に変わり、尾根の中央部の細長い窪地に小さな水たまりが五か所ある。雨の時期には池になるようだ。周りには鹿の跡が入り乱れ、動物たちの水飲場とヌタ場になっていた。

尾根上の造林公社の杭をたどると、右斜面が急に明るくなり植林したばかりの草原に出た。植林の中をおりると次第に展望が開けてくる。左にはピラミッド型の天狗堂、そして御池岳、藤原岳から南に続く稜線、その手前の土倉岳から両にのびる尾根は新緑と植林の鮮やかな緑の濃淡だ。送電線の鉄塔が南にのび、真下の茶屋川から焼尾谷を挟んで、登りに歩いた尾根が銚子岳へと突き上げていた。檜林に変わると左下に林道が見え、間もなく林道に出た。林道を焼尾谷に回りこんでおりる。

（平成8年5月17日歩く）

ヤマシャクヤクの花

**◆コースタイム◆**

焼尾谷出合（1時間15分）尾根分岐（25分）銚子岳（10分）東の端（10分）山頂（15分）ヌタ場（10分）植林尾根（30分）林道（20分）焼尾谷出合

〈地形図〉

2万5千＝竜ヶ岳

昭文社＝「44霊仙・伊吹・藤原」

（若野　明）

エリア別徹底研究

# 近江側から登る鈴鹿の山々 ㊾

## 御池川林道から

# サンヤリ（仏供さん山）

御池川の支谷瀬川谷の源頭にサンヤリ（959.8m）がある。天狗堂からサンヤリまでの尾根には植林が育ち深いやぶが続くため、登る人はほとんどいない。御池川林道からサンヤリに向かう林道は、現在882mの下までのび、林道終点からはしっかりした他道がある。この山域は近年伐採され、植林されているが、ブナ・ミズナラ等の大木は切らずに残されている。切り開かれた明るい山頂には、ブナの木が点在しすばらしい眺望が楽しめる。家族連れで山菜でも摘みながら手軽に楽しめるだろう。そんなハイキングに最適だ。

君ヶ畑から御池川林道をミノが峠に向かう。小又谷林道を過ぎると、左上に御池川から一気に突き上げている大狗堂、その奥のサンヤリに切れ込んでいる瀬川谷が望めた。以前は一部地道があったが、今ではかなり奥まで舗装され、通りやすくなった。瀬川谷林道の分岐に車を駐める。左折して地道の林道をくだり御池川の橋を渡ると、ゆるい登りが続いた。以前はかなり荒れていた瀬川谷林道も、最近きれいに整備されて車も通れるようになっていた。林道の左斜面は植林したばかりで、登るにつれ左手に展望が開けた。道の両側にはタニウツギの赤い花やピンクの花が続いていた。しきりにウグイスが鳴いていた。

支尾根を回りこむと左直下には瀬川谷の渓谷が続く。林道終点には右の尾根に登る道と、谷におりる道、そして山腹をサンヤリに向かう道が現れた。中央の道をたどると急斜面の植林の中に道が続き、丸太の橋を何回か渡ると、左下から渓流の音が近づいてきた。左下には清流が岩を噛み白い泡を立てていた。右に回りこんだ時、すぐ下約2mの谷から、鹿三頭がドドドドッと走りだし谷の奥に消えた。一瞬の出来事だった。谷に沿ってゆるく登り、流れを右に左に何回か渡ると、倒壊した作業小屋があった。前回歩いた時には倒れていなかった。今冬の豪雪で倒壊したようだ。ここで水を確保し、さらに行くと谷と道が分かれた。左折して植林の山腹を登ると植林したばかりの斜面に変わった。植林の中にはブナ・ミズナラ等の大木が残されていた。前方左

西のピークよりサンヤリ（左前方）と天狗堂（右奥）

上が山頂だ。回りこんで上を見ると、ここにも鹿が一頭いたがすぐ奥に消えた。植林の中にブナの疎林が続き、登りつめると、サンヤリの山頂に着いた。

南西斜面は植林が大きく育っているが樹間に展望が開けた。左に大狗堂、その奥に日本コバ、そして御立山・アカイシ・八ツ尾山と低い山並みが続き、その先には湖東平野が霞のなかに幻のように広がっていた。引き返して北の端に着くと、左から茶野・鈴ヶ岳、そして巨大な山の塊、御池岳が圧倒的な迫力で横たわっていた。

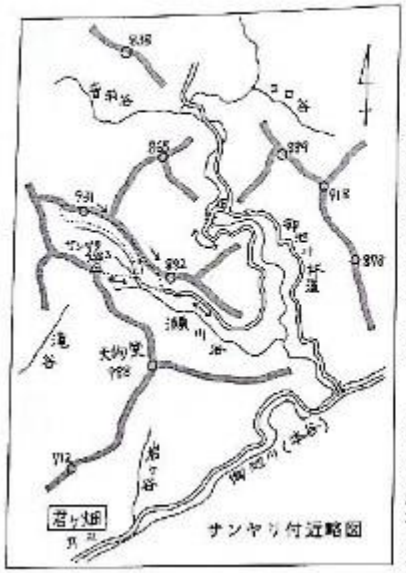
ひと休みして谷の分岐までおりる。左折して北西に向かう谷をたどる。下刈りと枝打ちが終わった広い明るい谷には、流れに沿って道が続いていた。源流は湿原となり、小さな池が現れた。池の周りは鹿たちのたまり場になっているらしく、広場があり、動物の臭いが立ちこめていた。

右の鞍部に登り右折して尾根をピーク931mに向かう。大きく茂る植林の尾根にはシャクナゲが続いた。花はほとんど散ってしまい一部ピンクの花が残っていた。ゆるい登りから造林公社の杭が現れると、切り倒された道が続いた。ピーク931mに着いたが樹林におおわれ展望はない。次のピークにかかるとイワウチワの群落、登りつめると山頂はシャクナゲ、そして北方に展望が開けた。腰を下ろして御池岳を望みながら昼食。南方には樹間からサンヤリが望めた。

ゆるいくだりは自然林に変わり、ブナが増えてきた。右斜面と尾根にブナの大木が次々と現れた。樹林帯を抜けると右斜面は幹の植林に変わり展望が開けた。深く落ちこんだ御池川の先に銚子岳と静ヶ岳の稜線、右には大狗堂とサンヤリが望めた。植林の右斜面を折り返してくだると林道終点に着いた。

林道のまわりにはタラの木が多い。新芽はほとんど摘み取られているが、そのあとにまた新芽をいっぱい出していた。このタラの芽をほどほどに摘みながらくだるとすぐにビニール袋いっぱいになった。御池川林道の途中に一か所、クレソンが自生している谷がある。みずみずしい新鮮なクレソンも摘んで帰る。

（平成8年5月29日歩く）




サンヤリ付近略図

△コースタイム▽

瀬川谷林道分岐（50分）林道終点（30分）谷分岐（25分）サンヤリ（20分）谷分岐（25分）源流尾根（30分）シャクナゲのピーク（25分）林道終点（45分）瀬川谷林道分岐

△地形図▽

2万5千分の1　竜ヶ岳

昭文社＝「鈴鹿山・伊吹・藤原」

（岩野　明）

エリア別徹底研究

# 近江側から登る鈴鹿の山々 ㊿

## 政所蓬谷鉱山役所跡のある

# 東山・キトラ山

永源寺町政所の北に東山（790㍍）とキトラ山（747㍍）の連峰がある。この山域は全然知られていないようだ。政所から北西に切れ込んでいる宮ノ谷には、現在も政所渓谷鉱山役所跡が残っている。この谷の山合いから東山に突き上げている尾根には昔の道が残っている。

杉・モミ・ミズナラ等の大木がうっそうと茂り、白く風化した大きな倒木が横たわっている。青葉・若葉の樹木たちにやさしく語しかけられながら歩いているような感じがする。

政所を過ぎ、橋を渡った道路脇に車を駐める。右手山側に広がる茶畑の横の道を登ると、すぐうっそうと茂る杉・檜の尾根に変わり、よく踏まれた古い道が続いた。次第に雑木とモミの大木が増え、ヤブツバキの真っ赤な花が咲いていた。ヤブレガサの続く尾根上には狸の溜糞が点々とあった。登りつめるとモミの大木が茂るすばらしい尾根に変わった。左斜面に植林が現れると真上にモミの大木におおわれた東山が望めた。左のキトラ山へと続く稜線には、檜を並べたように杉の大木が続いていた。最後の急斜面にかかるとまたモミの大木が続いた。その中の木の2㍍ぐらいの高さの所に大きな黒いコブがある。真下へ行ってよく見ると、サルノコシカケだった。

登りつめて左折して右に回りこむと東山の西峰に着いた。樹林におおわれ山頂の展望はないが、さわやかな緑の風が吹いていた。ひと休みしてキトラ山に向かう。

ゆるいくだりはやがて細尾根に変わり、左斜面は杉の大木、尾根と右斜面はミズナラ・カエデ等の高い木が続いた。その時約20㍍前方の雑木の中から鹿が一頭跳びだし、白いお尻を振りながら落ち葉を蹴散らし、右の急斜面を一気に駆けおりていった。この尾根にも狸の大きな溜糞があったが、何とその中にワサビが一株大きく成長し小さな白い花をつけていた。左斜面が植林に変わるとゆるい登りが続き、キトラ山の山頂に着いた。雑木に囲まれ展望はない。引き返して東山に向かう。

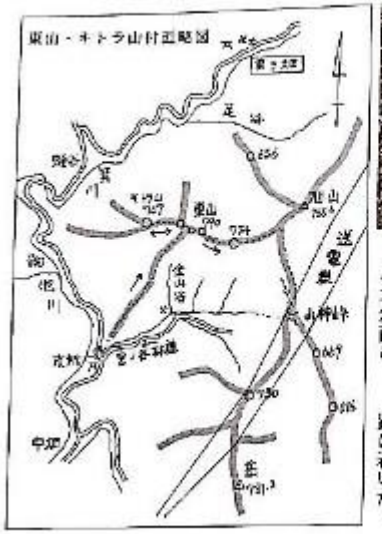
東山の山頂部は西・中央・東の三つのピークがある。中央のピークに着いたが樹

巡視路より東山の連峰を望む

林の中で展望はない。いったんくだって東峰に登ると北斜面が植林帯になり、少しくだると植林の間から北方に展望が開け、御池岳・藤原岳・静ヶ岳へと続く稜線が望めた。くだりにかかると雑木と植林の生え込みの中に造林公社の赤い杭が続いていた。広い鞍部の杉林の右斜面は、高さ1・5㍍ほどの植林に変わり展望が開けた。774㍍ピークの北東斜面は植林したばかりで、大きく開けた眺望を楽しみながら昼食。左にサンヤリ、その手前大狗堂は均整のとれた富士山形の長い裾を引いている。その右後方から巨大空母を思わせる御池岳と、藤原岳・静ヶ岳が続き、右には鎌ヶ岳が笹の頂きを覗かせている。その手前はゆったりと広がる田山山域だ。新緑の中に濃い緑の杉や檜の林とモミの木が混じり、佳いたカヤ原には植林が広がっている。

ウグイスやカッコウの声を聞きながら、植林の中をおりて登り返すと満花線の巡視路に着いた。

狸の溜糞とワサビ一株




右折して山ノ神峠に向かう。樹林の中を歩いていると、左のやぶから突然ヤマドリ一羽が目の前にとび出してきた。羽と尾羽を半開きにして、私の3～4㍍先を付かず離れずヨチヨチと歩いてゆく。その後方には、二羽のヒナがチッチッチッと鳴きながら歩いていた。私は腰を下ろして静かに見ていることにした。ヒナは

低山登山～本格トレッキングまで、
登山用品のことならおまかせ下さい。

新ハイの会員証で更に割引します。

とスキーのヨシミ

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL06(772)7231

JR天王寺駅
北出口右へ
歩道橋渡ってスグ

774メートルピークより天狗壁を望む

後方で鳴いている。しばらくして、バサバサという音がして親鳥が戻ってきたが、10数ほどの所で私に気づき、左に回りこみながらヒナの所にゆき、樹林の奥に消えた。

左の大きな窪地の奥にあるヌタ場を確認して、ゆるい登りとくだりをたどると右に植林が広がり、その中にモミの大木が続いていた。雑木の中を登りつめ、ゆるくくだると鉄塔の下の広場に着き、大きく展望が開けた。左の御池岳から竜ヶ岳へと続く鈴鹿の主稜線、特に正面の静ヶ岳は自然林におおわれ茶屋川から山腹を見上げていくと新緑が明黄色へと、まさに芽吹えるの感がある。右には尾元から岳へと続く広々とした植林の尾根、その先には左から銚子ヶ口山系・水木野・不老堂・日本コバと続き、深く落ちこんだ宮ノ谷から東山の連峰が一気に突き上げている。眺望をゆっくり楽しみ山ノ神峠にくだる。

峠で右折して植林の中をたどり、次の鉄塔の手前で左折して宮ノ谷へおりる。深く掘りこまれた道を折り返しながらくだると、杉の大木が5～6本現れ、道路脇に祠があった。中には上下に割れてはいるが、かすかにお地蔵さんと分かる石像が安置されていた。今ではほとんど通る人のないこの峠越えの道も、昔は多くの人たちが通りこのお地蔵さんに手を合わせたことだろう。腰を下ろして私も手を合わせ、この森の静寂に身をゆだねた。

谷におりると、大きな杉が雪で折れたらしく道を塞いでいた。送電線の巡視路を歩き、黒いプラスチック製の階段をおりて谷を何回か渡り左斜面をくだると、すぐ下の谷からまたヤマドリが一羽飛び立った。そのすぐ横の斜面をヒナ二羽がチッチッチッと鳴きながら登っていった。宮ノ谷林道に着くと、右の東山に向かって金山谷が切れこんでいる。その右斜面には伐採された山肌が大きく広がっていた。この谷の出合いの左とその上の杉林に石垣が築かれている。中島伸男著『近江の鉱山の歴史』によると、政所逢谷鉱山（白銀）役所跡だ。坑口は金山谷の上流に今も残っていると聞いた。

流れを渡って杉林の中の役所跡に上がる。中程に石垣で作られたかなり深い吊り池が口を開けていた。水は濁れているが深くて、落ちたら上がれないだろう。谷側を少し登ると鉱石を精練した吹場の滓が露出していた。宮ノ谷林道をくだると、両側に大きく育った杉の美林が続くが、このあたりを寿司屋跡というらしい。

（平成8年5月18日歩く）

**≪コースタイム≫**

政所（1時間5分）西峰（15分）ヒトラ山（20分）東山（15分）東峰（25分）774㍍（10分）巡視路（25分）鉄塔（20分）地蔵さん（40分）宮ノ谷林道（20分）政所

**≪地形図≫**

2万5千＝道ヶ岳・三渓寺

昭文社＝「44霊仙・伊吹・藤原」

（岩野　明）



エリア別徹底研究

# 近江側から登る鈴鹿の山々 ㊿

## 茶屋川林道の尾根から

# 静ヶ岳

静ヶ岳の西斜面には、茶屋川から文川谷・丈治谷・静ヶ谷・太夫谷と四つの支谷が深く切れこんでいる。これらの谷に挟まれた尾根上はほぼ切り開かれ歩くことができる。半世紀近く人の手が入っていないため、この山域は樹林が大きく育ち、昔の鈴鹿の樹相がそのまま残っている。丈治谷の北のピーク862㍍にはヒメコマツが大きく茂り、斜面にはクリの大木がある。この尾根もぜひとも歩いてほしい。山頂部には1000㍍を超すピークが四か所あるが、静ヶ岳（☆1065㍍）から西にのびる山稜は忘れられたような存在になっている。太夫谷の源流は杉や檜の森で、姥尾谷林道が太夫谷に回りこんでのび、現在伐採が始まっている。この尾根には巨大な杉が二本あり、一本は、斜面から尾根に倒れてなお大きく茂っている。そして池もある。

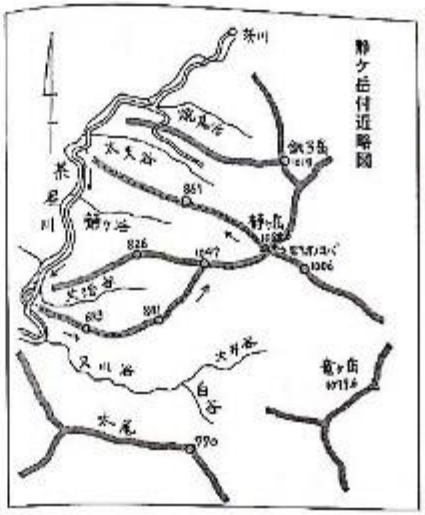
茶屋川林道から登る尾根ルートは、鈴鹿の樹林のすばらしさを堪能しながら、いろいろな動物たちとの出会いを楽しむことができる。

茶屋川林道を茨川に向かう。文川谷の出合いを過ぎて橋を渡ると、右に大津営林署の看板があり、その横の杉の木に№1042の表示板が取りつけてある。ここが尾根へ登る取付点だ。少し行くと左に広場があり車を駐める。

右の樹林の急斜面を右斜めに登ると看破に変わり、左下から丈治谷の瀬音が遠い上がってくる。この谷の上ばうっそうと茂る樹林の急斜面が、ピーク1047㍍の山頂まで一気に高度を上げ、その右にはこれからたどる樹林の尾根が望めた。ゆるい登りをたどると尾根はほぼ切り開かれ、造林公社の杭が続いた。雑木の中にはアセビが茂り、その小枝を分けながら登ると、アセビが消え広い尾根に変わった。ミズナラ・カシワ・ウリハダカエデ・ヤマモミジ等のすばらしい樹林の中は下草がなく落ち葉が深々と積もっている。見とれていると前方右斜面から、バサバサバサと音が近づいてきた。そして約20㍍先に現れたのは猪、いや猪だ。私には気づいていない。短い足は落ち葉に埋もれている。左奥の谷へゆっくりとおりていった。

1047メートルピークより静ヶ岳を望む

山ノ神峠上の巡視路より静ヶ岳を望む




623㍍のピークは雑木におおわれていた。いったん登りつめると、右に竜ヶ岳が望めた。明るい新緑の樹林の中には、朱色のヤマツツジが咲き乱れていた。新緑を透して降りそそぐやわらかくて快い陽の光、涼風が吹き上げてくる樹林の尾根、小鳥の声を聞き、何も考えず自然に溶けこんでゆっくりとたどる。何ものにもかえがたい充実した時だ。

登りつめるとピーク814㍍の草原の広場に出た。左上に1047㍍の山頂が望め、そして新緑の急斜面が又川谷の樹海へと落ちている。谷を挟んで竜ヶ岳が圧倒的なボリュームで目前に展開した。

ひと休みしてピーク1047㍍に向かう。ゆるい登りから次第に急斜面に変わり、尾根は灌木におおわれてきた。左斜面のけもの道を拾いながら登る。前回登った時、右斜面の日だまりで休んでいると、頭上で音がしてこのけもの道を鹿一頭がドドドドッと私の横を一気に駆けおりていったのだが、きょうはまだ鹿に出会っていない。左から丈浜谷の北尾根が合流すると間もなく灌木におおわれた1047㍍の山頂に着いた。北東に開けた山頂から、新緑におおわれた次のピークの左奥に静ヶ岳が望めた。右には竜ヶ岳の稜線が白谷峠に落ちて太尾の尾根へと続いている。その先には神崎川から左右にのびる山並みが、霞霞のなか重なり合うのが望めた。

灌木を分け踏み跡をたどると、左に苔むしたブナの大木が現れた。激しい風雪のため上にはのびられず、高さ約2㍍のところから、四方八方に大きく枝をのばしている。尾根上は灌木が倒れたまま生え込んでいる。左斜面の雑木の中をたどる。樹皮が剥くはがれ、茶褐色でなめらかな木肌が目立つリョウブの木が消えてきた。その中にブナが混じっている。ゆるいくだりから登りつめると、次のピークの左斜面はブナ林だった。いったんおりて次のピークを越え、最後の登りは疎林の中に緑のスゲの下草が続いた。


登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。
足にピッタリ！
登山靴のことならお任せ下さい。
（定休・火曜日）
〒604 京都市中京区丸太町通堀川東入
☎〈075〉211-5768
FAX〈075〉231-0318
山とスキーの専門店
京都 ムラカミ




雑木林を出ると、東に大きく展望が開け静ヶ岳の山頂に着いた。腰を下ろして竜ヶ岳の雄大な山塊を望みながら昼食にした。

食後、登山道をセキオノコバにくだって、池と周りの疎林を散策。やわらかい草原が広がるセキオノコバの緑枝はいつ来ても気持ちが良く、いつまでもゆっくりとしたい所だ。

山頂まで引き返し、西にのびる尾根をくだる。すぐ右に展開から銚子岳が望めた。雑木と松が混じる尾根全体にイワカガミの大群落が続いた。約1000㍍までは淡紅色の花が咲いていたが、くだるにしたがって花は散って少なくなった。

ブナの大木

尾根上には道が続いた。右斜面に杉や檜が増え、その中に巨大な杉が一本現れた。芯が腐り木肌を落としていた。ゆるいくだりをたどると、今度は巨杉が左斜面から尾根に倒れかかっていた。尾根にくい込んで支えている枝は枯れても青々と茂っていた。右斜面の窪地には小さな池が二か所あり、ヌタ場になっていた。広い杉林と左斜面はうっそうと茂る落葉樹の高木が続いた。

くだりに変わると、広い杉林の窪地に池が現れた。約15㍍×8㍍とかなり大きく、好天続きで水量は半分以下に減ってはいるが、小さな黒いオタマジャクシが大きなかたまりを作っていた。池の中の枯れ木には、モリアオガエルの白い泡状の卵塊が二個ぶら下がっていた。初めてこの池を見つけた時、目が差すのを待ちながらシャッターチャンスを狙っていると、下の方からバサバサと音がして約15㍍先に猪が現れたが、私に気づいてすぐ逃げた。この池は猪のヌタ場にもなっている。池のほとりの緑地に腰を下ろし、深山の静寂を楽しむ。

広い尾根をたどると、目の前に何かが走った。リスだ。モミの大木に取り付いて一気に約15㍍程登り、枝から枝へと飛んで杉林の中に消えた。

広い杉林に変わると尾根が消えたが、ストレートにおりると左に尾根が現れ、右下に太夫谷の橋が望めた。尾根をくだり終わると、右下に林道が見えた。尾根は続いているが、崖になり林道にはおりられない。杉林を右におりて林道の上に出ると、ここも崖だ。崖の上を右におりると小さな涸れた谷が現れ、林道の横の谷に向かって草付きの急斜面をおりると、やっと林道に着いた。左折して茶屋川林道をたどる。道や谷の周りにはタニウツギやヤマフジの花が次々に現れ、目を楽しませてくれた。

（平成8年6月3日歩く）

《コースタイム》

茶屋川林道取付点（50分）草原ピーク（45分）1047㍍（30分）セキオノコバ往復（20分）大杉（15分）池（45分）茶屋川林道（30分）取付点

〈地形図〉

2万5千＝竜ヶ岳

昭文社＝「44霊仙・伊吹・藤原」

（岩野　明）

# 近世の古道を歩く⑤
# 金剛山（郵便道から千早本道）

コース①近鉄御所駅（バス）鳥井戸バス停～②高天彦神社～③高天不動滝～④湧出岳～⑤葛木神社～⑥転法輪寺～⑦国見城跡～⑧千早本道（ブロシ台跡～千早城跡～千早神社～金剛登山口）（バス）河内長野駅11㌔（うち6㌔は急坂）

中村敏文

金剛山は御所市茅原の吉祥草寺に生誕の伝承を残す役小角（行者）が、奈良時代の昔に葛城山（現在の金剛山）を開いてより修験道の霊地となった。平安以後、天台・真言両宗の修験の聖地として明治四年まで女人禁制の戒律を堅持していた。

明治以後、王政復古の時勢にのり、楠公ブームにことよせて大阪府側からの開発が進んだ。山頂付近の大部分は奈良県域だが大阪府の観光地として、ロープウェイの開通に伴いより多くの老若男女が山頂に集っている。

奈良県側からの登山路は厳しく時間もかかるので敬遠されるが、近世の金剛山寺への表参道で、昭和十年から終戦まで名柄局から郵便物を運んでいた。今回は高天道または郵便道といわれるコースを登り、千早本道といわれる大阪府側の代表的なコースを下山する。

## ① 鳥井戸から高天（御所市鳥井戸）

近鉄御所駅から五条行きバスで約30分、鳥井戸で下車すると高天川沿いの道を西へとり、林の集落を抜ける。池の手前から大きく右へ曲がりながら北窪の集落を上がると葛城古道（御所登山線）へでる。

南へ500㍍ほど行き西へ西北窪への車道を上がってもよいが、今回は少し先の森に向かう舗装された山道を上がる。50㍍も上がり右へそれて細い山道に入ると、右手に踏み上げ道があって、神武天皇に矢で射殺された土蜘蛛を埋めたという「蜘蛛窟」がある。

森を抜け水田のあぜ道を行くと里道との合流点に「鶯宿梅」がある。奈良朝の昔に、高天寺の小僧の若死を悼み老僧が梅を植えると、鶯がきて「初春の朝毎には来たれどもあはでぞかへる元のすみかに」と鳴いたという。

鳥井戸から高天まではわずか3㌔の道のりだが、坂道が多いので1時間もかかった。

## ② 高天彦神社（御所市北窪 孫十郎方）

高天彦神社

金剛山を隠して大きく立ちはだかる白雲岳を見て老杉の立ち並ぶ参道を上がると、式内の名神大社に比定される旧村社の高天彦神社に着く。古代から白雲岳を神体とし山嶺を「灯明松」と呼ぶ。平安時代には皇室より四時幣帛を賜り神位は従二位と高く、そののちには彦沢権現とも呼ばれた古社である。

金剛山別当葛城氏の祖神とされる高皇産霊神（高天彦大神）を主神に、現在は市



杵島姫・菅原道真を配祀して高天・極楽寺・北窪・西北窪の四大字が共祭する。

高天は金剛山東側中腹から山頂を含む御所市の広い大字で、集落は標高450㍍前後の平坦地に集まる。金剛山登山口として中世以来多くの文人墨客が訪れ、近世には高天彦神社付近は宿場町としてにぎわい、旅籠もあった。

## ③ 高天不動滝（北窪の山岳地帯）

神社から500㍍も上がると林道終点に高天川にかかる落差8㍍の高天滝がある。右手の岩肌に不動尊をまつり、行場となっている。

滝の手前で橋を渡り左手へと急な坂道を上がると、イワゴノ谷への分岐がある。イワゴノ谷へは×印がしてあるので右手へと杉林の中の坂道を上がる。石コロばかりの山道は雨水にえぐられてV字状となっている。高天滝から青息吐息の2時間余りの登山で稜線のダイヤモンド・トレイル（ダイトレ）に到達する。ダイトレを左へ少し行けば高天道の道標があって、葛木神社の一の鳥居前に着く。（ダイヤモンド・トレイルとは、大和川から二上・葛城・金剛山と尾根を伝い、槇尾山に至る45㌔の中級以上向きの山岳縦走コースである）

## ④ 湧出岳（高天の飛び地）

一の鳥居からダイトレを南へとり、湧出岳への分岐路を上がると、葛城修験道行場に納経した葛城第二十一経塚の石碑がある。経塚の南側の表示塔の位置が湧出岳の頂上で2等三角点がある。1125㍍の金剛山最高峰葛木岳は神域で登れないため、きょうの最高点は湧出岳頂上である。

分岐点に戻り20分もダイトレをくだると設備の整った休憩所があり、昼食をとる。

## ⑤ 金剛山遊歩道から葛木神社（高天）

葛木神社

午後は時間に余裕があるので展望台までくだって展望を楽しみ、自然美を生かして整備された金剛山遊歩道をたどって一の鳥居へ戻る。展望台から伏見峠までのダイトレは奈良県と大阪府の境界にある。休憩所・展望台・ピクニック広場は大阪府、宿泊施設を備えた香楠荘は千早赤阪村の施設である。

一の鳥居から老杉の林立する参道を散策して、葛木神社に詣でる。祭神は『日本書紀』の雄略天皇紀に詳しく記されている一言主大神である。創始は不

詳であるが、『葛城家譜略』には山神・山主権現と記され、室町初期に再興され、文明四年（1472）に焼失、翌年に再建されている。そののちに葛城守護神三十八社を合祀し、役の行者の忌日の旧7月7日に例祭をとり行っていた。

以前は農業神として河内大和の農民の信仰を集めていたが、明治以後高天の村社に格付けされ、観光開発の高い楠木正成も併祀、楠公ブームにのって発展も期待なった。現在では、7月7日の例祭の午前中に一雞戒式を新設し、午後は転法輪寺で蓮華法要という会式を開催している。

ロープウェイの開通以後、納涼・紅葉・雪山と山頂へ人々が集まり、本殿も拝殿も見違えるほど立派になった。拝殿前の手水舎に「平野法仙　天文二二年・金剛山法起菩薩」との刻銘（1553年）が残る。

⑥　転法輪寺（奈良市高天）

石船から葛木山西山麓へくだると転法輪寺と称し金剛山寺とも言われ、役小角の開基と伝えられ山岳宗教の霊地とされている。奈良・平安時代にかけて天台・真言両宗派の修験の地となり、女人禁制は明治四年まで堅持されていた。

現在は真言宗醍醐派に属し葛城家が葛木神社とともども管理している。昭和三七年再建された本堂に安置されている本尊は法起菩薩で、諸堂の復興再建は徐々に進められている。

⑦　国見城跡（高天）

転法輪寺の境内と地続きの、大阪平野を展望できる平地の一角が城跡で、背後の葛木岳頂上を示す金剛山頂1225m の碑が目立っている。楠木正成の弟正季の拠った楠木氏の支城で、千早城の詰城の役目と吉野の朝廷との中継地として大和に対するおさえの任務を持っていた。

国見城跡（金剛山頂）

⑧　千早本道（千早赤坂村千早）

国見城跡と転法輪寺の間から金剛登山口へのくだりは、ほとんど整備された階段の続くきつい急坂で、1時間は必要である。くだり小口で道は分かれるが、左側のブナ林の登山路をくだるほうがよい。30分もくだるとノロシ台跡で小さな茶店がある。土産ものと飲みもの・軽食程度は揃えていて、昔の茶店の風情がある。

茶店から15分もくだると、右手に「楠公首塚」（楠木正儀の墓）がある。首塚から5分ほどで国史跡として整備された千早城本丸跡に到達する。

登山口から20分程度で登れる山裾に近い急峻な山岳の中腹に位置するが、正成軍が小勢でも幕府を悩ませつけなかった自然の要塞だったということはうなづけるが、風の日に火攻めをすれば数時間で落城するのではないかと思えた。

城跡から案内板にしたがって曲折した山道を千早神社に参詣する。明治以後、敬神崇祖・忠君愛国のもとに整備された楠木正成をまつる社で、本殿・拝殿も立派に修復され、大きい社務所も建立されている。さすがは南河内、いかに楠公崇拝者が多いかがうかがい知れる。

神社から5分余り階段をくだると金剛登山口で、南海バスは河内長野駅行き、金剛バスは富田林駅行きで両方とも1時間に二本、日曜・祝祭日は増便されている。



# 山の本紹介

浅野孝一著

## 関東霊山紀行

●白出国民社
●1339円

山のガイドブックは昔から多数出版されているが、宗教的な観点から山を案内したものはなかったと考えている。

はじめに断わっておくが、私は宗教者ではない。宗教に関しては常に無関心な立場をとり、その考え方に関しては批判的なものを持ち続けている。その反面、歴史的なこと、民俗学的な宗教の流れに対しては興味を持っている。

私が山登りを始めて約五十年、日本の山々の頂に立ってみると、そこには必ずといってよいほど、大小の祠がまつられてある。神道系のものもあれば、仏教系のものもあった。……

（あとがきより）

本誌「日本霊山紀行」でおなじみの浅野孝一さんが関東周辺の霊山（42山）を綴った霊山紀行記です。

松崎中正著
写真集

## わが山路

●楽山叢刊
●5000円

紀行集

## 山おちこち

●楽山叢刊
●2500円

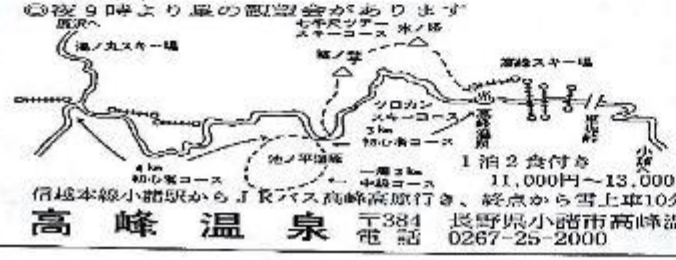
私にとっては、山登りはただ「スポーツ」の一語ではありません。それは文学を味わったり、科学を勉強したり、芸術を楽しんだりする行為です。また、私のテラ・インコグニタを探検し、思索にふける機会でもあります。さらには、偉大な自然への思慕、渇仰とも言えそうです。山は森羅万象あらゆるものを包含して、汲めども尽きぬ興味の山です。……（「わが山路」安曇野紀より）

著者24歳から37年間にわたる山行431回の記録をまとめた二部作です。山が本当に恋しくなる書です。

（問い合せ・申し込み先）・楽山叢まで
〒355　埼玉県東松山市下青鳥785
TEL　0493（22）2423
振替口座　00560・7・133443


XCスキーで冬の池ノ平湿原の樹氷と霧氷を楽しみませんか

◎XCスキー無料貸出しサービス（宿泊者のみ）
◎初心者でも安心のコースでコース完備
◎宿より七千尺のツアースキーで360度のパノラマが楽しめます
◎夜9時より温の配置室があります




1泊2食付き
11,000円～13,000円

信越本線小諸駅から上食バス高峰高原行き、終点から雪上車10分

高峰温泉　〒384　長野県小諸市高峰温泉
電話　0267-25-2000

文学歴史探訪ハイク ㉜

# 大阪・四天王寺を訪ねて

松永 恵一

**日想観**

分刻みに色が変わる。オレンジからピンク、淡、薄紫色へ……。海に沈む夕陽を見てためいきがもれる。大海のかなたに被しぶきとともに消えていく太陽に、極楽を見、めくるめく法悦に心を焦がす。夕陽に向かって念仏を唱え極楽浄土への往生を願う。

「観無量寿経」に説かれている念仏修行日想観を修める人。宮殿や比丘尼や多くの人々が、四天王寺西門石鳥居に集い、法然も親鸞も日参もこの地で日想観を修め、恍惚と眼を開いてそれぞれの心を唱えた。この西門石鳥居は吉野の銅鳥居、宮島の木鳥居と並んで日本三鳥居の一つ。大きな銅製の額が掲がる。「釈迦如来 伝法聖所 当来浄土 裏門中心」と刻まれている。

「太子伝撰集抄」には、聖徳太子が敬父用明天皇のために修して歌を詠むと、現在は信濃善光寺にまつられている百済渡来の如来が応えたと伝える。

弘法大師が日想観を修すると、にわかに蒼海雲につらね赤日没に映じて迷悟一如、たちまち本初の源が開けて五智の宝壺が現れたという。

（「空海行状」）

後白河法皇は法然上人とともに修行され、

難波潟 入りにし日をも眺むれば
よしあし共に南無阿弥陀仏

後白河法皇

阿弥陀仏といふより外は津の国の
難波のこともあしかりぬべし

法然

と唱和されている。

四天王寺『摂津名所図会』

治安三年（1023）に藤原道長が参詣。多くの貴族たちの信仰を集めた。金堂で舎利供養を営み、聖霊殿で太子像を拝し、亀井で経供養を営み、西門あたりで西海に沈む夕陽を見て日想観を修した。末法思想が広がり、貴賤を問わず信仰の霊場となり、ともに現世利益を、浄土をあこがれ求めた。当時の歌謡集である『梁塵秘抄』巻第二に残る。

極楽浄土の東門は難波の海にぞ対へたる
伝法像所の西門に念仏する人 参れとて



**四天王寺**

和宗総本山。荒陵山敏田院。本尊は救世観音。「日本仏法最初四天王寺」と刻まれた大石柱が建つ。聖徳太子の誓願により、推古天皇元年（593）に建立。

欽明天皇十三年（551）百済聖明王から金銅釈迦仏一体と経典その他が贈られてくると、排仏派物部尼興と崇仏派蘇我稲目が激しく対立した。

物部氏と蘇我氏の確執は激しくなり、その子の大連の物部守屋と大臣の蘇我馬子の世に衝突し戦いとなった。蘇我一族が守屋を攻める。守屋は八尾の渋川に籠もり、稲城を築き戦う。寄せ手に、戦い上手の守屋は樹上から雨のように矢を射かける。蘇我勢は苦戦して三度も退く。この戦いの中に厩戸皇子（聖徳太子）は白膠木の木を切り、素早く四天王の像を刻み髪の毛の中に納め、「もし戦いに勝たせていただければ、四天王のために寺塔を建立します」と念じた。戦いの流れが変わり、守屋は八尾の大聖勝軍寺で迹見赤檮に射殺される。

この戦勝の後に建てられたのが四天王寺。建立の費用には滅ぼした物部氏や味方した中臣勝海らの資財を召し上げて充て、捕虜たちを賦役に使ったと伝える。

**真田幸村戦死跡・安居神社**

安居神社の境内は真田幸村が戦死した地。「真田幸村戦死跡碑 中島治水神白井一昌刻 元和元年四月七日真田幸村於此所戦死 奥州藩士本部敬記」と刻まれた碑が建つ。

真田幸村は信濃上田の城主真田昌幸の二男である。天正十五年（1587）豊臣秀吉の近侍となる。「関ヶ原の戦」には父昌幸とともに、信濃上田城にあって徳川秀忠の西上を阻止、そのため秀忠の軍は関ヶ原の戦に間に合わなかった。戦いののち父とともに紀伊高野山麓九度山に配流された。

慶長十九年（1614）10月、豊臣秀頼の挙兵に応じ大坂に入城。真田の出丸と呼ばれる平面形の砦を造る（真田山公園の地）。12月4日、敵軍を充分に引き寄せ鉄砲を乱射し大損害を与える。翌元和元年（1615）4月4日家康は駿府を発つ。5月6日大和口から進撃する徳川主力と激戦。後藤基次、木村重成らは戦死。翌7日、最後の一戦を覚悟した真っ赤な鎧の真田軍団は松平忠直の軍に襲いかかり、一気に茶臼山の家康の本陣を突く。家康は金扇の馬印を隠し逃げ回る。しかし多勢に無勢。傷つき安居神社の境内で休息中、松平忠直の配下鉄砲頭西尾久作に不意を突かれ落命。

**酒封じの墓・木多忠朝墓**

一心寺の山門横に大きな五輪塔がある。「前本多山城守藤原朝臣忠朝 三元院殿岸誉良玄居士」と刻まれている。忠朝は徳川家康家臣一の豪の者として知られる平八郎忠勝の次男。関ヶ原に十九歳で参戦、五万石を拝領、大坂冬の陣では騎馬隊を率いて活躍。夏の陣では天王寺口先鋒大将を勤める。元和元年5月7日、毛利豊前守勝永の軍勢四千と激突した。前日の戦場への遅参の汚名を晴らそうと勝永の本陣を突くがあえなく討死。24歳であった。

忠朝は斗酒なお辞せずの傑丈夫。それゆえ、前日の遅参は深酒をして寝過ごしたからという話ができた。家康に咎められた忠朝は、「酒は武者の精力源ぞ。より大酒飲んで大功たててみせようぞ」と7日の合戦には泥酔状態で出陣。名もなき武者の槍を受け損ねて酔いが醒め、つくづく自分の浅慮を悔いた。以後は怨霊となって酒を封じてみせると誓って息をひきとったという。

いつの時代にか忠朝は「酒封じの神」となり、薬石を欠いて持ち帰り酒に混ぜて飲むと禁酒の妙薬になる、という噂が広まった。五輪石の背後に無数の掻き傷が残る。今では無数の禁酒札子が白扇にぶら下がる。

庚申まいり『摂津名所図会』

## コース概観

今回のコースは、四天王寺とその周辺地域を訪ねる。寺、また寺の閑静な寺町。モダンな街の片隅に昔からの町並みがそのまま残っている。摂津の国随一の霊場として貴賤男女の篤い信仰を集めた四天王寺。五重塔のそびえる境内では毎月21日、「大師会」と呼ばれる青空市が催される。掘り出しものを目当てに、文学歴史の散歩に、ぶらぶらと歩いてみよう。

JR天王寺駅で下車。駅の西側には豊かな緑が心をなごませる天王寺公園が広がる。「都会のオアシス」という言葉がぴったり。ここは明治三十六年に開催された内国勧業博覧会の跡地。大正十五年には住友家から本邸の敷地が寄贈された。大阪市立美術館は本邸の敷地跡に建てられている。美術館の収蔵品は、中国・日本の古美術が中心で、重文四点をはじめ数多くの逸品を含む中国絵画の阿部コレクション、北魏の石仏を中心とした石造彫刻・金工品・陶磁器からなる山口コンクション等は特に有名である。

本邸の庭園であった慶沢園は明治の名庭園師・小川治兵衛の手によるもので、古き良き時代の優雅な雰囲気が漂う。「天下の台所」といわれた大坂の富を象徴した旧黒田藩蔵屋敷長屋門が移築されている。

公園敷地の半分を占めるのが天王寺動物園。羽が退化して飛べない鳥、キーウィは日本の動物園ではここだけという珍鳥で必見の価値あり。太陽が苦手な動物たちが集うのは夜行性動物舎。ユーカリの木にゲッとしがみついているのはコアラ。より本来の環境に近い状態で動物を飼育し、展示しようとできたのが爬虫類生態館。自然がリアルに再現されている。

天王寺公園の北側に「お骨仏の寺」として名高い一心寺がある。ここは四天王寺の新別所で日想観を行った庵室の地。海上を眺望し沈む太陽を拝むのに理想的な地であった。浄土宗の鎮祖法然も入りこの地で日想観を修めた。

「大坂夏の陣」で一心寺は家康の本陣となった。そののち、家康に大坂城の材で堂宇を修築、地名の桧坂と境内の古松とを かけて坂松山の山号を与えた。累々と横たわる夏の陣の戦死者の遺体を見た住職の本誉存岸は深く悲しみ、屍を集めて追善供養し、塚の上に堂を建てたという。

「お骨仏の寺」ともいわれるのは、全国の信者から集められた遺骨で仏像を造ってまつることによるもので、「永平聞」（1848～54）から始まった。

黒塗りの木を鳥居型に組んだ簡素な山門は、大坂城三番門を拝領して黒門と呼んでいたものを模している。

山門の外に大坂を代表する談林派の俳人の小西来山の句碑がある。

時雨るやしぐれぬ中の一心寺　今みや

来山は西方十万億土にちなんで十万堂と号し、生涯酔めた日がないとまでいわれたほど酒を愛し、飄々とした人生を送った。



安居神社は一心寺の北にある。その間の道は逢坂と呼ばれる。古くは狭い急坂であったが、大正時代に市電の開通で今日のような姿になった。安居神社に伝わる話。昌泰四年（901）菅原道真が太宰府に左遷された折、河内の道明寺にいた伯母覚寿尼を訪ねていく途中、この地で休息したという。この時に村人が「おこし」を差し上げた。

喜んだ道真は謝して家紋を与えた。大阪名物のおこしの梅鉢の酒屋の由来である。休息（やすい）した土地から安居院があった地である。逢坂を東に登ると四天王寺の西門、石鳥居。鳥居をくぐると正面に門・塔・金堂・講堂が一直線に並ぶ天王寺様式の伽藍配置となっている。落雷、台風、空襲と、たび重なる被災にもその都度再建され、飛鳥時代の姿を今に伝える。五重塔に上がれば、市内を一望のもとにおさめることができる。

伽藍の北側、六時堂の前に亀池がある。無数の亀が甲羅干しをする姿は奇観である。池の中央にかかる石舞台は流岩の寄進と伝える。1月14日の午後、紅巻と六尺褌を締めた若者が、寒風のなかでもみあう「どやどや」、4月22日（大師の命日）の午後に演じられる聖霊会舞楽には、勇壮かつ典雅な世界へと誘われる。聖好法師は『徒然草』で、四天王寺の舞楽は都に劣らず立派だと讃えた。

亀井水は石舞台の東側にある。亀井・玉出・逢坂・安居・増井・有栖・金龍の「天王寺七名水」の一つ。大きな石造の亀の口から水が出ている。経木に亡くなった人の戒名を書いて持参し、無常院で筆を揮いて回向してから、亀井に投じて追善供養する。西行法師は、亀井の水を見て詠んだ。

浅からぬ　契りのほどぞ　汲まれぬる
亀井の水に　影を写して
（『山家集』中　雑　八六三）

宝物館に陳列の数多い文化財中もっとも特色あるものは、屏風法華経・冊子であろう。法華経の熱烈な信仰と平安朝の耽美的文化が結びついて生まれた傑作である。

墓地には数多くの著名人の墓が現存する。義太夫節の創始者の竹本義太夫、浄瑠璃の豊竹若太夫、歌舞伎役者の坂田藤十郎、そして俳諧の芭蕉、野坡等の墓である。

南大門を起点に南にのびる道が庚申街道。庚申堂の前には、「本邦最初庚申尊」の石柱が建つ庚申信仰発祥の地。全国の庚申堂はここで許しを得て、本尊の分身を勧請するのがしきたり。昭和四十五年の万国博に出された寺院建築を移した美しいお堂で、境内には多くの三猿碑が集められている。

《コース》
JR天王寺駅—天王寺公園（大阪市立美術館・慶沢園・天王寺動物園）—一心寺—安居神社—四天王寺—庚申堂—JR天王寺駅

特選コースガイド 1　大和・伊賀

# 大和・伊賀境界の山

# 高塚山

初級コース（★　）

慶佐次　盛一

今回紹介する高塚山は、『日本山岳志』（明治39年）では「高塚嶽」と記載され、伊賀国名張郡、大和国山辺郡にまたがる山とされている。国土地理院2万5千分の1の地形図「名張」では507・7㍍の3等三角点が高塚山となっているが、そこは完全に伊賀国で大和とはまたがらない。エアリアマップ「58赤目・倶留尊高原」（昭文社）の著者高田榮久氏は、本当の高塚山は三角点から南西約250㍍先の、高塚神社がまつられている530㍍の等高線ピークで、奈良県山辺郡の山添村と三重県名張市発行の地図ではそのピークが境界線であり、地理院地形図では県境線そのものも誤っているようだと主張されている。しかも高塚神社の造り替えは両県の村が交代で当たっていると聞かされては、高田氏が主張されるピークが本当の高塚山と思われる。

1月のある日、高田氏の案内で興味津々高塚山へ向かった。コース自体は難しい所はなく、私たちは途中の三角点をハントしながら毛原にくだったが、道はいくつもあるので体力に合ったルートが選べるだろう。ただし道標は一切ないので地形図は必携だ。

近鉄名張駅から毛原行きのバスに乗り、葛尾で下車。左の広い車道を見送り、笠間川にかかる波多野橋を渡る。三重県の領域がほぼこの橋幅一杯にくびれ、奈良県側にいびつな形で大きく突出しているのがおもしろい。笠間川沿いの村道をゆるく巻き登ると葛尾の村だ。正面に高塚山の山並みが見える。村人に高塚山はと聞くと、やはり高塚神社のピークを指さし、登路まで教えてくれた。

八柱神社に立ち寄り、セメント舗装の道を登る。「県指定文化財六造十一面観音立像」の案内板があり、途中の観音寺にも詣でる。実はこの案内板は奈良県のものだが、観音寺が三重県境に隣接していることから、三重県側から奈良県の指定文化財を案内しているのだ。このいびつな県境に沿った農家では、自宅は三重県、前の畑は奈良県で、両県へ税金を納めている家もあるという。観音寺はひなびたお寺である。十一面観音も収蔵庫に収められて拝めず、境内を出て高塚山への道を登る。貯水槽を過ぎ、植林帯で二手に分かれる道を右の地道による。少々荒れてはいるが、ほぼ地形図通りに続いていて稜線の峠に出る。

高塚神社をまつる高塚山

すぐ下に車道が見える。左へ折れて稜線の道を進む。地形図の高塚山は近いが、三角点の位置はピークらしき所にはないので要注意だ。三角点は道の右側にある。ただ



三角点が埋まっているだけで、山名が付くような雰囲気はない。高塚山は奈良県と三重県の境界上でなければならないのに、ここはまだ完全に三重県内である。

なおも稜線を進むと、梢の間から高塚神社が望まれる常十形のきれいな山が見えてくる。ひと目見て高塚山と呼ぶにふさわしい姿だ。麓には葛尾からの参道の鳥居が建っている。地形図の県境線はこのあたりだが、奈良県側勝原からの参道の鳥居はこの山の南にある。両県の島民から登りつめた頂上に、両県の村民から信仰を集めた高塚神社の祠がある。両県の村民が仲よく分け合った頂上なのだ。したがって地理院はこの頂上に県境線を引くべきで、高塚山の名前もこの頂上に記載すべきであった。

頂上の祠からは樹林に囲まれて展望はないが、北側に少しくだれば神野山、西の方に額井岳が望めた。葛尾側の鳥居あたりから室生火山群の展望が良く、大休止。時間があるので勝原へくだる。

新しい林道を横断、「大和茶」の茶畑の中を勝原へくだり、公民館の横から薬師寺を経て、村道を南へたどる。通る車も少なく、高原神歩という感じである。やがて広い車道に出て、毛原への道へ入る。地形図では破線だが、軽自動車も走れる。ここも茶畑が多く、そのまま進めば毛原へは短時間でくだれるだろう。私たちはさらに西の三角点を訪ねるために、茶畑の作業道を三角点へ向かった。ここはやぶが多く、一般にはおすすめできない。目的の4等三角点を訪ね、三角点の手前の散策に古い道を見つけて毛原にくだった。

まだまだ時間に余裕があり、毛原廃寺を訪ねる。あちこちに礎石が残り、かなりの規模の寺院だったようで、「万茶楽」の山辺の御井も残る。1月ならば、山村のお正月の名残も見られ、有意義な時を過ごすことができるだろう。

◇コースタイム◇

名張駅（バス20分）葛尾（20分）観音寺（30分）稜線の峠（10分）地形図の高塚山（15分）高塚山（35分）勝原（35分）毛原への分岐（20分）4等三角点（20分）毛原（毛原廃寺巡り20分）毛原神社前（バス30分）名張駅

◇地形図◇2万5千＝名張

◇問い合わせ先◇

三重交通バス　0595(56)(3)0687

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発㈱へ!!

・小型（20人・24人）
・中型（28人乗り）
・中2階（45人乗り）
・大型（55人・60人）
いずれもサロンカーからデラックスまで
スキーバスもあります
〒576 東大阪市鴻池本町1－20 オカダビル4F
電話06(745)3911・FAX06(745)3983
（夜間・電話06(945)0816・FAX06(945)6044）

特選コースガイド図　京都北山

2等三角点のある山

# 三国岳とホサビ山

初級コース（★　）

山形　歳之

三国岳（京名久多村）

丹波・近江・山城三国の境にあるので三国岳と名づけられている。このような位置の山名はたくさんあって、三国山・三国峠などと呼ばれる山は枚挙にいとまがない。今回の三国岳（959・0㍍）は京都市の最北端で、滋賀県の朽木村との境にある。現在の京都府・滋賀県・福井県の府県境の山は三国岳である。

京都北山の最北部に近く、これでも京都市内とはびっくりである。一般の交通機関ではとても日帰りは不可能で、マイカーで登山口の久多の岩屋谷に行く。国道367号線を八瀬・大原と通り、途中、峠を越えて「梅の木」から久多に入る。久多下の町からは北上して上の町を抜け林道に入る。

登山口の岩屋谷の林道分岐点にはチェーンが張られ、車では入れない。ここからは京都府立大学の久多演習林である。分校に教育の駐車が可能である。

登山口の標示は何も無いが、チェーンを跨いで入り林道を歩く。1㌔程で林道終点になり、演習林の管理舎が建つ。少し手前の土手下に演習林への入山届け入れ箱がある。ここに演習林の地図が示されていて、三国岳の登山道が記されている。

林道終点から三国岳の道標に従い、沢を渡り登山道に入る。ここで初めて三国岳の文字を目にした。久多でも岩屋谷の入り口でも、全く三国岳の文字がないので、道が整備されていないのではと危惧していたのだが、まだ新しい道標を見つけてひと安心する。

すぐ一ノ岩屋が現れる。奥行きの少ない洞窟というより大きな岩陰のような所で、小さな石像がまつられている。沢を見おろしての道はよく整備され、やがて二ノ岩屋の分岐点を過ぎる。さらに三ノ岩屋への道を分けると、道は沢から離れて尾根への急登となる。森の中の道は急登の連続である。

やがて左から演習林の道を合するとひと登りで山頂に達する。展望はあまりなく、わずかな空地に三角点標石と、久多と桑原への道標が立っていた。

以前は熟達者向きのコースだったが、整備された今は何の問題もない。

下山時に近くにある岩屋を覗いてみるのもおもしろいだろう。

△コースタイム▽

岩屋谷入口（15分）林道終点（15分）第三ノ岩屋分岐点（50分）三国岳

△地形図▽20万＝京都及大阪

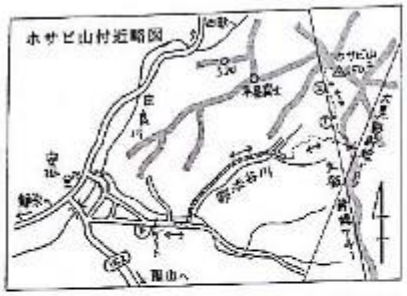
5万＝四ッ谷

2万5千＝上言削



ホサビ山（京名河内谷村）

京都の美山町へ国道162号線を北上する。周山を過ぎて、安掛で由良川を渡り、国道と分かれて右折する。少しで右へまた由良川を渡り返す。そのまま住宅の間を直進して野添谷川の林道に向かう。舗装されたよい林道だと思っていると、最後の農家の先でゲートに止められた。地図上では、ゲートがあるなどまったく思いもよらなかったので、少々がっくり。しかたがないので少し手前の、道路分岐点の広くなった所に車を駐める。林道のゲートの左右には、猪避けの柵がのびて田と植林地を隔てていた。



ホサビ山の稜線

簡易水道の水源池を過ぎ、左に平屋富士への林道を分ける。さらによく手入れされた植林の中を進むと、道は沢にそって二分する。ここは左の本流沿いを進む。

やがて林道終点近くで沢はまた分岐する。右は作られたばかりの芦谷支線で、まだ立入禁止のロープが張られていた。直進すると200㍍ばかりで林道は終点になる。

ここで右の新しい林道を登る。これも200㍍ばかりで終わり、終点の左の斜面に尾根への登り口が見つかる。全く道標もテープも無いが、植林の中に入ると古い道がある。道は峠に向かい、行く手に二本の尚住線が走っていた。

小さな峠は三方向に道が分かれ、鉄塔の案内が出ている。すぐ左の尾根にのびる「大飯幹線741」に入る。かたわらのテープに「ホサビ山」の印がある。尾根沿いの巡視路をたどり、二本目の鉄塔を過ぎて、道が一番高くなるあたりで右側の山肌に踏み跡を見つけ、巡視路からはずれて登る。すぐ稜線の道に出る。道なりに右の高みをめざすとホサビ山（750・2㍍）の山頂はすぐであった。

標石以外何もない狭い山頂で、展望もなかった。

稜線の道が両にくだっている。昔の登山道で少し流れている上に、一本東側の尾根をくだっていて、峠へは遠回りになる。一本しか高圧線の記入していない地図では、「大飯幹線」と新しい「大飯幹線」を間違わないよう注意する必要がある。「大飯幹線」の巡視路からの道が近くて道も良い。

林道では植林の中を走る鹿を何頭か見た。田畑の柵の必要性を実感する。林道沿いの用水路には、清冽な水が滔々と流れていて下山後の汗を流した。

△コースタイム▽

野添谷川林道ゲート（45分）芦谷林道終点（30分）峠（30分）ホサビ山

△地形図▽20万＝京都及大阪

5万＝四ッ谷

2万5千＝中

特選コースガイド 13　生駒

元山上と信貴山を結ぶ古道

# 生駒山系中腹道

中級コース（★★）

柴田　昭彦

江戸時代には生駒山地の東側（大和国）の中腹にある有名な寺院を南北につなぐ直線的な参詣道が存在していた。以後、大正時代頃まで多くの参詣者でにぎわったが交通機関の発達により衰退し、今日では忘れられつつある。この生駒山系中腹道のうち、生駒宝山寺と退川千光寺（元山上）を結ぶ行者道である「生兵衛道」については本誌29号（96年7・8月）で紹介したので、今回は千光寺・信貴山奥の院・信貴山朝護孫子寺を結ぶ古道を紹介することにしよう。

近鉄信貴線信貴山口駅でケーブルに乗りかえ、高安山駅からバスで信貴山門バス停に着く。参道を進み朝護孫子寺の境内である。近鉄生駒線信貴山下駅からのバス便もある。聖徳太子が寅の日の寅の刻に毘沙門天に会われたことにちなむ大きな張り子の虎のそばを通り、次の分岐で左をとり、樹齢千五百年と伝えられる神木・榧の木を見る。つきあたりで右折して進めば、毘沙門堂（本堂）に参拝。

左手にある空海護法善神道の石標に従って参道を上がれば多宝塔に着く。左側の道が、空海護法のお百度参りで一願成就の効あった人が寄進した赤鳥居の林立する参詣道で、奥の院へ行く正道であり、信貴山頂（空海護法）を経て、大谷池の北へくだることもできるが、右手の石碑が示すように「奥ノ院毘沙門天王道」を進もう。

車の通れる舗装道であるが、奥の院を経て、平群駅へ向かうハイキングコースでもあり、樹林に囲まれ気持ちがよい。左手に地蔵を見て少し進むと左側に石段がある。上のお堂には日発地蔵がまつってある。右手に林道を見送って進むと左側に鳥居、そして宝篋院への石段があり、石碑も立っている。少し先の右手には、昭和四十年銘の寄付道路の石碑がある。ほどなく大谷池畔に出る。池の北の道路脇には昭和三十九年銘の堤改築記念碑が草むらに隠れている。

高区配水池の北面の四つ辻の地蔵

左手に空海護法からの道が合流し、そのまま進むと左側に七丁石標が見つかる。これは、大正二年に建てられた町石のうちの一つで、空海護法から奥の院まで十五町ある。その少し先の右手で道が合流しているが、左手をよく見ると古道がある。これが立石越の旧道のようである。次の八丁石標は、右側のむき出しの岩肌が尽きる所の道の左側に、横倒しになっているのがもの悲しい。ほどなく立石越の新道が左から入る。



右手は発地である。

発地の北端の道路脇に「釈迦道」と刻んだ嘉永五年（1852）の石碑があり、横には六体地蔵が並び、少し入ると石像がまつってある。もとに戻ってくだると、左側に西和地区広域農道が入るが見送って進む。次の分岐点に有名な「明治三十二年建之」「左信貴山奥之院ハイキング道」と刻んだ石標がある。本誌34号（95年8・10月）の上田学弘氏寄稿「『ハイキング』考」に紹介してあるので参照されたい。「ハイキング」の刻字が明治三十二年当時のものかどうかは不明である。

さて、道標に従って左へくだろう。右側に十二丁石標を見て左へ進めば笠谷寺に着く。十三丁石標は寺の南の小屋の前にある。左手に十四丁石標を見て歩くと信貴山奥の院（宋峯山多聞院）に着く。境内の土手から幾条かの石ころが出ることから焼米寺とも呼ばれる。奥の院は通例、山奥にあるのだが、ここは信貴山境内より低い水田地帯の中にあり、珍しい立地である。門前の左側の草むらに安政二年（1855）の道標があり、「十三町こしき塚、生駒山ゑ山大坂」とあって、絵で「『鐘平』山を示していて、千光寺門前の道標と同じでおもしろい。

町前をそのまま進むと山道となり、少しくだると分岐で、右に「左わうじ　右をくのいん」と刻んだ石標があり、左へ草の茂る道を進む。コンクリート道に出合い右をとる。中腹道の旧道はこの道の途中の左手から南通寺・浄光寺・長願寺へと通じていたが、農用地開発整備事業と広域農道建設によって大半が消滅している。かわりにハイキング向きのコースをたどることにしよう。

コンクリート道はカーブミラーの立つ車道に出合う。右へくだり次の分岐で左へ上がり、区画整備された中を右への道を一つ見送ってから右折する。道は左へ折れて堰堤の手前で右へ進み、十三街道へ合流する。車に気をつけながら街道を上がり、右側に鉄のゲートのある道を見送ってすぐ、右側にくだっていくコンクリート道へ入る。菊の栽培が行われている。灰田川の流れを過ぎ、右へ急な坂を上がり、平坦な道と出合ったら左へ進んでいくと集落に出る。つきあたりで右をとり、舗装道を進む。

前方に高区配水池のタンクが見えてきたら、その少し手前の分岐で左へ上がろう。ほどなく地蔵がまつってある四つ辻に出る。

冬春号・新発売！
登山・ハイキング
バス時刻表
近畿 B5 97冬春号 11月発売
JR用時刻表には掲載のない路線も多数収録
登山道に通じる停留所をピックアップ
登山・ハイキングファンのためだけの時刻表です
三重・滋賀・奈良・和歌山・京都・大阪・兵庫の2府5県をカバー
関東 B5 97冬春号 10月末発売
東京・埼玉・神奈川・静岡東部・山梨・栃木西部・群馬・長野中央部を収録！
「関東版」「近畿版」ともに書店や有名スポーツ店で発売！
ご注文の際は関東版か近畿版かをご指示下さい
関東版・近畿版とも B6判 定価1200円
書苑新社 tel.03-5285-7445

このあたりはのどかな風景が見られるが、東側に宅地開発が進んできている。かけがえのない自然を残してほしいものである。

さて、四つ辻から櫟原を経て鳴川へ出る古道は、2万5千分の1地形図「信貴山」に昭和四十二年の改測までは記載されていたが、昭和五十三年の第二回改測からは削除されて現在に至っている。1万分の1の「平群町全図」は、平成三年修正の2千5百分の1の地図を縮小編集したものだが、この地図にも古道は記入されていない。昭和五十二年頃、米田藤博氏は、平群町の道標調査で、福貴畑から鳴川に至る道路を通行しようとしたが、廃道となっていて通れなかったという。この道が現在どうなっているのか確かめようと思ったのが、本コース調査のきっかけである。四つ辻から北へ向かう道は現在は通行可能であるが、草の茂る所が三か所あり、古道の面影を残しているとは言え、正直言ってハイキング向きではない。ハイキングを楽しみたい方には、四つ辻から東へ向かい、平群駅へ出られることをおすすめしておこう。以下は古道を探索してみたい人への案内である。

地蔵のある四つ辻から北へ菊の栽培地の中を進む。途中、左へくだる道があるが右をとる。やがて幅のある道は終わりとなり、左手の細い道が流れを横切っている。そのまま進まないで、右折して流れに沿ってあぜ道を行く。S字カーブを描いて右手に畑と小屋を見ながら草の茂った道を進むと、やがて竹林に入る。道は明瞭だが、竹が倒れていて荒れた雰囲気である。やがて雑木林の中へ入り、尾根道が横切っている四つ辻の峠に着く。昼でも薄暗い場所である。長居は無用と足早にくだっていくと、両側に笹が茂った所に出る。古い地形図によると明治期には水田が広がっていたらしいが今は荒地となっている。

笹やぶをぬけると、オリエンテーリング用のポイントHが立っている。まんざら人が入っていないこともないようだ。

再び竹林に入ると右手に尾根道。その先で左手からの道と合流してくだるとコンクリート道となり、やがて水田耕作地へ出る。右手に小屋を見て坂を上がれば舗装道に出合う。櫟原の民家が並んでいる。左折して狭いコンクリート道を上がる。

民家の脇の分岐に祠がある。右は急坂で、左をとる。地道となり古道らしくなる。次の分岐で右は先で舗装道につながっているので左へ進む。次に立木のある分岐があり、右を上がっていく。左手に小屋がある。すぐ右側の急なくだり道を見送ると、左手が棚田になって上まで続くが、分岐で右へそれて進む。山すそを行き薄暗い林を抜けると、左手に室腰痛地蔵尊が見つかる。草の茂る道を上がると舗装道に出る。この道は河内越で、河内側からは櫟原越と呼ばれている。

櫟原の十三仏板碑

左手に広域農道のトンネル出口が見えていてそちらへ向かう。櫟原トンネルは平成七年7月に完成しているが、トンネル内はまだ通行できない。右側に沿う舗装道を上がると墓地に出る。入り口に十三仏板碑が立ち、右手に六体地蔵を見ながら中腹を進み、くだっていくとフェンスが現れる。その先で右へおりるとトンネルの北出口である。未舗装の広域農道を100㍍ほどくだると左側に白い手すりのある場所が見つかる。その上側のコンクリートの縁に沿って右へ進み草の茂った坂道を上がると、ほどなく左手からの道と合流する。あとはすっきりとした道となり、やがて鳴川越の道と合流する。舗装道に出る。ここで左をとれば千光寺で、生駒山系中腹道を歩き通したことになる。

完歩できた人は信貴山と元山上を往来した昔の人々を思いおこし、荒廃した古道に一抹の寂しさを感じることだろう。それと共に、長い間人々によって踏み固められた古道が地図からは消し去られても、今なお、往日の姿を保っていることをしみじみと感じることであろう。

千光寺からくだって、摺地蔵尊で右へ入り、すぐ左折して川沿いにくだれば、清滝石仏群がある。あとは道なりに山すそを縫いながら生駒山口神社を経て、櫟原橋から川の中の大岩を見て、近鉄生駒線元山上口駅に着く。

（平成8年5月4日・7月23日歩く）

《コースタイム》
信貴山門バス停（20分）信貴山毘沙門堂（1時間10分）信貴山奥の院（50分）地蔵の四つ辻（1時間）室腰痛地蔵尊（30分）摺地蔵尊（45分）近鉄元山上口駅

《地形図》2万5千＝信貴山（明治41年測図）
2万＝信貴山（明治41年測図）

《参考文献》
米田藤博『大和の道しるべ㈵　―生駒郡平群町・三郷町―』（昭和五十三年一月）（問い合わせ＝〒630-22　奈良県御所市三室383番地　米田藤博）

連載

台湾の山々・五岳三尖へ（第4回）

# 南湖大山

山形歳之

日本から台湾は本当に近い。今回は日本各地から四人の同好者が台北の空港に集まった。東京から二人、名古屋から一人、大阪からは私が一人である。

航空便の発達で、日本各地から毎日台北に便がある。航空券は航空会社や出発の時期によって料金に差があり、正規の料金より安い航空券も発売されている。同じ便でも切符の買い方によっては一万円近くも差がでる。

今回の南湖大山登山は、1日目　日本＝台北空港＝台中市　2日目　台中市＝雲稜山荘　3日目　雲稜山荘＝南湖山荘　4日目　南湖山荘＝南湖大山＝雲稜山荘　5日目　雲稜山荘＝礁溪温泉　6日目　礁溪温泉＝台北市　7日目　台北空港＝日本、の予定である。

山では無人小屋に三泊で、食料はガイドが用意する。個人装備は、シュラフ（寝袋）・シート・エアーマット・防寒着・雨具・食器・カメラ等で中型ザックに10キロ余り。下山後の着替えなどはショルダーバッグに詰めて別にした。食料を持ってくれるので助かる。

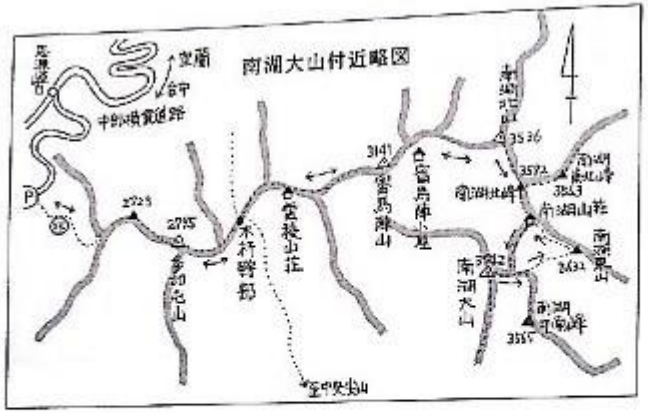
この時期、台湾も韓国も連休に当たり、韓国からもたくさんの人が玉山に登りに来るそうで、「きょうの玉山は300人を超すだろう。排雲山荘は超満員で、炊事場も通路も人で埋まる」とガイドたちが話していた。日本だけでなく韓国の岳人にも玉山は人気があるようだ。

車は台中市に向かう。世界中どこも同じで高速道路は車がいっぱいだ。町の建物に取りつけられた看板の多さに圧倒される。香港もだが、中国人街の看板の派手さにはびっくりさせられる。台中市で入山許可を受ける。今までは台北市で許可を得られたが、台中市になったので少し遠回りになる。今日は台中泊まりとなる。

夕食に出かけた食堂で、ガイドの友人たちが会食していて、ガイドが我々を紹介してくれた。日本の槍ヶ岳や富士山にも登っているとのことだったが、何しろお互いに言葉が通じないのであまり話は弾まなかった。日本人が台湾の山を登りに行くように、台湾の岳人も日本の山に憧れているようだった。

南湖大山

翌朝まだ暗い午前4時半、ホテルを出発する。コンビニで朝食のパンとミルクや、山に持参する缶ビール、ウーロン茶を買いこむ。日本と同じく24時間営業で、「セブンイレブン」が多い。




道は中部横貫道路に入り、険しい谷間を上がって行く。蛇のようにくねりかたときも目が離せない。私はいつも運転しているものだから、つい路面に目がいって緊張する。

山の中の温泉「谷関」に到る。観光地でたくさんの車が停まっていた。道は益々険しくなって断崖絶壁を縫って行く。上りとくだりの道は別になっていて、くだりは100㍍も下の崖壁を走っていた。建設時の苦労が思いやられた。

山上のダム湖に着く。ここは発電所と公園のある展望台で、食堂が一軒ある。車から出ると冷風が肌を突きさす。慌てて上着を着込んだが、台中では摂氏25度。ここは10度を割っていた。

さらに車を走らせて梨山に到る。ここはその名の通り梨や林檎の産地で、観光客目当ての果物屋が軒を並べるが、市中のほうが安いくらいで、ここでは観光客値段だそうだ。

雪山が大きな姿を現す。台湾第二の高峰はさすがにすばらしい。次はこの山をめざす予定なので、しっかりとカメラに収める。

雪山の登山口の分岐点、環山を過ぎて「思源橋口」に着く。ここの警官派出所に助手が待っていた。登山届けを出して、横貫道路と別れ登山口の林道に入る。車で20分たらず3・5キロ。小さい盆部が車の終点になる。

おりから台湾の連休で、登山者の車と、帰りを待つ家族がテントを張っていた。駐車場はないが、道端に三、四台は駐車できる。

登山開始。山腹につけられた林道の跡を歩く。25分程歩いた水場で水筒を満たし、15分で本当の登山口に着く。広い空地で、きょうの目的地「雲稜山荘」まで8・5キロの道標が立っていた。標高はすでに2100㍍である。

尾根に向かってジグザグに登って行く。周囲は細い赤松林で、ススキ状の草が腰丈くらいに密生しているおだやかな道である。

きょうは連休最後の日で、ぱらぱらと登山者が下山してくる。女の子もいたが、みんな疲れた顔をしていた。

今回の南湖大山のコースは、中央尖山縦走コースでもあって、4泊5日で周遊するとのことである。

林の中の道はブヨがたくさんつきまとい、

雲稜山荘

目や鼻に我び込むので煩くてしかたがない。林を抜け多加屯山の前山に登り着くと、雪山連峰の展望が広がる。右端には特異な岩峰を持ち上げる大翔尖山も姿を現している。ここには太陽発電機を備えたアンテナ小屋があり、二、三人なら避難できそうだ。

木陰で昼食をとる。ラーメンに鮮一つ。あとはお茶かコーヒーだ。コンビニで買ったウーロン茶は、見かけは日本のものと同じだがジュース並みに甘くて、お茶がわりにはならなかった。

多加屯山には3等三角点がある。ここから長い稜線の縦走が続く。大体は登りだが幾つもの小さい登りくだりがあって、とても長く感じる。ぱらぱらとおりてくる台湾の人たちは青年ばかりで、日本のように中高年は見かけない。台湾の山はまだ若者のものようである。やがて竹林の道となる。細くて3～4尺の高さがあり、日本の山では見かけない竹である。道は所どころぬかるんでいるが、竹林の中は涼しい。山稜を乗り越すとどんどんとくだって行く。まだ登りがあるので、くだりたくないと思いながらも「木杆鞍部」に着く。ここは中央尖山との分岐点で、数人の登山者が休み、谷からも下山者が喘ぎながら登ってくる。

私たちはここからまた稜線の登り道を進む。もう雲稜山荘は近いと励まされるが、登り返しは辛かった。やがて道標より少しくだって雲稜山荘に到着した。20平方尺くらいの鉄板張りの小屋は、樂の一部が腐って剥がれ、風は素通り、床の板石はデコボコで、いかにも見すぼらしい。テントのほうがよほど快適だと思われる。それにここもブヨが煩く落ち着かない。周辺にはゴミがいっぱいあり全員で掃除する。展望は無く、水場は2分程下である。片隅に非常用の中型のテントが一つ張られていた。夕食の準備をしていると夕立がやってきた。その中を雨に迫われた四人の若者が入ってきた。小屋は十五人くらいは入れるが快適ではない。彼らは雨が小やみになると小屋を出てテントを張った。きょうは彼らと私たちだけである。

夕食はカレーライスと味噌汁。風が素通りして、木明は少し寒かった。

午前3時起床。気温摂氏18度。夕食の残りで雑炊を作って食べる。ガイドは慣れたもので準備の手早いのに驚く。4時35分、ライトを点けて尾根を急登する。5時半にはライトを消す。周囲は台湾檜の大木の林で、直径1尺もの木が数十尺にわたって直立している。以前、秋田の太平山で杉の大木林を見たが、それに勝る巨木林で、見事と言うほかはない。

やがて樹林帯を抜け稜線上に出ると草原となり、行く手に荒々しい岩峰がそびえ、その先の南湖大山はガスに包まれていた。

ふり返ると雪山連峰が長々とのびし、ヒチカ山荘や三六九山荘が小さく光っていた。小屋から雪山頂上までかなりの距離がある。



谷を挟んだ南湖大山の裾野に遭難したヘリコプターの残骸があり、どこまで行っても目に入る。やがて「審馬陣山」の分岐で、100尺程先の山頂には3等の標石が入っていた。展望はすばらしい。この下の審馬陣山荘という小屋は良くないのであまり利用しないそうだ。

南湖北山は分岐にザックを置いて5分で山頂に着く。ここにも3等三角点が設置されていた。展望はすばらしいが、これからたどる南湖北峰の荒れた岩稜が気にかかる。

見えてきた槍のような中央尖山

北峰の岩場はロープの付けられた所もあるが、急な崖を注意して通過する。東北峰の岩壁が、波を打ったように切り立っていた。北峰に着くと、眼下の台地に南湖山荘が小さい姿を現した。背後にそびえる南湖大山は、相変わらず頭を霧に突っ込んだまま姿を見せない。急なザレ場を駆けおりる。どんどんとくだって25分で小屋に到着する。あすの登り返しが思いやられる急坂である。

古い鉄板の剥がれた旧小屋の側に、プレハブの新しい小屋が建っていた。2年程前に建てられた小屋で、幅3尺長さ6尺くらいの平屋建て、中に棚が設けられた床は鉄板張り、屋根の上には太陽電池が設置してあり、小屋の奥の囲いの中に発電設備があった。雲稜山荘を始め無人小屋は、戸も床も無いものしかお目にかからなかったので、この小屋はホテルのように思えた。

発電設備のお陰で夜は蛍光灯が点くし、ラジオで音楽や天気予報が聴ける。その上屋根に非常用ライトが回転し、一夜中点灯していた。日没後でも登山者は小屋を間違えなく見つけられ遭難も防げる。日本の小屋でも見たことのない設備である。

小屋に入り昼食をとっていると、夕立がやってきた。きのうもそうだったが時間的に短雨がくる。朝の早立ちのお陰で雨具を使用しなくてもよかった。

南湖大山にはあす登る予定だったが、夕立一過雲も切れだしたので、まだ時間も早かったのできょう中に登ることになった。

軽装で、まだガスをまとった南湖大山に向かい、沢伝いを時に登る。峠から右に入り岩盤を伝い、中央尖山の縦走路と分かれて山頂に到る。

おりからガスが切れ、眼下に小屋が小さく見える。南方の山々はまだガスに包まれて定かでない。

なつかしい1等三角点の標石を抱でる。日本のものと全く同じで、文字面は南西を向いていた。そばの小石に日本国大平山秋田の文字が見える。先日、秋田の山岳会の人々が訪れたとのことである。雲は多いが、何ひとつ遮るもののない展望が開ける。

「南湖大山万歳」。

峠に戻り「南湖東山」の縦走路に入る。ガスの漂う稜線は、台地状の所もあってしばし道を探す。もう目的の山は登った後で

のおまけのつもりだったので、東山の最後の登りは苦しかった。東山は三角点がなく、金属の山名板が岩盤に入っていた。周辺の秘線の岩盤は見るからに荒々しかった。

小屋の水場の沢に向かってガラ場を滑りおりる。小屋では待機していたガイドがお茶を沸かしてくれていた。

夕食もラーメンに餅である。携帯するにはやはりラーメンが一番だが、少しもの足りないのでパックの餅を入れている。日本でもよく利用していて、これも日本からの持参品なので口に合う。

日が暮れるとライトが点く。ラジオからにぎやかな音楽が流れている。こんな山中では場違いのにぎやかさだ。

きょうは下山の日である。早立ちは登山の鉄則。やはりラーメンに餅の定食で、やや明るくなった5時に小屋を出る。まず北山のガラ場の登りだが思ったより早く登り着く。おりから朝日が顔を出す、御来光だ。しかし東の空は雲が多く1～2分で太陽は雲の中。その一瞬に南湖大山が真っ赤に輝いた。雪山連峰も輝きだした。

北山の岩場を過ぎると、あとは危険な所もないので、足も早まり気分は最高。空は高曇りだが展望は良く、槍のような中央尖山がいつまでも目を引く。遠くに玉山も小さく望まれた。雪山のはずれに大覇尖山もはっきりと見え、遠く谷間には梨山の人家も見える。その背後にこれも1等三角点の設置されている白姑大山も姿を見せていた。

雲稜山荘で昼食、ガイドが途中で摘った茸を味噌汁に入れる。この茸は毎年同じ所に出るそうだ。きょうの予定ではこの小屋に泊まることになっていたが、南湖大山をきのう登って早く着いたので、このまま下山することにする。

何しろこの小屋は快適でないので、だれも泊まりたくないようだった。通常、現地の人はここに二泊するのだが、我々は足が強い、とガイドは褒めてくれた。

五岳の内ではこの南湖大山のコースが一番アプローチが長いとのことである。

木杆鞍部にくだって多加屯山に登り返す。やはり下山時の登りはつらい。多加屯山の前山で最後の展望を楽しむと、一気に登山口に向かった。もう台湾の連休は終わっていてきょうは一人の登山者にも会わなかった。

朝5時に出発し、13時半に車に到着した。休憩ともで8時間30分であった。そのまま車を走らせて「碧湖温泉」で泊まる。

翌日台北に戻ったが、山を一日早く下山したので余裕ができ、台北郊外の「七星山」に登る。1120㍍のこの山は台北市民の憩いの山で、中腹の陽明山公園まで車で入り石畳の道を登る。途中に公園があってたくさんの家族連れが憩っていた。山頂にもたくさんの人が登っており、大阪の金剛山のように毎日登る人もあるらしい。ここにも1等三角点が設置され、展望のすばらしい所である。

下山後は陽明山公園で昼食にする。この七星山は温泉が湧いていて、無料の浴場もある。公園の旅館で温泉に入る。白濁した狭い湯船に人が多く、とても日本のような温泉気分は出なかった。

最後の台北の夜は宴会に招待された。山の案内人や山と渓合社の社長さんともお会いした。

帰国後、山の資料を整理していて五岳三尖のことを知る。その中に中央尖山が含まれ、登るには南湖大山のコースをたどらねばならないことを知った。一緒に歩いておけばよかったのだが、残念である。

（平成7年10月歩く）



# 沿線ハイキングガイド

近鉄　京阪　阪急　南海　神鉄　山陽電鉄　叡電　京福
公開ハイク　歩け歩け大会　文学散歩　歴史散歩　その他

## 近鉄

▽新春特別企画・初日の出の感動をあなたに「生駒山御来光登山」1月1日(雨天中止)集合奈良線枚岡駅前4時30分（コース）枚岡駅—枚岡神社—展望展望ハイキングコース—生駒山（御来光展望）—宝山寺（解散）—宝山寺駅（約7㌔）懐中電灯・防寒具必携、会費無料、参加自由、上本町乗業06（775）3566

▽万歩ハイキング「摂河内展望・葛城山初日の出ハイキング」1月1日(雨天中止)集合葛城登山口駅前（葛城山ロープウェイ）4時近鉄御所駅からバス又は徒歩50分（コース）葛城登山口駅—くだらの滝—葛城山—山上白樺食堂（解散）（約3㌔）帰路はロープウェイ・バス又は徒歩にて近鉄御所駅へ懐中電灯・防寒具必携、会費無料、参加自由、天王寺乗業06（624）0382～3

▽近鉄登山「霧氷の明神平」1月12日(雨天決行)集合奈良線大和上市駅前8時50分（コース）大和上市駅（バス）大又—明神平—大又（バス）ふるさと村（やはた温泉では希望者のみ入浴できます。各自実費）（バス）大和上市駅（約15㌔）アイゼン必携、会費無料（バス代別途）、参加自由、天王寺乗業06（624）0382～3

▽近鉄登山「お山開き三峰山」1月15日(雨天中止)集合大阪線榛原駅前9時10分（コース）榛原駅（バス）みつえ青少年旅行村（山開きの神事）—三峰山—みつえ青少年旅行村（バス）榛原駅（約10㌔）アイゼン必携、地元の方が引率します。会費無料（バス代大人2820円小人1420円は別途）参加自由、上本町乗業06（775）3566御技術環境企画課074555・2001（代）

▽冬の葛城高原まつり・葛城高原樹氷登山「葛城～石橋峠～葛城山」2月2日(雨天中止)集合南大阪線葛城駅前9時15分（コース）葛城駅—太田—伏越—石橋峠—寺尾辻—葛城山頂（解散）（約10㌔）健脚向）アイゼン必携、会費無料（バス・ロープウェイ代は別途）、参加自由、天王寺乗業06（624）0382～3

▽ほのぼのツアー「霧氷の高見山日帰り登山」2月9日(雨)16日(雨天中止)集合あべの橋駅東口テレメイトセンター7時30分（コース）あべの橋駅（特急）大和上市駅（バス）高見登山口—小峰—大峰—高見山頂—高見彩—高見平野（バス）大和上市駅（特急）あべの橋駅（約10㌔）会費大人470円小人2500円、定員各日150名（電話申し込み制）あべの橋駅東案内所（テレメイトセンター）06（624）0026

▽近鉄登山「霧氷の和佐又山周辺散策」2月18日(雨天決行)集合吉野線大和上市駅前8時50分（コース）大和上市駅（バス）和佐又口—（岡崎郵便局）—和佐又山ヒュッテ—和佐又口（バス）大和上市駅（約12㌔）アイゼン必携、会費無料（バス代は別途）、参加自由、天王寺乗業06（624）0382～3

## 阪急

▽日刊スポーツファミリーハイク・第24回元旦日の出ハイキング「中山寺奥の院から清荒神コース」1月1日(雨天中止)集合中山寺信徒会館前（宝塚線中山駅下車すぐ）6時20分（コース）中山寺—大師岩園地（初日の出）—奥の院—米谷墓地—鳥獣慰霊碑前—清荒神参道—清荒神駅（7㌔家族向）＊灯具

持参、阪急御遊園発都06（373）5326

▽キャラバンスペシャル「ガイドブック『阪急ハイキング』紹介シリーズ④コース36北摂初谷渓谷・妙見山上コース」 1月13日(日)雨天中止集合阪急茨木市駅8時30分（コース）とちわ台駅―奥椿―初谷渓谷―妙見山―妙見山クッキングセンター―猪渡峠―ケーブル能勢駅、妙見口駅（約7㌔一般向）阪急御遊園発都06（373）5326

▽デイリースポーツフンゲルシリーズ「洛西愛宕山耐寒お参りハイキング」 2月8日(土)雨天中止・小雪決行集合阪急桂駅8時（コース）嵐山駅―野宮神社―二尊院―鳥居本―祇園―清涼寺―月輪寺―愛宕神社―表参道―清滝（15㌔上級向）＊アイゼン持参、阪急御遊園発都08（373）5326

▽キャラバンスペシャル「ガイドブック『阪急ハイキング』紹介シリーズ⑤コース32みのお明治の森・外院尾根コース」 2月16日(日)雨天中止集合阪急宝塚駅（箕面駅下車徒歩15分）10時30分（コース）箕面寺―箕面滝―箕面ビジターセンター―自然観察路―ドライブウェイ出合―勝尾寺旧参道（丁石道）―外院尾根―釈迦寺―新家バス停（11㌔一般向）阪急御遊園発都06（373）5326

## 神戸電鉄

▽加藤清正ゆかりの鬼面が舞う「大宮八幡宮鬼おどり見物ハイク」 1月19日(日)雨天中止集合三木駅8時10分（コース）三木駅―三木山森林公園―大宮八幡宮（鬼おどり）―この丸公園―三木上の丸駅（約8㌔家族向）神鉄観光事業部078（521）0321

▽吉良長かな伝統行事「多聞寺お塔まつり見物ハイク」 2月11日(祝)雨天中止集合有馬口駅10時（コース）有馬口駅―奥山寺―仏谷―逢山峠―東山橋―多聞寺（お塔まつり）―六甲登山口駅（約7㌔一般向）＊アイゼン必携、神鉄観光事業部078（521）0321

▽厳氷の六甲を歩く「住吉道と六甲山耐寒ハイク」 2月23日(日)雨天中止集合深田池公園9時30分（阪急御影駅北約百㍍）（コース）深田池公園―白鶴美術館前―住吉道―六甲最高峰―魚屋道―有馬温泉駅（約12㌔健脚向）＊アイゼン必携、神鉄観光事業部078（521）0321

## 山陽電車

▽山陽ハイキング「妙法山・禅昌山ハイキング」 1月12日(祝)雨天中止集合須磨浦山上遊園10時（コース）須磨浦―妙法山―おらが山―禅昌山―行者の滝―月見山駅（8㌔一般向）須磨浦遊園ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「垂水史跡めぐりハイク」 1月26日(日)雨天中止集合垂水駅山側前（山陽西舞子駅下車南へ五百㍍）10時（コース）高砂駅―高砂神社（相生の松）―浜の宮天神社（黄金の手植の松）―住吉神社（手枕の松）―なかじま公園―別府駅（約11㌔家族向）須磨浦遊園ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「垂水史跡めぐりハイク」 2月11日(祝)雨天中止集合大蔵山遊園（山陽西舞子駅上手北へ三百㍍）（コース）大蔵山遊園公園―多聞寺―雅伸院―舞子公園―五色塚古墳―霞が丘駅（約9㌔家族向）須磨浦遊園ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「大中遺跡・鶴林寺を訪ねるハイク」 2月23日(日)雨天中止集合山陽播磨平野駅前の向が池公園10時（コース）播磨平野駅―大中遺跡―鶴林寺―岸上の松駅（約10㌔家族向）須磨浦遊園ハイキング係078（731）2520

## 奈良交通

▽万葉の大和路を歩く会「バス&ハイク・吉野山と聖宝跡めぐり」 1月19日(日)集合近鉄橿原神宮前駅中央口9時30分（コース）橿原神宮前駅（バス）吉野山―稲荷社地宿―宮滝谷―象の小川―岩本神社―吉野川宮瀧（バス）川上村大滝・蜻蛉の滝（バス）大字陀町・阿騎野かぎろひの丘（バス）大字陀町中之庄駅跡（バス）近鉄榛原駅（約5㌔）須田武雄川女子大学教授（万葉集研究）、会費5700円会員は5000円＊参加申し込み前7日前までにハガキか電話で午6:30奈良市大宮町1丁目1の25奈良交通「万葉の大和路を歩く会」宛0742（20）3100

□これ以外にも多数の催しがありますが、各社の広報を見て下さい。



# せせらぎ

編字・小林玻璃三

単独で山歩きをするときは、地図と磁石は、欠かせない。

国土地理院の2万5千や5万図も利用するが、単独の場合、安全を考えてボピュラーなコースを選ぶとなると、市販の登山地図が便利だ。

私は昭文社のものを選んで使っている。関西方面を主に、20種くらい買い揃えている。擦り切れて六甲や北摂のは、買い換えて二枚目だ。紙は水に強いが、印刷が剥げてくるのが欠点だ。最近は、コンビニの10円コピー機で拡大複写したものを、透明のビニール袋に入れてポケットに、元図もザックに入れておく。詳細に見たい時や、山座同定をする時に元図を見ると具合がよい。

山行回数が増えると、手持ちの地図も増えてきて整理しなければと思うばかりで、ついそのままになっている。

地図の見方（読み方）は、新ハイの「連図読み山行」に、五回程掲載して教わった。何年も人に教えを乞うのが、独りよがりにならず間違いが少ない。磁北線の引き方も習い、自分で引いているがなかなか面倒。磁北線が、登山地図に印刷されていれば、便利だと思うが如何なものか。年によって西偏の角度が変わるらしいから無理なのかも。しかし、数値は約何度と地図に表記されているから、可能ではないかと思ったりもする。

昭文社「山と高原シリーズ」の中で「54紀泉」「55東高野」を探したが、書店に見当たらなかったので、大阪支社に問い合わせたら、「只今休刊中とのこと。

とにかく今は、中高年者の登山ブームで、登山地図の愛用者も多いはずなので、休刊中のものも早く復刊してもらいたいものだ。

（山科 邦彦）

最近の本誌の山行報告を読んで感じることは、「足がそろって楽しかった」と記されていますが、会員も増加していろいろなレベルの人が参加することでしょうから、山行計画には、現在の愛加茂学をさらに細かくし、歩く速度なども表示するとよいのではないでしょうか？

昨日、旅行社主催のウォークに参加しましたが、参加者は私より高齢の方が多かったにもかかわらず、スタートすれば皆さん非常に速く歩かれる。昨夏は妻と新潟高温泉から雲ノ平・薬師岳を通り、立山室堂まで歩きましたが、ゴールは最後のほうになり難いたことがありました。

そうすることでお互いに楽しい山行ができるのではないでしょうか。

（橋本 博光）

○新ハイ関西サービスチェーン

名峰・二峰登山 小白倉―大白倉―中子・建礼門への南北縦走―名でも縦走 9駅伝縦走（表子駅）鶴大阪行きと内容

福島・二峰温泉 日観連 大和館
〒553-06 福島区大東市三峰温泉
電(06)911-2621
FAX 0246-84-2705

秩父鉄道 一クーポン券も利用できます
秩父 不動の湯
〒369-02 埼玉県秩父市山田2443-2
電 0494-23-1126

富士登山・富士五湖 東部道自然歩道（石割山・ハリモミ鉱泉）
三国山の麓 ペンション コットンテール
〒401-05 山梨県南都留郡山中湖村平野
電 0555-62-8015

大菩薩峠の中腹 から展望抜群
国鉄・富士急バス 約60分 JR中央線甲斐大和駅下車タクシー10分 バス20分 登山口下車徒歩2時間
山小屋 福ちゃん荘
〒411 山梨県南巨摩郡山中湖村
電(山小屋) 0555-62-0311

7月、白山登山のツアーに一人で参加。台風の影響で小雨まじりの中を出発した。霊山だけに、永平寺の若い修行僧四人ほどが次々と下山してこられるのとすれ違う。途中、途小屋にて寒さにふるえながら昼食をとる。やがて天候も回復し、黒ボコ岩では別山をバックに写真を撮り、室堂に昼時ごろ着いた。

小屋に荷物を置いて登山で頂上をめざすが、ガスが立ちこめ展望はない。お池巡りをしようと頂上からさらに足を進めるが、行くほどに風が強くなるので、あきらめて下山した。

次の日もやはり天候が悪く御来光は拝めそうもない。お池巡りだけでもできたらと早朝3時に起床、みんなで頂上をめざして出発。やはり霧が深くて、頂上に着くころには頭から手がポトポト落ちて、濡れネズミのようだった。明るくなってきても遠望は全くきかない。それでも希望者だけでお池巡りをしようと足を運んだが、やはり昨日と同じく、やせ尾根あたりで強風にあい危険を感じ引き返す。

以前雨天で白山を味めたことがあるので、今度は白山から赤兎山を眺めてみるのを楽しみに、きのうきょうと二回も頂上を踏んだが、見られず残念でした。

下山は眺望をくだり、お花畑を通るころには真夏の太陽が照りつけ、たくさんの花々とも巡り会え、山の楽しさや自然の厳しさも体験することができた。

（山田　幸子）

昨年の夏、立山から眺めた後立山連峰の光景が忘れられず、8月3日～5日、鉢ヶ岳～唐松岳～五竜岳を歩く。

神滝山荘前では、テングルマの咲く雪田の雪で作った氷あずきが好評で、コーヒーやジャム・蜂蜜でも試しが結構いける。

なお残念ながら今回の目的である鹿島槍ヶ岳の大展望は3360度濃霧の中、仕方なく記念写真を撮ってから急な岩場を慎重にくだったが、ガスで眼鏡がくもり目測を誤って、岩場から2メートルほど滑落した。幸い手足の擦り傷ですみ、以後「くもり止め」は山行の必需品になった。

気をとり直し、晴れゆく稜線の縦走路では輝く残雪を至近に抱く立山や連峰の剱岳が雲の切れ間から眺れるたびに登山者の歓声が聞こえる。また南峰・北峰に挟まれた鹿島槍の岩屋根の曲線美に感嘆となくふり返り、五竜岳では目前に迫るその双耳峰を心ゆくまで堪能して目的を果たした。

今年も雷鳥の親子に会い夏山を満喫する。途中クロユリ・シナノキンバイ・イワオウギ・コマクサなど、群落とまではいかないが、沢山の高山植物と出会い（166種）、またフィナーレにふさわしく、八方尾根のお花畑ではシラネアオイ・サンカヨウ・ミヤマアズマギク・シコバナハクサンシャジン・タカネマツムシソウ・アカバナシモツケソウ・ミヤマセンブリ・キンコウカ・タカネシオガマ・ハクサンタイゲキ・ミヤマウイキョウ……と、メモをとるのも大変なほどに今を盛りと伸よく咲いていた。

8月3日の冷池山荘泊まりは、大混雑の部屋をよそに、予約の結果か？　相部屋ながら快適に過ごされ大の字で寝ることができて長行者にも感謝された。それではと4日に泊まる五竜山荘へ早々に予約の電話を入れる。16時到着だが予約の効果できめんで、部屋は決


長野県・平谷村唯一つりの山小屋
標高2三山を眺望する公園内
清四郎小屋
ほんものの三村そばと茶店は
樹海
〒946　長野県北佐久郡
電　0267(9)2(2)0906
または　0267(9)5(2)2835



汗をたっぷり流せる温泉と
等々峠牛のシャブシャブ
日本海の新鮮な魚と山の幸
ハイカーの宿
ナガサキロッジ
〒949-21　新潟県中頸城郡
妙高高原町池の平温泉
電　0255(86)2261



高山の花、温泉の花
妙高山と火打山
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949-21　新潟県中頸城郡妙高高原町
池の平温泉　ナガサキロッジ
電　0255(86)2261



海から昇る朝日と海に沈む夕日を眺め、山と海の両方が楽しめる、大佐渡縦走の拠点。温泉と夜景に酔いながら常ついはずれ
国民宿舎　大佐渡ロッジ
1泊2食付き　7200円
〒952　新潟県両津市椎
電　0259(22)4(4)4570




まっていて定員12名の部屋を6名で占領？　したので他の部屋に比べゆったりとして大満足。いずれにしても予約するのに越したことはないと痛感した次第。

（霧生　功）

御池岳の無線中継での完全禁走はこれまで計画、実行しましたが完了できず、奥の平の東の端から日本庭園の池を経由して鈴北岳までと、ヒルコバから丸山経由で中央池までは実行していてあと一息で完了できるところでした。

いずれも単独でしたので今度は知り合いで足の強い人たちに来てもらって完了できました。

コースタイムは

登山口8・40－ヒルコバ10・15～35－お花池10・55～11・00－西のボタンブチ11・12～15－丸池通過11・40－オチョコブチ11・55（昼）12・25－風穴12・40～45－天狗の鼻12・55～13・05－幸助の池13・13～25－東池13・42～55－中央池14・02～15－東のボタンブチ14・30～45－テント場通過15・25－カタクリ峠14・50～16・05－長命水16・20～25－コグルミ谷登山口16・52到着

やみくもに歩いてもやぶに捕まり時間をロスしますので、できるだけ林の中を選んで歩き、やぶの中はけもの道を探して歩くことがコツと思えますが、何度もこの山を歩き回っていなければ地形とやぶの位置が分かりませんので、最良のルート選択はできません。

3時間歩いても頂上部の一角を歩くという森大きな御池岳です。

「西のボタンブチ」は山田明男、「オチョコブチ」は近藤郁夫氏、「天狗の鼻」は筒井克治氏、「東のボタンブチ」は福井明氏、「カタクリ峠」は石井敏子氏が名付けたものです。

（山田　明男）

鈴鹿を歩く8「八風谷・赤坂谷から釈迦ヶ岳」に参加しました。みなさん、ザック・靴・帽子などの身なりはプロ級。使いこなされた古さがその人の山行きの経歴を物ものがたっているようで尊敬です。新参同様の装備の私はまだまだ新米で気恥しい。

林道の終点から感じのよい植林の中を歩きます。ギンリョウソウも咲いています。杉の木のてっぺんに止まっているウグイスは「ホーホケキョ」と鳴くたびに体中を震わせ、しっぽまでブルンと震えています。可愛い声の聞け具合が何ともいえずすてきでした。でも、双眼鏡でしぶとく見ているのは私だけ。どん尻を歩く岩野さんにも抜かされて急いで追いかけます。

赤坂谷では二次林の中を歩きます。木々の美しさに心奪われ、時々立ち止まっては空を見上げる私は、すぐビリになります。そんな時、岩野さんは私が満足するのを見届けるまでは立ち止まり、「お先にどうぞ」と丁寧に言われます。

初夏の木々は春の頃より一層緑を増し、〝我が身を緑に染めて歩く〟心地よさに浸ります。昨日に風が強かったのでしょうか。新鮮な葉を付けた小枝がいっぱい落ちています。あれやこれやと拾いながら歩く私に、「拾ってどうするの」といぶかしそうに聞くメンバーの方。「うーん。どうしようかな」と思案に暮れる私。

赤坂谷から尾根に登る道なき道は厳しいです。たくさんのブナの木が立ち並びます。聴診器を持ってくればよかったと後悔。鈴に耳をあてても、「ドックドック」と自分の心臓の音しか聞こえません。

食事の後はくだりに入ります。


休憩及び食入浴も歓迎
10名以上マイクロバスで送迎
箱根仙石原温泉
箱根館
〒250-06　神奈川県足柄下郡
箱根町仙石原139
電　0460-4-9041



四季織りなす表妙高原のハイク
上越線・妙高高原へ　冬はスキー
ひと息ついての味の宿・日帰温
泉旅館　けやき山荘
〒389-15
長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原
電　0263-93-2555



さわやか信州
霧天高原　山吹の湯
湯田中温泉（渋温）
日野屋旅館
〒381-04　長野県上高井郡
山ノ内町湯田中温泉渋温
電　0269-33-3578



標高2000m頂上の温泉
湯の丸高峰自然休養林
ハイキングにXCスキー
高峰温泉
〒384
長野県小諸市高峰高原
電　0267-25-2000

後輩のナサはものすごく、これこそ鈴鹿だと満足そうな声も聞こえます。

センコウ谷のくだりはみんなドンドンくだるだけでゆっくり楽しめません。一人遅れがちな方をサポートして、仲間と離れてしまった山本さんとゆっくり歩きます。途中、冷たい水に手を浸したり、白いヤマボウシを愛でたりしながら歩きを楽しみます。谷から植林地帯に入る地点で別れを行く人が待っていてくださいました。慣れた方はポイントでちゃんと待っていてくれて、後方の仲間が迷わないように配慮しているのですね。

最後の休憩は行きにも通った植林帯の中です。ザックを背に杉の木の根に体を休めます。そして、寝転んだ私の視界に飛び込んできたのは、青い空に向かってまっすぐのびる杉の幹の美しさです。初めて知る美しさです。高く高く突き上げる杉の幹は、みんなと山を歩ける私の喜びを青い空まで持ち上げてくれるようです。

林道の終点で解散です。そして19時ごろ帰宅。明日はまた仕事です。しばらくは、息もつけないほど忙しいけれど、次回の山行を楽しみにがんばれそうです。

（小田　妙子）

9月15日、快晴。山深の「中高年の山ベストコース（関西周辺）」のガイドに従い、朝杖ヶ岳と経ヶ峰を登った。

早朝7時25分JR加太駅出発。朝杖ヶ岳8時50分着。だれもいないと思っていたら、先着の人（山深の『鈴鹿を歩く』の著者の一人で、「津・峠の会」会員の岩出好晃さん）が来ていた。初対面であったが、話がはずみ「分県登山ガイド」（山深）の「三重県の山」がまだ発刊されていないことが話題になった。同氏によると、原稿はほとんど出来上がっており、近く11月頃に発刊されるとのことである。

9時、同氏の案内で、下之垣内Aコースをくだり、車で車道（歩行20分）を経て六谷林道入口まで送っていただいた。（9時50分）。

廃道の多い林道を約50分歩くと終点で、右の谷に入るが、その取り付きが分かりにくい。

昼食後、「津・峠の会」の方々が付けてくれた多くの黄色と赤色のテープを目印に進んだ。赤色だけのテープが付いた仕事道に入らないことが肝要。

小1時間で、華厳ノ頭789㍍に到着。正午、南東方向の経ヶ峰をめざし、東へササの生い茂る急斜面をくだる。途中で稲子山からと思われる雑木林の明るい登山道に出合うまでの10数分間が要注意。赤色だけのテープにまどわされないこと。数少ない黄色と赤色のテープを辿りに進むこと。

12時50分、経ヶ峰頂上に到着。雑木のない広々とした山頂で、眺望がすばらしい。多くのハイカーが登頂していて、その人気ぶりがうかがえる。

休憩後、午後1時半、下山路として仲ノ郷へのハイキングコースをとり、1時間余でバス停に到着。

本コースは、ガイドで昼所要時間6時間30分（うち、JR加太駅から朝杖ヶ岳への登り1時間40分）となっているが、このタイムは少々厳しすぎる。

中高年の登山コースとしてはハードであるが、登りがいは十分あった。経験と体力のある方には、ぜひ歩いてみてほしいと思う。

（吉條　孝次）


日本最高位の温泉（2,400㍍）
立山・室堂平
みくりが池温泉
連絡先　〒930-14
富山県中新川郡立山町室堂平
電話　076-432-1131
4/9～11/25は現地へ
電　0764-65-4595

ハイキングに／　スキーに／
志賀高原　石の湯ロッジ
バス　熊の湯経由長野電鉄
電　0269-34-2421
東京本社・東京都新宿区新宿3-20-5（新宿第2ビル）
㈱スポーツサービス
電　03-3341-0211

館内より日本カモシカ毎日20頭以上に、北アの平形状景、北アの全景の大展望の湯、春秋山菜等
長野県上高井郡
あるぷすいん　満山荘
〒382　長野県上高井郡
高山村山田牧場・奥山田温泉
電　02262-42-2527

塩の道　千国街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランシェ
〒399-93
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電　0261-72-4452




野草の中で一番好きなものは、と聞かれたら、さまざまな花が浮かんで迷答に窮してしまうでしょうが、樹木で一番好きな木は、と聞かれれば、「ブナ」と即座に答えられます。

10月13日新ハイ山行の荒島岳は、ブナの原生林がすばらしいところでした。

勝原スキー場のリフト終点地を過ぎると、いよいよ本格的な登山道となります。最初に、二つのヤマグリの巨木に度肝を抜かれ、次にミズナラの大木に出会います。ミズナラの大木は、後方に広がるブナ原生林の豊饒さを予感させ、やがてその予感通り、壮厳なブナの原生林に足を踏み入れます。

多雪地のブナは幹肌が白く、その艶麗な幹肌に、コケとか地衣類が作る淡青色や暗褐色の大きな斑紋を散らし、美しくノーブルに立っています。

ブナの森には荘厳さと限りない優しさとが混在しています。森の真ん中にたたずむと、心が透明になってわが身が森に同化してしまうような気がします。そして、大木を仰ぎ見ると、やわらかな葉を繁らせた梢の果てに、遠い目の夢を見ているような錯覚に陥ります。

ブナに傾倒する私の気持ちは、恋心に近いのかもしれません。ある人から「ブナ党だね」と、からかわれたことを思いだします。

荒島岳のブナ林は日本海型で、そのことも私にはとてもうれしいのです。林間で、ハウチワカエデ・ヒトツバカエデ・コミネカエデなどのカエデ類やマルバマンサク・オオバクロモジ・オオバカメノキなどに出会い、林床にミヤマシダレ、そして常緑のヒメモチ・エゾユズリハ・ヒメアオキなどを見つけたりすると、何かとても懐かしく、心がゆっくりと和んでくるのです。

私は、荒島岳には「日本百名山」という冠よりも、「ブナ原生林の荒島岳」という称賛の言葉を贈りたい、と思うのです。

（鷲見守康）

10月上旬、秀麗な山容を誇る開聞岳（薩摩富士）と、天孫降臨伝説で名高い高千穂峰に登る。

開聞岳には、前日に大隅半島の根占海岸から錦江湾口を隔てて初めて対面し、佐多岬からは薩摩を東シナ海に没する美しい姿を堪能、山川港へ渡る船上では、薩摩半島南端の低山を前衛としてそびえる三角錐の山容を展望し、長崎鼻では、台上からあるいは波打ち際におりて優美に広がる円錐形の全容を楽しんだ。さらに、国民宿舎「かいもん荘」までは、暮れなずむ山容を正面に見つめながら歩き、同宿舎の露天風呂では、押し寄せる波音を伴奏として、満月に包まれて行く開聞岳を見つめつつ、この日の疲れを癒したのであった。

開聞岳へは、螺旋状に山腹を巻いて登るという珍しい経験をし、最後に40度の急傾斜をよじ登った頂上大岩からの眺望は実にすばらしかった。絶好天の下、360度の展望を遮るものはなく、屋久島までも眺めることができ、達成感を十分に味わうことができた。

開聞岳とは対照的に、翌日の高千穂峰は、終始、霧の中の登山であった。霧島山なのだからそれは仕方がないとして、「馬の背」からの池む道を間違えてしまったのには恐れいった。皆がくだるものだから、てっきりそちらと思ったが、霧とは恐いものである。頂上（1574㍍）では、かの坂本龍馬


春・秋　小グループ
白馬の自然を案内します
白馬ファミリーペンション
和　田　森
〒399-93　長野県北安曇郡
白馬村八方和田野
電　0261-72-5351

登山歴30年のオーナーが四季～針の木岳、雨飾山～火打山などへご案内します。
テントキーパー
1泊2食付き　6,000円から
〒399-93
長野県北安曇郡白馬村おちくら
電　0261-72-3151

八ヶ岳南北縦走の中心地
59年秋新館増築完成全館暖房
本の香り漂う新設温泉水洗浄
オーレン小屋
1泊2食付き　6,000円
4月末～11月末開設
〒391-02
茅野市湯平27220　小平勇天
電　0266-72-2279

北八ヶ岳22登山道地、冬は北アJR茅野駅・北八ツ麓登山口まで送迎します
暖房完備
プチホテル　カナール
〒391-03
茅野市北山蓼科高原笹丸平5-5
12の1
電　0266-67-2258

が引き抜いたという天の逆鉾すら霞んで見えなくなる時がある。しかし下山して霧島神宮宮址に戻ると、霧が晴れだして猪鼻やその赤茶けた岳向を登る人たちもはっきり見えだし、韓国岳も優美な全容を見せてくれた。

今回の山登りで嬉しかったのは登山者の行儀が良かったこと。両山とも登山者が多かったのに、ゴミ・空缶などの類の散乱はいっさい見られなかった。本当に気持ちのよい登山をさせてもらった。

（東谷　宏）

本誌27号に「大台ヶ原から大杉谷」の紀行文を載せていただいたが、その時は5月で、熊倉河原で見た新緑の美しさに感動した。そこで「秋になったらどんな顔出をしてくれるのだろうか」と11月2～4日の連休に歩いた。ところが全山紅葉と思っていたのは間違いで、暖流の当たる紀州は常緑樹が多くがっかりした。

そこへいくと、10月18～19日に歩いた高雲山・烏甲山の長野県の山麓や、25～27日の聖三山などの福島県の山々は、全山黄葉紅葉に彩られていた。

東京に住む私は自然を求めて全国を歩くが、やはり一番初めに行った時の感動は大きく、例えば毎夏行く北海道でも、感激は年々薄らいできているのは歳のせいか？

（目野　節雄）

昨年はいつもの年よりブナの堅果（ドングリ）が多いので、熊（ツキノワグマ）が里におりなくても冬が越せるとほくそ笑む。そしてその通りになった。

今年はどうも様子が違う。ドングリが少ないので心配していたら、各地（福島県）の里に熊が出没すると聞く。一昨日も、一宮町に二組の熊が出たと知らせてきたので場所を調べると熊の生息地の南限（兵庫県）で、すぐ側を国道が通る人里であった。

きのうは、須留ヶ峰の尾根近くでナラの木にかけて間もない「クマ棚」を目撃した。あまり人里へ出ると狩猟の対象になる心配がある。食べ物が少ないと冬眠が遅れ、登山者や里人の事故も心配だ。動物たちと共生するためにも鈴や呼び子を鳴らし、数人で登山されることをおすすめする。

（現在、狩猟側であり調査に遭わないためにも、注意怠りなく入山されることもあわせてお願いしたい。）

（須磨岡　輝）

十月山行報告

6日『やまと地形図の会』例会。Ⅲ長谷（「池原」）と上北山温泉入浴。参加42名。

9日　Ⅲ小鈴（「釈迦ヶ岳」）へ。

10日『点のつどい』例会。Ⅲ古光山（「里原尊山」）へ。30名。

20日『関西地図の会』下見。

23日狭見公民館『大和水紀行』下北山村明神池、一周す。46名。

24日　Ⅲ高畑尾（「南日裏」）へ。計351点、89%。

26日『関西地図の会』例会。岩屋山～赤生子塚～鉢子塚～マルコ山～高松塚～中尾山～鬼の城・雷岳～高取池～丸山古墳。参加63名。

30日夜、1等三角点研究会前会長・坂井久光氏の「500万以上の1等三角点548座完登をたたえる会」（京都・都ホテル）に出席。

（上田　侍弘）


日本唯一の女人禁制の山「大峯山」（「百名山」）の登山口
稲村ヶ岳女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館　紀の国屋荘八
1泊2食付　7,000円から
〒535－04
奈良県吉野郡天川村洞川
℡　07476－4－0309

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891－43
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
℡　09974－6－3021


○「せせらぎ」欄は自由投稿です。最新の情報をお寄せください。山行の思い出や感想など。一行15字詰め・30行程度にお書きください。

新ハイキング関西編集室

ハイキング・キャンプに！
鈴鹿国定公園
朝明渓谷　あさけ茶屋
〒510－12
三重県三重郡菰野町千草
℡　05932－93－1789



# 山行計画
（1・2月）
新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。「一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように係あて申し込んでください。「費用」のほかに参加者数代その他の資料代実費を頂くことがあります。

山行申し込み後参加できなくなった場合はもいで係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円、（夜行日帰りの場合は2日になり200円）を支出して頂きます。（安田火災海上保険会社と契約）

傷害保険特約内容は次の通りです。

死亡・後遺障害保険金額　1000万円
入院保険金　日額　5000円
通院保険金　日額　1500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行　②スキー使用の山行　③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行　④宿泊場所内の事故（詳細は係まで）

（記入例）
（往復ハガキを使用）

山行申込み書
山行名
期日
住所 〒
電話番号
氏名
会員番号
（会員でない方は会員外と記入）
生年月日
緊急時の連絡先

返信ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

南山城・三上山から良山（一般向き）
期日　1月12日(日)　日帰り
集合　JR関西本線加茂駅9時30分
コース　加茂駅－海住山寺－三上山－大正池－良山－郷ノ口（バス）京阪宇治駅
費用　約2000円（大阪から）
地図　2万5千＝正覚
係　◎村田智麦
申込み　〒610－01城陽市寺田大畔10の10　村田まで
海住山寺におまいりして、三上山からウシ年の山へ。小雨決行

鈴鹿を歩く20
・文三ハゲから綿向山・水無山（健脚向き）
期日　1月12日(日)　日帰り
集合　477号線の音羽・北畑口8時30分
コース　熊野（車）滝山茶屋－文三ハゲ－綿向山－水無山－熊野（解散）
費用　交通費各自
地図　昭文社＝「45御在所・鎌ヶ岳」
係　◎吉野　明　○山本久雄
申込み　〒610－01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

文三ハゲから冬の綿向山と水無山をめざす。雨天中止

京都北山歩き48
桟敷ヶ岳（一般向き）
期日　1月15日(日)　日帰り
集合　京都地下鉄北大路駅下車　烏丸北大路西北角滋賀銀行前8時40分
コース　北大路駅（バス）岩屋橋－西谷－鉄塔広場－桟敷ヶ岳－鉄塔広場－祖父谷林道－岩屋橋（バス）北大路駅（解散）
費用　約2000円（バス代）
地図　昭文社＝「47京都北山」
係　◎中西信行　○則定保夫
申込み　〒610－01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
今年は雪の桟敷から大展望をたのしみましょう。小雨決行

美濃・石津御岳から多度山（一般向き）
期日　1月19日(日)　日帰り
集合　JR東海道線大垣駅8時

30分または近鉄養老線石津駅10時
コース　JR大垣駅（電車）近鉄石津駅前－石津御岳－多度山－多度大社－近鉄多度駅（電車）JR大垣駅（歩行4時間30分・約14㎞）
費用　約1000円（大垣から）
地図　2万5千＝駒野・津島・阿下喜・弥富
係　◎鈴見宗一郎
申込み　〒504 岐阜県各務原市蘇原村南町1の19の5　鈴見まで

養老山地の南端に位置する県境尾根を歩きます。木曽三川と鈴鹿山塊の眺望がすばらしい。
＊集合時間を申込ハガキに明記ください。また、マイカーで参加の方はその旨お知らせください。小雨決行

## 文学歴史散歩34
### 大和・葛城山から岩橋山へ

（一般向き）
期日　1月19日(日)　日帰り
集合　近鉄御所駅9時
コース　御所駅（バス）葛城山ロープウェイ駅－木曽ノ滝－行者ノ滝－葛城山頂－桂尾辻－岩橋山－平石峠－近鉄駅（解散）
費用　約2200円（大阪から）
地図　昭文社＝「52葛城高原・二上山」
係　◎松永忠一
申込み　〒580 松原市岡2の2の22　松永まで

冬は霧氷、樹氷の葛城山から大和盆地を眺め、役行者と伝説の世界にひたり岩橋山へと縦走します。雨天中止

### 淡路島・伊勢ヶ森

（一般向き）
期日　1月19日(日)　日帰り
集合　JR明石駅南側コンコース9時
コース　明石港（船）室津（バス）育波－キャンプ場－伊勢ヶ森－展望台－斗ノ内（バス）福良（船）明石港（解散）
費用　約1600円（明石から）
地図　2万5千＝仮屋
係　◎井上　保
申込み　〒674 明石市大久保町高丘3の1・20の104　井上まで

古代、太陽の道（北緯34度30分）日の沈む西の峰、伊勢ヶ森を訪ねます。雨天中止

### 鈴鹿を歩く21
### 八ツ尾山・高取山

（一般向き）
期日　1月26日(日)　日帰り
集合　犬上川貴船線・大滝神社広場9時
コース　広場－林道－登山口－林道－林道終点－八ツ尾山－高取山－林道－高取山ふれあい公園－大滝神社広場（解散）
費用　交通費各自
地図　昭文社＝「44鈴鹿・伊吹・藤原」
係　◎岩野　明　○山本久雄
申込み　〒610－01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

パノラマコースの八ツ尾山から高取山へ尾根道を歩く。雨天中止

### 泉南・お菊山

（一般向き）
期日　1月26日(日)　日帰り
集合　JR阪和線長滝駅10時
コース　長滝駅－上之郷－滝ノ池－綾線－お菊山－JR新家駅（解散・歩行4時間）
費用　約1300円（大阪から）
地図　2万5千＝樽井・岩出
係　◎湯本勇作
申込み　〒545 大阪市阿倍野区西田辺町1の1の7　湯本まで
定員30名（会員に限る）

大阪の陣で徳川方に殺された夫の仇を討つためこの山で男装して大阪城に駆けつけたお菊という女性にまつわる山。標高320㍍の山頂から関西新空港がよく見える。雨天中止

### 雪山に遊ぶ1
### クラシ・イブネ

（やゝ健脚向き）
期日　1月26日(日)　日帰り
集合　朝明渓谷入口・三重発電所上の駐車場8時
コース　朝明林道－根ノ平峠－クラシ谷－ランチテラス－クラシ山頂－イブネ山頂（往復コース）
費用　交通費各自
地図　2万5千＝御在所山
係　◎鈴井克治　○木村吉彦
申込み　〒610－01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

クラシの雪氷宮に寒太郎を訪ね



る。神崎川をどう渡るかです。
＊雪で交通障害のある時は中止。

### 京都北山歩き49
### 菩提山

（一般向き）
期日　2月2日(日)　日帰り
集合　叡山電鉄出町柳駅8時30分
コース　出町柳駅（電車）鞍馬駅－菩提山－天ヶ岳－鞍馬ピークーシャクナゲ尾根分岐－ミチバタ谷－大原バス停（バス）出町柳駅
費用　約1500円（京都から）
地図　昭文社＝「47京都北山」
係　◎村田智俊　○吳比裕美
申込み　〒610－01 城陽市寺田大畔10の10　村田まで

雪の尾根を天ヶ岳へ、北山を展望する冬の特選コース。小雨決行

### 平日水曜ハイク7
### 北摂・箕谷ヶ岳から猪名山

（一般向き）
期日　2月5日(水)　日帰り
集合　JR茨木駅8時30分（バスは8時44分発）
コース　茨木駅（バス）銭原－青少年野外活動センター－玉依神社－箕谷ヶ岳－寺田－猪名山－池（バス）阪急池田駅（解散）
費用　約2000円（大阪から）
地図　昭文社＝「49京都西山」
係　◎瀧浪次男　○篠田昇
申込み　〒610－01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

猪名山は山容美しく豊能富士とも呼ばれます。小雨決行

### 大峰・稲村ヶ岳

（中級向き）
期日　2月8日(日)～9日(月)　1泊2日
集合　近鉄下市口駅前13時
コース　(8日)下市口駅（バス）洞川温泉－洞川宿泊－旅館（泊）
(9日)旅館－五代松鍾乳洞－法力峠－稲村ヶ岳（往復）洞川温泉（バス）下市口駅（解散）
費用　約13000円（バス代・宿泊代）
地図　昭文社＝「56大峰山脈」
宿泊先　洞川・紀の国屋旅館
係　◎村田智俊　○山高義治
申込み　〒610－01 城陽市寺田大畔10の10　村田まで

冬の温泉につかり、樹氷の花咲く稲村ヶ岳に登ります。雨天決行

### 鈴鹿を歩く22
### 日本コバ

（やゝ健脚向き）
期日　2月9日(日)　日帰り
集合　421号線永源寺祐8時30分
コース　もみじ谷（車）笠松尾根－日本コバ（往復）
費用　交通費各自
地図　昭文社＝「44鈴鹿・伊吹・藤原」
係　◎岩野　明　○山本久雄
申込み　〒610－01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

笠松尾根から日本コバ新ルートを歩く（29号・52ページ参照）。雨天中止

### 雪山に遊ぶ2
### 竜ヶ岳

（やゝ健脚向き）
期日　2月11日(祝)　日帰り
集合　宇賀渓谷入口・落合農社直場8時
コース　宇賀渓－ホタガ谷－ラクーン－竜ヶ岳－鈴鹿尾根－キャンプ場
費用　交通費各自
地図　2万5千＝竜ヶ岳
係　◎鈴井克治

申込み　〒610－01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

当在にコースを拾いながら、急登の深雪はパーティ全員の総合力が登頂を可能にします。くだりは快適な尾根道です。
＊雪で交通障害のある時は中止。

### 比良・武奈ヶ岳

（中級向き）
期日　2月16日(日)　日帰り
集合　京阪出町柳駅京都バスターミナル8時
コース　出町柳駅（バス）坊村－御殿山－ワナビ峠－武奈ヶ岳－八雲ヶ原－カラ岳－リフト駅迂回（リフト）山麓駅（バス）比良駅
費用　約3000円（京都から）
地図　昭文社＝「46比良山系」
係　◎村田智俊　○上村　操
申込み　〒610－01 城陽市寺田大畔10の10　村田まで

雪原の西南稜から武奈ヶ岳をめざします。小雨決行

### 湖北・伊吹山

（やゝ健脚向き）
期日　2月23日(日)　日帰り
集合　JR東海道線近江長岡駅

前8時20分
コース　近江長岡駅（バス）伊吹山登山口―神社（ブンドウ）三合目―五合目―八合目―山頂（往復）
費　用　約2500円
地　図　昭文社―「34伊吹・伊吹・藤原」
係　◎舞見守康
申込み　〒504 岐阜県揖斐郡藤原村南町1の13の5　舞見まで
大雪原の伊吹山を登ります。
＊強い冬型で荒天のときは中止。
＊マイカーで参加の方は申込ハガキにその旨お知らせください。

## 金剛・北宇智から金剛山

（一般向き）
期　日　2月23日(日)　日帰り
集　合　JR橋本駅3番ホーム8時50分（阪和線紀勢線駅8時発の高野山駅乗換行きで）
コース　橋本駅（電車）北宇智駅―山ノ神―天ヶ滝―中の平―伏見峠―前出岳―国見城跡―セト―登山口バス停（解散）
費　用　約2000円（大阪から）
地　図　昭文社―「53金剛山・岩湧」
係　◎奥村誠治
申込み　〒648 橋本市城山台2の33の7　奥村まで
定員25名
金剛山系は冬山の人気コースです。奈良県側から天ヶ滝尾根を登ります。雨天中止

## 鈴鹿を歩く23

霊仙山西南尾根　（健脚向き）
期　日　2月23日(日)　日帰り
集　合　近鉄米原駅5時30分　寺院広場5時30分
コース　入谷広場（車）蓮台―汗フキ峠―霊仙山―西南尾根―笹峠―今畑―入谷（解散）
交通費実費
地　図　昭文社―「41霊仙・伊吹・藤原」
係　◎岩野　明　○山本久雄
申込み　〒610―0―1 城陽市寺田大峠10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
霊仙山の雪の西南尾根を歩く（21号・44ページ参照）。
雨天中止

## 山行報告
（9・10月）
新ハイキングクラブ関西

### 北山・魚谷山　（地図読み17）

9月1日(日)　曇りのち雨
出町柳バスターミナル8・30（集合）8・40（バス）岩滝橋9・30～53―北横谷林道入口10・33～45―林道終点11・12～28―魚谷峠11・50―魚谷山12・05（昼食）12・50―柳谷峠13・00―遠谷峠14・10―二ノ瀬ユリ入口14・20～30―昼明台15・00～05―叡電二ノ瀬駅16・05（解散）
雨の予報だったが28人もの参加者があった。皆さん地形図とコンパスの使い方に熱心である。
（参加者）芝野庶明　中熊吉五郎　上田雪子　水田千加　上田すみれ　夏山春子　松田好市　西戸内仙子　鳥野初子　小林千咲　氷見喜穂子　堀　久子　細井和子　井林寿奈子　森繁治之　宇山尚志　口上紀代子　松本　博　北川信吾　橋本豊二郎　吉塚孝次　梅田　實　川端敏治　川端敏子　前田幸子　北川良子　杉村宏代　春田芳伸　野田マッヨ　林　令子　井藤正昭　小林はなえ　松井聡永　高橋宗治　高橋由紀子　里井修雄　呉氏裕美　森　美香子　吉原治夫　堀　久子　宮村孝次郎　三井紘一　佐田次男　人江武史　武本博子　西上利和　山下知余子
◎柳田智俊　（計39名）

### 台高・伊勢辻山から朝神平

9月23日(日)　曇り（ガス）
近鉄榛原駅8・30（バス）大又9・40～50―三庄小屋辻11・50―伊勢辻山12・10（昼食）13・00―国見山14・00―明神平14・25～35―大又林道終点15・35―大又16・35～45（バス）榛原駅17・40（解散）
台高縦走路のブナ林は早くも紅葉が始まり、その中をガスが漂い幽玄境を味わった。
（参加者）金森節子　川上久雄　吉植　清　川端敏治　奥野太一郎　徳田　哲　吉川裕子　永井哲男　渡辺達郎　本間俊次　湯浅次男　近藤　恭　加藤元彦　前田政雄　堤　良男　馬場正男　野口　修　瀬里鈴香　竹田芳昊　青木一郎　森田芳伸　三宅　剛　宮木真幸　宮木悦子　中西　昭　森　昌好　小林　桂　大井　洋　太田欽弥　太田広子　川中　保　森　美香子　白根清子　木本文吾　辻　行子　新出愛子　中村英雄　仲秋一郎　伊秋豊子　小林　稔　岩城豊子　明神成行　松井徳永　江上　浩　横　嘉子　西上利和　安倉正勝
○辰巳裕美　◎村田智俊　（計49名）

### 大峰・十津川から釈迦ヶ岳

9月29日(日)　◎福本勇作
雨天のため中止しました。

### 播州・七種山

9月23日(日)　曇り
JR姫路駅9・30（集合・バス）金剛城寺10・25―山門11・00―七種滝（七種神社）11・40（昼食）12・20―七種山12・50～13・05―小滝林道14・50～40―分岐15・10―金剛城寺15・40（バス）姫路駅17・00（解散）
心配した雨も降らず、急坂の尖峰を全員が完歩。73歳の白髭さんの雄姿に全員感服。山頂から雲海の岩峰、また別名播磨富士とも言われる笠形山を確認した。
（参加者）川端敏治　川端敏子　村上春代　今村　眞　森美恵子　藤村陰彦　木村　晃　熊田千枝子　小山雅子　湯浅次男　坂名由紀江　能登ヶ峰　（鈴鹿を歩く13）
9月15日(日)　晴れ
鈴鹿国定公園鈴川渓9・05―秋瀬登山口9・45―能登ヶ峰10・30―能原50～17・00（バス）北大路駅17・30（解散）―山町柳駅
快晴、薫風と絶好の山行日和に恵まれ季節の花々が咲きほこる鈴鹿の山中を心ゆくまで歩いた。
（参加者）西田　努　橋本豊二郎　芝野庶明　川端敏子　宮坂敏彦　古川裕子　村上春代　大谷章子　石原君子　荒井寛子　広田本佐子　前田政雄　永見圭一　永見百合子　大倉完定　南　寛子　木全正秀　高木　晋　北原信夜　今西光男　瀬田敏香　藤田光彦　辻　嘉一郎　辻　良子　栄山信夫　中坪吉五郎　小林政男　三宅　明　網木美恵子　上坂延夜　新上　明　谷村つね子　長沢佑美　中村美雄　細井幹子　加藤佳彦　風見敏子　倉元ミツエ　青柳　勝　藤　幸子　大音繁佳子　深坂　寛　深雪早子　下川三千子　西上利和　戸根　茂　小林伊佳子　吉岡義枝　橋本秀雄　市川サエ子　中村和子　中村静子　佐々木禎子　東　敏美　山田勝雄　山本千賀子　高岡　登　◎前中　毅　（計19名）

### 伊賀・鷲ヶ岳

9月16日(振休)　晴れ
JR関西本線加太駅9・31着～40―登山口10・10～20―旧加太峠10・40～50―鷲ヶ岳11・45（昼食）12・30―旧柚ノ木峠13・15―登山口13・40―加太駅14・10～15発（解散）
涼風が吹き登りやすかった。山頂の岩場で大パノラマを満喫した。
（参加者）金森節子　宮崎慶子　里井昌子　山田明男　古川裕子　永井吉男　小田潤子　前田政雄　高岡信男　高杉　博　渡辺達郎　中野拙二　加藤元彦　鈴木吉和　川上久雄　中村静香　青木一雄　○中村　登　◎長元一彦　（計29名）

### 茶臼・恵那山

9月8日(日)　曇り時々晴れのち雨
JR中津川駅前7・00（集合・タクシー）黒井沢登山口7・50―野熊ノ滝9・40～50―恵那山頂11・40―山頂運転小屋11・50（昼食）12・50―野熊ノ池14・00～20―黒井沢登山口15・30（解散）
あいにく見晴らしが悪く、南アルプスや中央アルプスは望めませんでした。百名山だけに登山者が多く、駐車場は満杯でした。
（参加者）金森節子　夏山春子　田中博子　宮坂敏彦　佐田芳英　明神成行　今村　眞　西島上行　吉森孝次　加藤元彦　梅田　實　佐田次男　熊木秀雄　梅澤幸司　○奥井宰生　◎舞見守康　（計16名）

### 鞍馬山経塚巡り（大理ハイク21）

9月12日(日)　晴れ
北大路駅8・30（バス）旧道経れ9・20―旧花背峠9・30―鞍馬山尾根取付点9・55―鞍馬山11・15～30―南尾根経塚12・00（昼食）12・50―竜王峠14・15～35―奥王峠15・00―平坦部経塚15・20～30―戸谷峠三角点16・00～静原大皇社16・

岡田　昇　中村静香　岡田恵美子
石田豊美　今津省司　川端忠美子
古田裕子　栗原靖子　安田文美江
渡田久子　船越利明　船越みよ子
江尻節子　岩崎宗子　今井國雄
渡辺順一　菱岡克子　中村啓一
扇　久子　岡　彰　野里マツヨ
青木一雄　三井紘一　白鳥良男
島田登子　岡田春美　中上紀代子
山本武臣　山本孝子　元砂てるよ
中川法恵　山本　勉　金沢あき子
美村孝治　木島清子　井林寿奇子
星加弘之　明神成行　藤丸隆夫
藤丸美和子　西島　正
○井上　保　◎須藤隆　船　（計54名）

御池岳主稜線と池を巡る　（鈴鹿を歩く14）

9月29日(日)　曇り
桜倉橋8・30—ヒルコバ10・00—御花池10・35—ヒョウタン10・55—丸池11・35—ボタンブチ11・55（昼食）12・30—幸助の池12・40—風池—丸山13・20—山西池—丸池—ウリハダカエデの池13・50—草原池—元池14・10—鈴北岳14・30—伊勢谷林道15・50—桜倉橋16・00（解散）
蒼むしたオウイタヤメイゲツの林やカレンフェルトが続くけもの道をたどり御花池・丸池そしてボタンブチの大湿地台、……次々と変化する御池岳縦断ルートを堪能した。
（参加者）大石將美　井上貴子
中川博史　馬場好子　高木恵美子
小島智子　池田豊隆　池田繁美
森澤二博　森澤淑子　豊田夏雄子
吉原　務　小西静雄　岡崎幸三
宮村信夫　小林　稔　河村忠夫
池田豊子　園井幸生　多賀久子
多賀周二　寺井恒夫　河辺牧男
小林　実　川上久堅　藤橋　宣
則定保夫　○山本久雄　（計29名）
◎岩野　明

愛宕三山　（木曽ハイク25）

10月3日(水)　雨のち晴れ
湯船9・10—愛宕神社11・05（昼食）12・00—愛宕電ヶ岳登り口12・55—13・05—電ヶ岳13・50—14・00—地蔵山登り口14・45—55—地蔵山15・25—35—越知16・40—55（バス）JR八木駅17・20（解散）
愛宕山塊にそびえる三つの900b峰の頂に立った。中でもハイライトは電ヶ岳への急登で、小雨にけむる愛宕谷湿原域の景観ともに、忘れ得ぬ思い出になった。
（参加者）川嶋敏子　宮表敏彦
大谷章子　前田政雄　古川裕子
馬籠忠男　古川裕子　中埜吉五郎
佐藤雲義　城月満幸　成川みさお
藤田光彦　氷見周二　氷見喜彦子
石原考子　浦上　明　木寺通子
村上雨子　川上久堅　竪田美奈子
河部邦彦　辻　行子　白根清子
木田博子　吉岡義枝　岡原定夫
磯田弘志　河辺綾子　美村孝治
田畑三郎　西上利和　風見繁子
東　直美　松本いつ子
◎前中　毅　（計35名）

紀泉・和泉葛城山（地図読み18）

10月6日(日)　晴れ
南海岸和田駅8・30（乗合）8・45（バス）牛滝山9・25—55—二十二丁峠11・28—和泉葛城山12・05（昼食）13・10—槻原14・45—15・30（バス・半中解散）氷間駅
快晴に恵まれた一日。山頂では龍門山や関西新空港を対象にして地形図とコンパスの使い方を勉強した。
（参加者）有江照子　鈴木敏子
佐藤芳子　熊木　忠　熊木三代子
森本正雄　藤田明子　岩本いすゞ
山科邦彦　竹田光男　竹田トシ子
村上春代　前田政雄　坂本千恵子
森澤二郎　森澤淑子　瀬戸内伸子
梅田　寅　川端敏治　奥野太一郎
上羽　宏　上羽　薫　田中三恵子
前田幸子　北川良子　竹本千津子
森本正雄　高月ミツヨ
○口村　登　◎塩見一彦（計30名）

城丹国境尾根を歩く　（京都北山歩き46）

京都駅八条口8・00（バス）大森東町9・20—50—長谷公園終点10・30—ナベクロ峠11・20—祝父谷峠分岐鉄塔11・30—P842bの西峰広場11・40（昼食）12・30—飯森山13・30—天童山14・05—15—ノウ谷林道15・20—牛滝15・30—大森中町16・00（バス）京都駅17・00（解散）
ゆったりと域内国境を縦走した。長谷は林道がのびて終点からナベクロ峠までは一枚道だった。
（参加者）富岡廣子　芝野庸明
大村絹忠　呉比裕美　中牟吉五郎
隣　嘉子　武部　剛　武部美恵子
入江武史　古川裕子　宮村孝次郎
森脇良義　佐田次男　橋本豊二郎
木全正秀　松本　博　坂多野恵子
吉田　清　仲秋一郎　仲秋恵子
大谷章子　木寺通子　広田不佐子



上坂延枝　多賀周二　本岡俊次
岡田正治　東谷　宏　辻　行子
白根節子　高橋憲治　高橋由紀子
阿部邦彦　深坂　寛　深坂昌子
瀬里綾香　杉村安代　山下知余子
岡原定夫　林　今子　網木美恵子
田中博幸　加藤元彦　松下　武
小堂　学　稲田節子　久保田英次
西村泰治　渡辺順一　岡　彰
前田政雄　○中西信行
◎村田智愛　（計53名）

蓮華・荒島岳

10月13日(日)　曇りのち晴れ
勝原スキー場駐車場8・00（集合）—リフト終点8・40—シャクナゲ平10・40—荒島岳11・15（昼食）12・30—シャクナゲ平13・15—リフト終点14・20—勝原スキー場駐車場15・00（解散）
雨後のぬかるみのひどい急登の連続に疲れましたが、平坦にわずかに咲いた白山のてっぺんと、原生林的なブナ林の景観に感激し、心から満足できる山旅でした。
（参加者）金森節子　夏山尋子
古川裕子　田中禮子　堺和成行
加藤元彦　小林　桂　岡明二三男
森脇良義　田口友一　田口雅子
西上利和　○奥井宰生
◎鷲見守康　（計14名）

多紀アルプス・三嶽と小金ヶ嶽

10月13日(日)　晴れ
JR藤山口駅9・51（バス）小金口バス停10・55—御坐谷橋11・55—小金ヶ嶽12・23（昼食）13・00—大峰13・52—三嶽14・40—大岳寺跡15・50—火打岩バス停16・05（解散）
すばらしい秋空となった。小金ヶ嶽の岩峰に快、歓声をあげた。
（参加者）小島和子　井上貴子
小林　登　藤村徳彦　森澤愛美子
岡田真介　岡田　昇　岡田恵美子
今村　眞　小田利子　多賀周二
多賀久子　木村　晃　本庶俊次
石田豊美　島田孝子　蜂谷田紀江
新山多子　西内美二　堀　久子
川端敏子　船越利明　船越みよ子
川端恵美子　西島　正
○今津省司　○須藤隆　朝
◎井上　保　（計28名）

御池岳西峰・奥の平　（鈴鹿を歩く15）

10月13日(日)　晴れ
御池林道登山口9・10—P879—P967—P1118—東池10・40—南峰12・05（昼食）12・45—奥の池13・10—P1194—13・20—東のボタンブチ13・35—土倉岳14・35—小文谷林道15・55—御池谷林道分岐16・20（解散）
秋空の御池岳奥の平は紅葉に彩られ、南峰では雄大な眺望を楽しんだ。奥の池は太古の静寂に紅葉と青空を写していた。リュウノウギクが咲き乱れる東のボタンブチでは大パノラマを堪能した。
（参加者）小林　実　谷　久雄
高杉　博　清水孝也　河村忠夫
池田彦逸　池田繁美　河辺牧男
高杉孫三郎　篠崎武男
◎岩野　明　（計11名）

南山城・鷲峰山（木曽ハイク26）

10月17日(木)　晴れ
京阪宇治駅8・58（バス）瀧屋谷9・30—茶臼山神社9・50—10・00—鷲峰山三角点11・10—25—空鉢峰11・55（昼食）13・02—金胎寺13・10—20（分場めぐり）16・20—25—大塔寺コース—仏徳寺17・25—樋口前バス停17・55（解散）
金胎寺では参拝が遅れる「行場めぐり」にチャレンジしたが。感想は「大満足・やったぁ・感激！」と全員ニコニコ顔。秋の陽はつるべ落とし、信西塚からは三日月を仰ぎながら駅を急いだ。
（参加者）加藤佳彦　伊藤みはる
今西光男　氷見周一　氷見真彩子
大橋完道　島木　晋　菊池すみ子
中村美雄　北尾信枝　佐々木直子
西上利和　細井和子　岡田千恵子
南　宮子　藤田光彦　堅田美奈子
右近八栄子　中路加代子
◎前中　毅　（計20名）

台高・大台ヶ原

10月19日(土)～20日(日)　1泊2日
（19日　晴れ）近鉄大和上市駅9・00（タクシー）筏場林道終点10・30～20—尻橋11・00—新編水12・30（昼食）12・50—大台辻13・20～30—安心橋14・30～40—川上辻15・15～30—大台荘15・50（泊）
（20日　晴れ）大台荘7・30—開拓9・03—展望台9・30～40—林道終点11・30（昼食）12・30—小処温泉12・50（入浴・休憩）15・00（タクシー）大和上市駅（解散）
筏場からの登路はだれ一人出会わない静かな旧道。紅葉にも盛りで感激しながら歩いた。下山は小処温泉でゆっくりして、タクシー（子鹿オーバー）で駅着についた。
（参加者）横井　徹　横井恭子

近藤　稔　宮崎裕美　湯浅次男
金森節子　青木一雄　森本貞雄子
平敷英子　布施清美　山崎多恵子
貞田久子　永井栄男　篠原英明
篠原義子　熊木義雄　今西光男
富岡睦子　木村相恵　横谷啓子
桜崎哲雄　狩野英彦　木島初子
隣　嘉子　○山崎義治
◎村田智俊　（計26名）

鈴鹿・国見岳

10月20日(日)　晴れ
近鉄湯の山温泉駅8・40(出)着
湯船坂峠9・00―森流―大峰堤9・25―藤内小屋9・50―10・00―岳不動10・35～45―国見尾根11・10―ゆるぎ岩―高塚尾根11・45―国見岳11・50(昼食)12・20―石門―国見峠12・50―藤内小屋14・00～10―湯の山温泉ロープウェイ駅15・00―倉流駐車場15・10(解散)
紅葉ぼっちし。冷上寒さか。
(参加者)川本　隆　高岡清男
岡杉　博　勝田和洋　岡本美子子
木村好和　小原京男　森　美香子
山本雅子　石田真由美
○福原逸夫　◎長崎英五　(計12名)

大峰・雲尾山から天狗倉山

10月20日(日)　◎福本功作

都合により中止しました。

比良・地蔵山からツルベ岳

（水曜ハイク5）

10月23日(水)　晴れ
JR京都駅8・16発(電車)近江高島駅9・00(バス)畑9・20―登山口9・45―地蔵峠10・45―イクワタ峠11・40(昼食)12・20―ツルベ岳13・10―細川峠13・30―イブルキノコバ14・15―八雲ヶ原14・40―比良山上駅15・00(解散)
蔦紅に太陽が映え明るい雑道路は色とりどりの落ち葉を踏みしめ足どりも軽い。
(参加者)川端敏子　大橋宗造
前田政雄　奥田貞雄　松山みつ
永井吉男　加藤佳彦　山本千尋子
青木一雄　中村敏春　成川みさお
松村雅子　仲秋一郎　仲秋恵子
岡田春美　城月満幸　吉村富武
堀　久子　富田　努　千葉千枝子
竹田益英　竹田久子　岡田千恵子
山岸勝雄　中川光郎　小東マユミ
辻　行子　西沢広二　山下知余子
西上利和　野田節子　荻池すみ子
川上久堅　森田幸子　光川二美子
中澤弘子　栗岡克子　堅田美奈子
宮下陽子　美村孝治　岩野美代子
平敷英子　白根清子　右近八栄子
秋田英雄　吉岡義枝　○岡田　昇
◎湯浅次男　（計48名）

奥高野・北横谷から陣ヶ峰

10月27日(日)　晴れ
南海高野山駅9・17(バス)千手院橋9・30～40(乗合)―ロクロ峠9・55―P946―10・00～35―薄峠10・40～50―大滝11・20―北横谷林道入口11・45―作業小屋跡12・10(昼食)12・55―尾根道13・45―陣ヶ峰三角点14・05～15―桜峠15・00―奥ノ院バス停15・20(解散)
秋晴れの一日、熊野道から奥高野の大展望、高野山から大滝、北横谷の紅葉、陣ヶ峰への急登とブッシュ等変化に富んだ強いる山行だった。
(参加者)宇山尚志　久保田昭一
岡田真介　原田久子　平敷英子
足立敏子　美村孝治　千葉千枝子
美村三枝　本島清子　仲秋一郎
仲秋智子　小林　昇　真田明子
狩野東彦　湯浅次男　岡田千恵子
竹田利夫　辻　行子　白根清子
前田政雄　船越利明　船越みよ子
梅田　實　多賀久子　三木民子
福井治之　○岡田　昇　（計29名）
◎奥村誠治

清水平林道から南乙原

（紅葉を歩く16）

10月27日(日)　晴れ
白倉谷林道入口8・30(出)清水平谷林道広場9・00―清水ノ頭尾根草原10・05―清水ノ頭10・25―奥ノ畑峠10・35―南乙原11・15―南乙原11・30(昼食)12・55―南尾根ブナ林13・30―南尾根鞍部14・40―清水平谷林道15・20―駐車場広場15・40(解散)
檜林を抜けると明るいススキの海に囲れた。紅葉の衣装をまとった南乙原。変化に富んだルートからは思わず息をのむ景観が展開し全員酔ってしまった。
(参加者)山田町男　小林　稔
奥田真雄　中川博史　谷　久雄
奥井幸生　池田隆一　池田隆逢
池田繁美　鈴木　清　豊田真理子
金森節子　小田妙子　鳴定保夫
奥村一平　高橋　寛　小林　実
○上木久雄　◎岩野　明　(計19名)

塔と柿の里・斑鳩

（文学歴史探歩32）

10月27日(日)　晴れ
JR法隆寺駅9・00(集合)9・20―法隆寺10・30～45―法輪寺11・15～25―法隆寺11・50(昼食)13・20―藤ノ木古墳13・45～50―聖徳神社14・05～15―吉田寺14・25～35―法隆寺駅15・30(解散)
地蔵・柿・鐘楼・花梨・団栗、様々な出会いがあった。
(参加者)小田潤子　中村静香
春田芳仲　新山栄子　新山民子
熊木義雄　里井節男　山崎雅美子
里井昌子　増田　隆　田中一美
林　令子　宮松雅子　岩本いすゞ
中田茂子　岡田春美　杉村安代
細井和子　山本　勉　藤本雪一郎
熊谷次好　内海　孝　堀　久子
佐田次男　安達潤子　安藤志保子
森田明子　勝山義也　前田有美
前田　萌　前田泰孝　前田晃雅
木下英悦　佐藤　剛　江浦栄之
阪本南政　渡辺昌平　島谷　敦
若松秀和　辻本明彦　松本圭太
桂　弘之　中西英太　山本俊之
森野健太　谷中裕行　渡川翔平
木下道子　阪本侑子　辻本有子
若松明子　○前田知郎　（計53名）
◎松永恵一

新ハイキングクラブ関西

入会のすすめ

このページの山行例会を通じて正しい山歩きを、たのしい山仲間たちと味わいませんか。リーダー(※)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い弁代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。
あなたも新ハイキングクラブ関西に入会してたのしいお仲間になりませんか。会員には毎号「新ハイキング・別冊関西の山」(年間隔月6回分)をお届けします。会員は山行例会に優先参加できます。
入会金　500円(バッジ代)
年会費　2500円(送料共)
新ハイキングクラブ関西への入会申し込みはこの雑誌に挟入の振替用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び送付号からの送本は忘れずにご明記ください。
尚、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きますので便利です。

山行リーダー募集

リーダーは2か月に1～2回程度の山行計画を立案し、実施していただきます。
経験のある人や、やってみたいと思われる人は、当会本部(村田)までご連絡ください。
マニュアルを記した小冊子「新ハイ関西・リーダー必携」を送ります。

○新入会員紹介(3104まで)
【東京】　大森芳次　田中久子
【神奈川】　秋元妙子
【静岡】　倉島　好
【長野】　松本佳夫
【愛知】　前川久枝　安藤千鶴子
飯田山美子
【三重】　山下紹夫
【滋賀】　中桧風美　徳岡義明
【京都】　田畑二郎　郡司喜八郎
井上雅美　打越隆祐　右近八栄子
永平孝明　山下幸子　堀口昌之助
丸田　茂　郡司良江　阪東　勉
栗津典子子　藤本典夫　藤本千代
田代幸子　黒柳京子　伊藤憲一
下山　脇　伊藤好子　浅田登美子
水口紀美代
【大阪】　豊沼孝子　森谷正雄
田中雄夫　馬場俊和　中島勇二
細川芳子　竹島源郎　山田ナオミ
田中一夫　高橋義夫　本城須美子
玉置恭三　藤江　新　井戸原克彦
二口正子　鈴木辰巳　山本多慶子
村上勝子　山田振三　浅野利子
木下邦夫　中村正吾　中村美喜子
土田雪坊　日下道子　桑原　茂
前川宏三　草野紳雅子
【奈良】　渡辺仁志　中川雅久男
宮川敬子　笹桜　保
【和歌山】　汐崎　光
【兵庫】　尾崎　勉　安田六兵衛
石丸宏子　原　康浩　原　佐枝子
福永　瞭　成田秀和　成田志美子
松本寛敏　松山浩三　岡村繁二郎
岡村一栄　渡辺則夫　渡辺早苗
【愛媛】　川上福夫
【福岡】　森崎　誠　（81名）

訂正とお詫び

31号(晩秋)29ページ下段13行目「16時45分」は「16時35分」が正しい。　(酒井)
31号(晩秋)57ページ上段25行目「しづけさ」は「しるけさ」が正しい。また同ページ中段15行目の「樫原町一町……」は「樫原町一町……」が正しい。　(柴田)

「毎号お求めになりたい人へ」
前もって書店に毎号ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。偶数月の20日ごろ(隔月刊)の発売です。